

Admin Console ご利用ガイド 企業版

[2023年11月版]



Chapter 01 ライセンスの概要と購入

STEP 01	各種ライセンスについて ライセンスの種類と概要	2
STEP 02	ユーザー ID について ID の概要と種類	4
STEP 03	VIP プログラムの検討とライセンス購入について 購入計画と事前準備	6
STEP 04	VIP メンバーシップへの登録方法 初回登録	8

Chapter 02 Admin Console の概要と画面構成

STEP 05	Admin Console の特徴とログイン方法 Admin Console の概要	10
STEP 06	Admin Console の画面構成について 画面構成	12
STEP 07	ユーザー指定ライセンスを展開する準備について ユーザー ID の種類別の設定の流れ	18

Chapter 03 Adobe IDの管理

STEP 08	パッケージ（インストーラ）の作成方法 20 パッケージ（インストーラ）
STEP 09	ユーザーの追加と削除方法 24 ユーザー
STEP 10	ユーザーグループの追加と削除方法 26 ユーザーグループ
STEP 11	複数ユーザーの一括登録の方法 28 CSVファイルによる一括操作
STEP 12	製品ライセンスの追加方法 32 製品ライセンス
STEP 13	製品プロファイルの割り当てと解除方法 34 製品プロファイル
STEP 14	製品の割り当てと解除方法 38 製品
STEP 15	ユーザーグループ管理者の追加方法 40 ユーザーグループ管理者
STEP 16	その他の管理者の追加方法 42 製品管理者、製品プロファイル管理者
STEP 17	ストレージの管理方法 44 ストレージ
STEP 18	監査ログの確認方法 46 監査ログ
STEP 19	アセット・認証の設定方法 48 アセット設定・認証設定
STEP 20	デバイスへのデプロイ（インストール）方法 50 デプロイ（インストール）

Chapter 04 Enterprise ID の管理

STEP 21	ドメインクレームの設定方法 56 ドメインクレーム
STEP 22	パッケージ（インストーラ）の作成方法 60 パッケージ（インストーラ）
STEP 23	ユーザーの追加と削除方法 64 ユーザー
STEP 24	ユーザーグループの追加と削除方法 66 ユーザーグループ
STEP 25	複数ユーザーの一括登録の方法 68 CSVファイルによる一括操作
STEP 26	製品プロファイルの割り当てと解除方法 72 製品プロファイル
STEP 27	ユーザーグループ管理者の追加方法 76 ユーザーグループ管理者
STEP 28	その他の管理者の追加方法 78 製品管理者、製品プロファイル管理者
STEP 29	ストレージの管理方法 80 ストレージ
STEP 30	監査ログの確認方法 82 監査ログ
STEP 31	アセット・認証の設定方法 84 アセット設定・認証設定
STEP 32	デバイスへのデプロイ（インストール）方法 86 デプロイ（インストール）

Chapter 05 Federated ID の管理

STEP 33	ディレクトリと Azure AD の設定方法	90
	ディレクトリ/ドメイン	
STEP 34	ディレクトリと Google ドメインの設定方法	104
	ディレクトリ/ドメイン	
STEP 35	パッケージ (インストーラ) の作成方法	114
	パッケージ (インストーラ)	
STEP 36	ユーザーグループの追加と削除方法	118
	ユーザーグループ	
STEP 37	製品プロファイルの割り当てと解除方法	120
	製品プロファイル	
STEP 38	ユーザーグループ管理者の追加方法	124
	ユーザーグループ管理者	
STEP 39	その他の管理者の追加方法	126
	製品管理者、製品プロファイル管理者	
STEP 40	ストレージの管理方法	128
	ストレージ	
STEP 41	監査ログの確認方法	130
	監査ログ	
STEP 42	アセットの設定方法	132
	アセット設定	
STEP 43	デバイスへのデプロイ (インストール) 方法	134
	デプロイ (インストール)	

Chapter 06 Global Admin Console の概要

STEP 44	Global Admin Console について	138
	グローバル管理	
STEP 45	グローバル管理の導入方法	140
	グローバル管理	

各種ライセンスについて

バリューインセンティブプラン (VIP) の概要

VIPとETLAについて

ライセンスの概要やプランの比較などは、以下のWebページからも確認できます。

▼アドビ購入プログラム

<https://www.adobe.com/jp/howtobuy/buying-programs.html>

アドビバリューインセンティブプラン (VIP) は、アドビ Creative Cloud をはじめとする多彩なアプリケーションを手軽に導入・管理できるサブスクリプションライセンスプログラムです。契約は1年間の一括払いを基本として、最長3年間まで延長可能。購入ライセンス数に合わせてディスカウントも適用されます。必要なライセンス数や契約期間に変更が生じやすい小中規模の企業におすすめです。

さらに、煩雑になりがちな管理作業からデバイスへのデプロイ (インストール)、セキュリティ設定までを Web ツールの「Admin Console」で一元的に管理できるので、担当者の負担を大幅に削減できます。

エンタープライズタームライセンス契約 (ETLA) の概要

エンタープライズタームライセンス契約 (ETLA) は、大規模な組織に Creative Cloud などのアプリケーションをまとめて導入したいときに最適なプランです。契約は3年間で、使用するサブスクリプションをあらかじめ決めておけば、毎年決まった金額を支払うだけになるため、予算計画が立てやすく、効率的にアプリケーションを利用できます。

また、ユーザーの登録やセキュリティ設定などの管理作業などは、VIPと同じく、Web ツールの「Admin Console」で一元的に対応できます。

●VIPとETLAの比較

	対象製品	組織の規模	契約期間	支払方法
VIP	Creative Cloudグループ版/エンタープライズ版、Adobe Acrobat DC	小～中規模	1～3年間	一括
ETLA	Creative Cloudエンタープライズ版、Adobe Document Cloudエンタープライズ版、Adobe Captivate、Presenterなど	大規模・グローバル規模	3年間	年に1回まとめて注文

ユーザー指定ライセンスの特徴

ユーザー指定ライセンスはCreative CloudおよびDocument Cloud製品を使用するためのライセンス方式です。デバイス（コンピューター）ではなく、ユーザー1人ずつに対してライセンスが割り当てられます。オフィスだけではなく自宅のコンピューターなどでも同じアプリケーションが利用できます。

●ライセンスの種類

契約時に決定します。

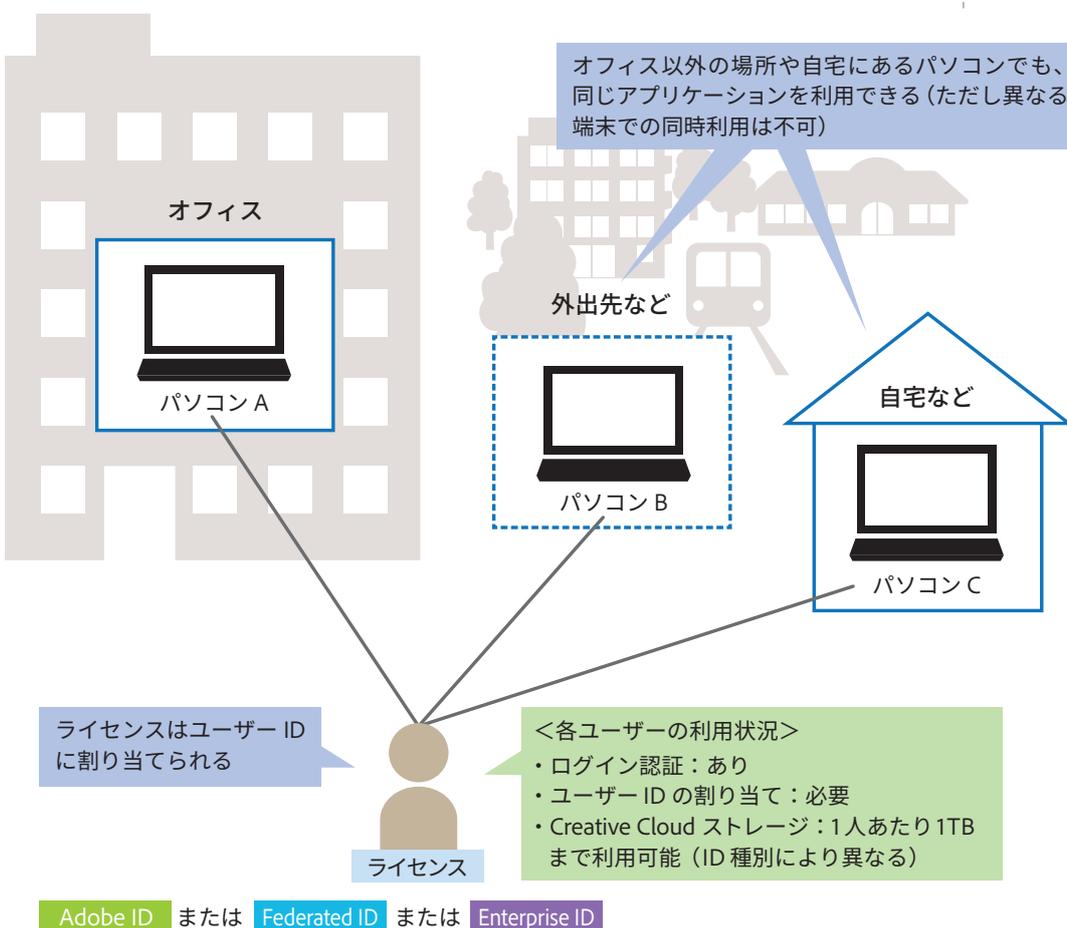
●ライセンスの必要システム構成

ユーザー指定ライセンスの必要システム構成は、以下の通りです。

なお、Creative Cloud アプリケーションごとの詳細については、Creative Cloud必要システム構成を参照してください。

- ・ユーザー ID の割り当てと管理：必要
- ・利用できるクラウドサービス：Adobe Sign、Adobe Fonts、Creative Cloud ストレージ1TB他

! ユーザー指定ライセンスでは、1ユーザー（1つのID）につき、2台の端末にインストールが可能です。ただし、同時利用はできません。



1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

ユーザー ID について

ユーザー ID の概要

デバイスの利用方法

ユーザー指定ライセンスを利用するには、ユーザー ID とパスワードを入力してログインします。

その際、Admin Console で設定したユーザーアクセスポリシーに該当するユーザーのみ、アプリケーションを利用できます。

●ユーザー ID とは

ユーザー ID はアドビの製品やサービスの利用に必要なもので、ユーザー個人に割り当てられたメールアドレス（yamada@example.co.jp など）を ID として登録します。基本的には1人につき1つのユーザー ID が割り当てられ、複数名で同じユーザー ID を所有することはできません。



●個人の Adobe ID と組織の Adobe ID（旧 Business ID）の特徴

	Adobe ID（個人）	Adobe ID（組織）
用途	個人向け	メールアドレスを持たないユーザーのいる組織に最適
IDとデータの所有権	個人	組織
対応製品	個人版	グループ版/エンタープライズ版
メールアドレスの限定	×	不要
シングルサインオン（SSO）	×	×
IDの認証元	アドビ ^{*1}	アドビ
ユーザー IDの保存先	Admin Console	Admin Console
パスワードの保存先	アドビ	アドビ
ユーザー自身によるIDのプロファイル編集	○	△ ^{*2}
多要素認証	二重認証	二重認証
ログインの制限（場所/端末/IPアドレスなど）	×	×
ストレージの暗号化	標準	△ ^{*2}
データ（アセット）の共有制限	×	△ ^{*2}
組織主導によるデータセンターのリージョン	×	△ ^{*2}
クレジットカードの登録	○	△ ^{*2}
コンテンツのログ取得	×	Admin Console
認証ログの取得	×	×

※1: ソーシャルアカウントによるログインをサポート ※2: グループ版/エンタープライズ版によって異なる

● IDの種類

ユーザー IDは全部で3タイプあります。フリーランスや個人で利用するためには「Adobe ID」として登録します。企業などの組織単位でユーザー IDを管理・設定したい場合は、企業がAdmin Consoleで登録する「Adobe ID」と、エンタープライズ版であれば「Enterprise ID」「Federated ID」が選択可能です。各IDの特徴はP.4～5の表組を参照してください。

Business IDについて

Business IDのユーザーは、すべてAdobe IDという表記になりました。詳しくは、以下のページを確認してください。

▼Admin Consoleでのユーザー (IDタイプ)の表示変更について

<https://community.adobe.com/t5/エンタープライズ版ヘルプ-discussions/admin-console-でのユーザー-idタイプ-の表示変更について/td-p/13757932?profile.language=ja>

1
2
3
4
5
6

Admin Consoleにおけるユーザー IDの設定・管理

● IDの種類によって管理・設定方法が異なる

企業などの組織では、各自にユーザー IDを割り当てた後、Admin Consoleを使ってユーザー IDを設定または管理します。

Admin Consoleでは、登録したユーザー IDをグループ分けして管理しやすくしたり、製品ライセンスなどを割り当てたりできるほか、ID種別によっては、Admin Console上でユーザー IDを作成または削除もできます。

ID種別ごとのAdmin Console上での設定・管理内容は、P.4～5の表組を参照してください。

ユーザー IDの種類変更について

ユーザー IDをAdobe IDからEnterprise IDへ、Adobe IDからFederated IDへの変更は、Admin Console上で設定可能です。

ただしEnterprise IDからFederated IDへ、またはFederated IDからEnterprise IDへの変更はアドビサポートに問い合わせてください。

● Enterprise IDとFederated IDの特徴

	Enterprise ID	Federated ID
用途	SSOを利用していない組織に最適	SSOを利用している組織に最適
IDとデータの所有権	組織	組織
対応製品	エンタープライズ版	エンタープライズ版
メールアドレスの限定	○	○
シングルサインオン (SSO)	×	○
IDの認証元	アドビ	組織のIdentity Provider (IdP) SAML 2.0によるフェデレーション
ユーザー IDの保存先	Admin Console	組織のディレクトリとAdmin Console
パスワードの保存先	アドビ	組織のディレクトリ
ユーザー自身によるIDのプロファイル編集	×	×
多要素認証	二重認証	IdPにより実現
ログインの制限 (場所/端末/IPアドレスなど)	×	IdPにより実現
ストレージの暗号化	専用	専用
データ (アセット) の共有制限	○	○
組織主導によるデータセンターのリージョン	○	○
クレジットカードの登録	×	×
コンテンツのログ取得	Admin Console	Admin Console
認証ログの取得	×	IdPにより実現

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

VIPプログラムの検討と ライセンス購入について

VIPプログラムへの参加依頼からライセンス購入までの流れ

契約応当日について

「契約応当日」とは、現在契約しているライセンスの更新日を指します。

VIPプログラムのライセンスは、一般的に以下のような流れで購入します。具体的な日数は対応する販売店や購入側の状況によって変わるため、企業内外の担当者と連携しながら進めるとよいでしょう。

① VIPプログラムへの参加依頼

VIPプログラムへの参加を販売店に依頼します。

② VIPプログラムの招待メール受け取りと VIPメンバーシップへの参加 →STEP 04

VIPへの招待メールが届きます。STEP 04を参考にVIPメンバーシップに登録して、VIPメンバーシップIDとメイン管理者となる人のAdobe IDを関連付けます。

③ メイン管理者によるライセンス発注

メイン管理者は、VIPメンバーシップIDが発行されてからすみやかに、販売店に対して必要な数と種類のライセンスの購入を依頼します。なお、ライセンスの購入にあたっては、次ページに挙げた準備を行いましょう。

④ 契約応当日の確定

年間サブスクリプションを購入した場合は、ライセンス追加日の12ヶ月後が契約応当日（契約更新日）となります。13ヶ月以上の延長サブスクリプションを購入した場合は、販売店側で事前に契約応当日を設定します。

⑤ 12ヶ月間の契約期間開始

ライセンス購入前の計画と準備

●システム環境の把握と整備

ユーザー指定ライセンスに必要な環境が整っているかを確認します。詳しいシステム構成はP.3にあります。

●グループ版／エンタープライズ版の検討

VIPプログラムには、企業規模などによってグループ版とエンタープライズ版の2種類が用意されています。各種サービスの利用について、個人やグループ単位で詳細に管理したい、すべてのライセンスを一元的に管理したい場合は、エンタープライズ版を選択しましょう。

●ユーザー ID の種類の検討

ユーザーの認証方法や、ユーザー ID・データの所有権によって、ユーザー ID の種類を検討します。企業などの組織ドメイン以外に、派遣社員や外注先など組織ドメインとは異なるメールドメインをもつユーザー ID の管理や設定には Business ID が適しています。ユーザー ID やデータをより厳格に管理するには Federated ID が最適ですが、Federated ID の利用には認証基盤が必要となります。詳細は販売店にご確認ください。

なお、Enterprise ID または Federated ID を利用する場合は、VIP プログラムのエンタープライズ版の申し込みが必要です。

グループ版とエンタープライズ版の比較について

グループ版とエンタープライズ版の違いについては、以下のWebページに掲載されている比較表でも確認できます。

▼アドビ購入プログラム

<https://www.adobe.com/jp/howtobuy/buying-programs.html>

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

VIPメンバーシップへの登録方法

必須

アドビからの招待メールを確認する

VIP契約のメール連絡について

VIPへの招待メールが到着するので、このSTEPを参考にVIPのメンバーシップに登録します。

アドビからのメールを確認して、ユーザー登録を行います。

アドビからのメールを表示する



Adobe Value Incentive Plan をご利用いただきありがとうございます

Adobe VIP (Value Incentive Plan) をご利用いただきありがとうございます。

お客様のメンバーシップの詳細は以下のとおりです。

お客様はVIPメンバーとして、グループのために最新のアドビ製品とアップグレードを利用できます。

使用開始するには、[Admin Console](#) にログインし、ライセンスの割り当て、ユーザーの管理、組織へのアドビソフトウェアのデプロイをおこなってください。

サポートが必要な場合やご不明な点がある場合は、販売店までお問い合わせください。

メンバーシップの詳細

VIP ID: [REDACTED]
組織名: Admin Console Test Sakamoto CCT
契約応当日: 2024年01月13日 PST
タイプ: グループ版

1 [Admin Console] をクリック

ユーザー登録を開始する

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

330

331

332

333

334

335

336

337

338

339

340

341

342

343

344

345

346

347

348

349

350

351

352

353

354

355

Admin Consoleの特徴とログイン方法 **必須**

Admin Consoleについて

Admin Consoleの対応ブラウザ

- ・ macOS : Safari、Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox。いずれのブラウザも最新バージョンと最新から2番目のバージョン
- ・ Windows : Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox。いずれのブラウザも最新バージョンと最新から2番目のバージョン

●ライセンスまわりの設定をまとめて管理できる

Admin Consoleは、ユーザー指定ライセンスを割り当てたユーザー ID やユーザーグループ、セキュリティ設定やエンタープライズディレクトリとの連携設定などをまとめて管理できるWebツールです。画面上部に表示されたタブをクリックすると管理対象や機能別の画面が表示され、ITシステム管理に慣れていない人でも操作しやすくなっています。

●管理者の負担を分散できる

Admin Consoleによる管理では、ユーザーグループや製品ごとに個別の管理者を追加でき、細かい管理作業を分散させることができます。

●グループ版とエンタープライズ版の違い

VIPプログラムのグループ版とエンタープライズ版では、どちらを利用しているかによってAdmin Consoleでの管理・運用範囲が異なります。製品プロファイルの設定やEnterprise ID / Federated IDの運用、管理者によるアセット設定（ドメインによる共有制限）、専用暗号化キーの設定などは、エンタープライズ版のみで管理可能です。

●主な管理者とグループ版／エンタープライズ版の違い

管理者名	権限の範囲	概要	VIPグループ版	VIPエンタープライズ版
システム管理者	システム全体	Admin Consoleですべての管理作業が行える。各管理者の作成・委任もできる	○	○
製品管理者	製品、製品プロファイル	担当する製品に対して製品プロファイルを作成し、ユーザーやユーザーグループを追加・削除できる	×	○
製品プロファイル管理者	製品プロファイル	担当する製品プロファイルへのユーザーやユーザーグループの追加・削除ができる	×	○
ユーザーグループ管理者	ユーザーグループ	Admin Console登録済みユーザーの、担当するユーザーグループへの追加・削除ができる	×	○
デプロイメント管理者	パッケージ	ソフトウェアパッケージの作成、管理ができる	×	○
サポート管理者	サポート	エンタープライズサポートへのアクセスができる	×	○
ストレージ管理者	ストレージ	組織内ユーザーが使用しているストレージの管理ができる	×	○

Admin Console のログイン方法

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID



メールアプリを起動し、権限付与のメールを表示しておく

① [使用を開始] をクリック



Webブラウザが起動し、パスワードの入力画面が表示された

② パスワードを入力

③ [続行] をクリック

初回ログイン時は本人確認が行われ、[〇〇 (プロフィール名) へようこそ] の画面が表示されたら [チームに加わる] をクリックする



プロフィールの選択画面が表示された

④ ログインするプロフィール名 (組織名) をクリック

Admin Console の [概要] タブが表示された



URLを入力してログインする場合

2回目以降のログインは、以下のURLにアクセスします。

▼ Admin Console

<https://adminconsole.adobe.com/>

初回ログイン時は本人確認が必要

初めてAdmin Consoleにログインしたときは、本人確認のため指定されたメールアドレスにコードが届きます。画面の指示に従って入力した後、パスワードや国/地域の設定と、携帯電話番号の登録などを行います。

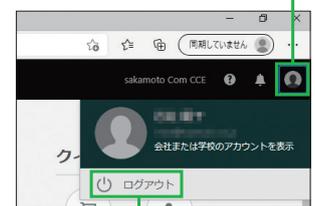
その後、設定や状況に応じて2段階認証の画面が表示されたときは、指定した携帯電話番号に6桁の認証コードが送信されます

Admin Console のログアウト

Admin Consoleは、以下の手順でログアウトします。

① 画面右上の人型アイコンをクリック

アカウント画像を設定している場合は、画像をクリックする



② [ログアウト] をクリック

Adobe ID 画面の表示方法

アカウント名表示の画面で、[会社または学校のアカウントを表示] をクリックすると、アカウントページが表示されます。

Admin Consoleの画面構成について

タブごとの画面を確認する

表示言語の変更方法

画面の左下にある [日本語] をクリックすると、多言語を選択できます。

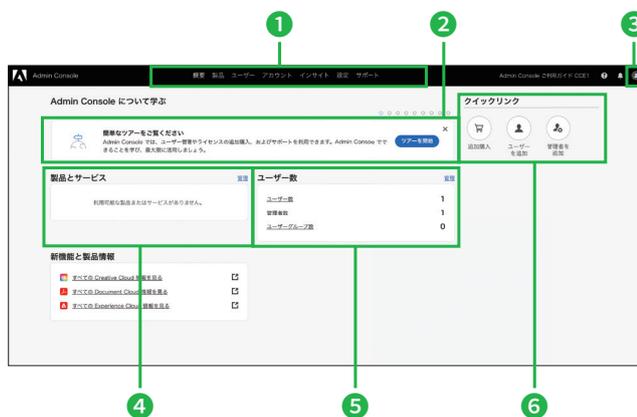


Admin Consoleは、機能別にまとめられたタブをクリックして、ライセンスやユーザー ID や製品、製品プロファイルの管理、設定を行います。まずは全体的な構成を確認しましょう。

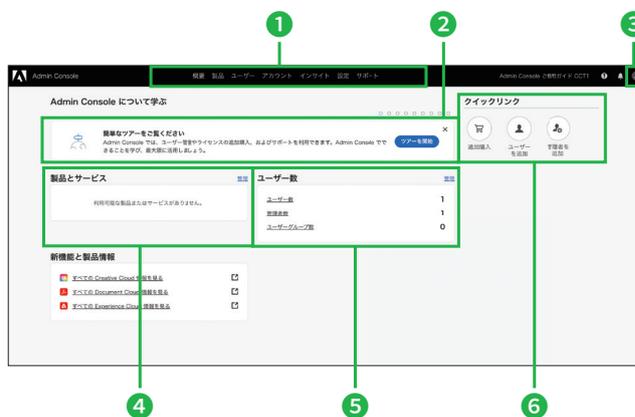
● [概要] タブ

Admin Consoleにログインすると最初に表示される画面です。契約中のライセンスや製品の一覧が表示され、ライセンスの割り当て状況も確認できます。

エンタープライズ版



グループ版



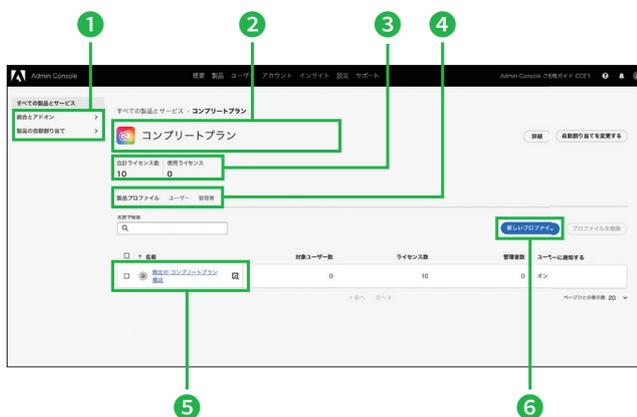
- ① ここをクリックすると、各画面が表示される
- ② 管理者が設定すべき内容が設定状況によって表示される
- ③ ここをクリックすると、[ログアウト] が表示される
- ④ 契約中の製品やライセンス一覧と、その割り当て状況が表示される

- ⑤ ユーザー数や管理者数、ユーザーグループ数が表示される
- ⑥ ユーザーや管理者の追加のクイックリンクが表示される

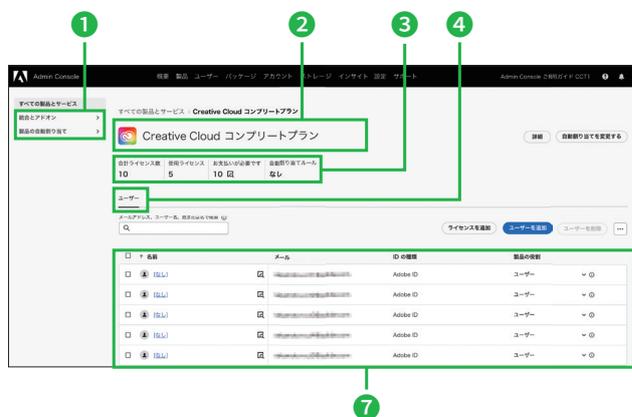
● [製品] タブ

製品や製品プロファイルの一覧が表示されます。この画面で製品や製品プロファイルの追加と削除、ユーザーや管理者の割り当てが行えます。製品プロファイルはエンタープライズ版でのみ表示されます。

エンタープライズ版



グループ版



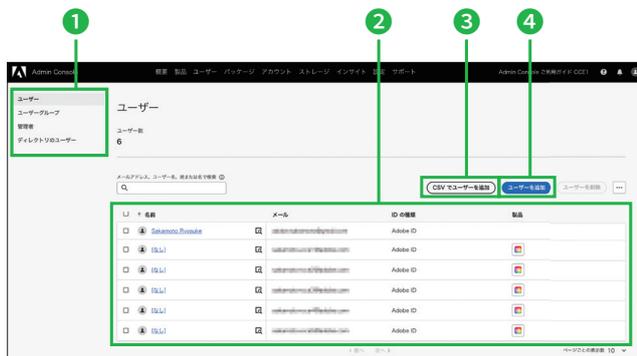
- ① ここをクリックすると、製品を切り替えられる
- ② ①で選択した製品名が表示され、[詳細] をクリックすると製品の詳細が表示される
- ③ 製品名または製品プロファイル名の下にライセンス数や割り当て状況が表示される
- ④ ①で選択した製品の製品プロファイル、ユーザー、管理者の一覧が表示される

- ⑤ 作成した製品プロファイルの詳細が表示される
- ⑥ ここをクリックすると、新しい製品プロファイルが作成できる
- ⑦ 製品が割り当てられたユーザーが表示される

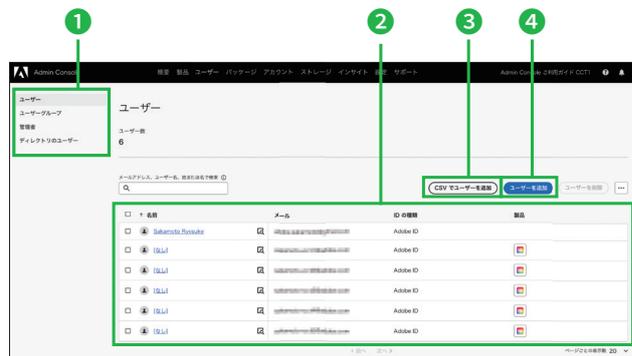
● [ユーザー] タブ

Admin Consoleに登録されたユーザー一覧が表示されます。この画面でユーザーやユーザーグループの登録と削除ができ、製品や製品プロファイルへの割り当ても操作できます。

エンタープライズ版



グループ版



- ① ユーザーやユーザーグループの一覧が表示される。個別のユーザー名またはユーザーグループ名をクリックすると、詳細画面が表示される
- ② 登録されたユーザー一覧が表示される

- ③ ここをクリックすると、CSVファイルに登録したユーザーをまとめて登録できる
- ④ ここをクリックすると、新しいユーザーが追加できる



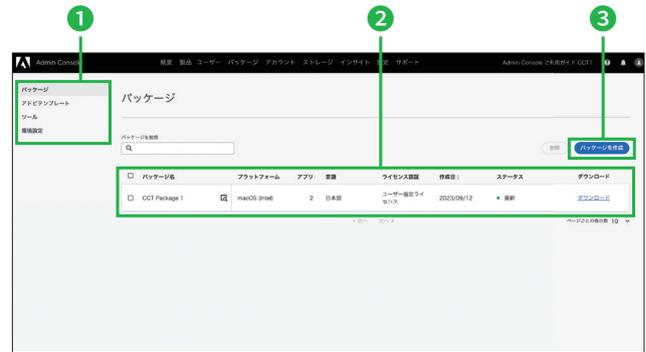
● [パッケージ] タブ

パッケージの一覧が表示されます。この画面でパッケージやAdobeテンプレートなどの作成が行えます。

エンタープライズ版



グループ版



① ここをクリックすると、パッケージなどの一覧表示が切り替えられる

② パッケージ一覧が表示される

③ ここをクリックすると新しいパッケージが作成できる

● [アカウント] タブ

製品とライセンスなど各種の契約内容が表示されます。なお、[アカウント] タブの表示内容は購入プログラムによって異なります。

! ETLA版では[アカウント] タブは表示されません。VIPの場合はエンタープライズ版/グループ版にかかわらず、基本契約内容が確認できます。

契約オーナーについて

[アカウント] 画面に表示されている契約オーナーがメイン管理者となります。担当者を変更する場合は、名前の右にある[変更] をクリックします。詳細は次ページを参照してください。

エンタープライズ版



グループ版



● [ストレージ] タブ

企業などの組織に割り当てられているストレージの合計が表示され、ユーザーの使用分や共有分、未使用分などが確認できます。

※ [ストレージ] タブは2021年9月に追加されたタブです。本書では該当する操作のみ、このタブを表示しています。

エンタープライズ版



グループ版



① ここをクリックすると、各画面が表示される

② ストレージ総量と、個人ユーザーの使用分、共有分などが色分けで表示される

③ 上位5件のユーザーごとのストレージ使用状況と、割り当て量が表示される

● [インサイト] タブ

Admin Consoleのアクティビティログを確認するには、この画面から操作します。なお、アクティビティログの保持期間は90日間です。

エンタープライズ版



グループ版



※ [インサイト] タブは2021年5月に追加されたタブです。本書では該当する操作のみ、このタブを表示しています。

● [設定] タブ

エンタープライズ版では、Enterprise ID / Federated ID用のドメインクレーム（承認申請）を行うIDの設定ができます。エンタープライズ版/グループ版の共通として、セキュリティ担当者やコンソールの設定などが表示されます。

エンタープライズ版



グループ版



① クリックすると、各種設定の画面に切り替えられる

② 作成したディレクトリなどが表示される

③ クリックすると、新しいディレクトリが作成される

● [サポート] タブ

サポートを受けるには、この画面から操作します。メイン画面ではヘルプトピックなどを確認でき、エンタープライズ版では左のタブでサポートの種類を切り替えられます。

サポートケースについて

サポートケースでは、技術的な問題などをアドビサポートに送信して、サポートを受けられます。

エキスパートセッションについて

Creative Cloudエンタープライズ版などの利用者を対象とした電話や、Web会議を使った事前予約制のセッションです。

エンタープライズ版



グループ版



COLUMN 契約オーナー（メイン管理者）を変更する方法

システム管理者を変更する場合は、[アカウント] 画面にある [契約オーナー] の [変更] をクリックした後、以下のように操作します。なお、この操作は既存のメイン管理者しか行えません。あらかじめ後任のユーザーをシステム管理者として登録したうえで、既存の管理者が異動・退職する前に設定しましょう。

契約オーナーを変更

契約オーナーはシステム管理者でもあり、組織を代表して VIP 利用条件を承諾します。対象となる管理者がここに表示されていない場合は、[こちら](#)から管理者として追加してください。

現在の契約オーナー : sakamoto ryosuke

Q 検索

名前	電子メール
[なし]	[なし]
sakamoto ryosuke	[なし]
[なし]	[なし]
[なし]	[なし]

キャンセル
保存

[契約オーナーを変更] の画面が表示された

① 新しい契約オーナーの名前をクリック

② [保存] をクリック

新しい契約オーナーのメールアドレスにメールが送信される

新しい契約オーナーは、受信したメールの指示に従って操作し、契約オーナーを変更する

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

ユーザー指定ライセンスを展開する準備について

Adobe IDのユーザーを管理する場合 → Chapter 03

グループ版の設定について
グループ版の場合、⑥では「システム管理者」のみを追加できます。

Business IDについて

Business IDのユーザーは、すべてAdobe IDという表記になりました。詳しくは、以下のページを確認してください。

▼Admin Consoleでのユーザー (ID タイプ) の表示変更について

<https://community.adobe.com/t5/エンタープライズヘルプ-discussions/admin-console-でのユーザー-id-タイプ-の表示変更について/td-p/13757932?profile.language=ja>

Adobe IDを持つユーザーを管理する場合は、以下のような流れで運用前の設定を行います。



① (任意) パッケージ (インストーラー) の作成
→STEP 08



② (必須) ユーザーの作成 →STEP 09、11

③ (任意) ユーザーグループの作成 →STEP 10

企業などの組織が一括登録して作成する際は、Admin Consoleへ登録する作業が必要です。登録には、CSVでの一括登録などを状況によって選択します。

④ (任意) 製品ライセンスの追加 →STEP 12



⑤ (必須) 製品または製品プロファイルの割り当て
→STEP 13、14

⑥ (任意) ユーザーグループ管理者などの追加
→STEP 15、16

⑦ (任意) ストレージの確認 →STEP 17

⑧ (任意) 監査ログの確認 →STEP 18

⑨ (任意) アセット認証、認証設定 →STEP 19

⑩ (任意) デバイスへのデプロイ →STEP 20

Enterprise IDのユーザーを管理する場合 → Chapter 04



グループ版の場合、Enterprise IDによる運用は不可となります。

Enterprise IDを持つユーザーを管理する場合は、以下のような流れで運用前の設定を行います。

① (必須) ドメインクレームとID設定 →STEP 21

② (任意) パッケージ (インストーラー) の作成
→STEP 22

③ (任意) ユーザー・ユーザーグループの作成
→STEP 23-25

④ (必須) 製品プロファイルの割り当て →STEP 26

⑤ (任意) ユーザーグループ管理者などの追加
→STEP 27、28

⑥ (任意) ストレージの確認 →STEP 29

⑦ (任意) 監査ログの確認 →STEP 30

⑧ (任意) アセット設定、認証設定 →STEP 31

⑨ (必須) デバイスへのデプロイ (インストール) →STEP 32

Federated ID のユーザーを管理する場合 → Chapter 05

Federated IDを持つユーザーを管理する場合は、以下のような流れで運用前の設定を行います。特に、SSO構成による認証基盤を用いるため、より厳格なID管理が可能です。

**① (必須) SSO設定の確認、ドメインクレーム、ID設定
→STEP33、34**

② (任意) パッケージ (インストーラー) の作成
→STEP 35

③ (任意) ユーザーグループの作成 →STEP 36

④ (必須) 製品プロファイルの割り当て →STEP 37

⑤ (任意) ユーザーグループ管理者などの追加
→STEP 38、39

⑥ (任意) ストレージの確認 →STEP 40

⑦ (任意) 監査ログの確認 →STEP 41

⑧ (任意) アセット設定、認証設定 →STEP 42

⑨ (必須) デバイスへのデプロイ (インストール) →STEP 43

 グループ版の場合、Federated IDによる運用は不可となります。

Azure AD、Googleについて

Azure AD、Google (Google Workspace)の環境には、容易に接続する方法があります。

パッケージ (インストーラ) の作成方法 任意

マネージドパッケージのビルド (作成) を開始する

マネージドパッケージについて

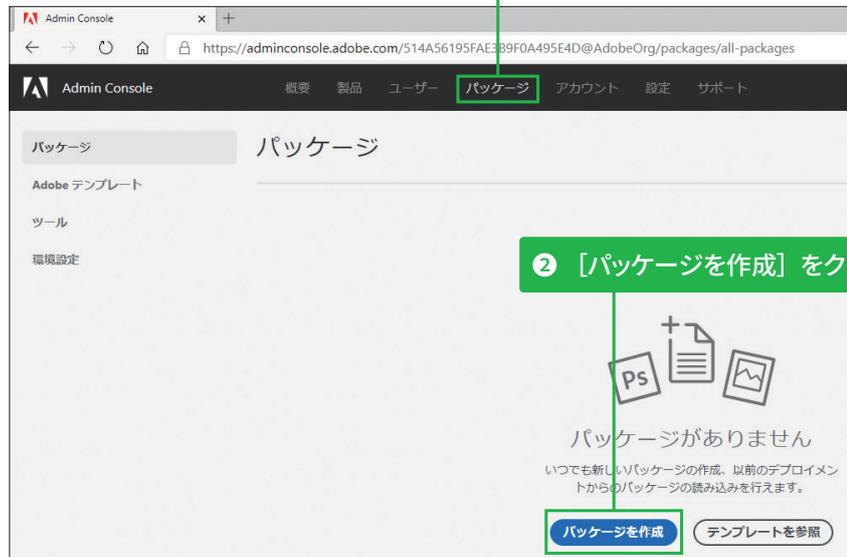
手順③の画面で [マネージドパッケージ] を選択すると、ユーザーのデバイスにデプロイ、またはインストールするアプリケーションを管理者側がカスタマイズできます。さらに、アップデートや各種設定もIT管理者が個別に制御可能です。

セルフサービスパッケージについて

手順③の画面で [セルフサービスパッケージ] を選択すると、アドビ製品のインストール権限 (OS側の管理者権限) が埋め込まれた Creative Cloud デスクトップアプリケーションの特別版が作成されます。ユーザーが自分自身で製品を選択してデプロイ、またはインストールできるうえ、ユーザー自身のタイミングでアップデートなどを行えます。これにより、組織内のIT管理者の作業負荷が削減されます。

Admin Console にログインしておく

① [パッケージ] タブをクリック



② [パッケージを作成] をクリック

パッケージ一覧が表示されている場合は、画面右上にある [パッケージを作成] をクリックする

ここでは [マネージドパッケージ] を作成する

③ [マネージドパッケージ] をクリック



④ [次へ] をクリック

パッケージの言語とアプリケーション、プラグインを選択する

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

① 使用OSをクリック

ここでは [Windows 64-bit] をクリックする

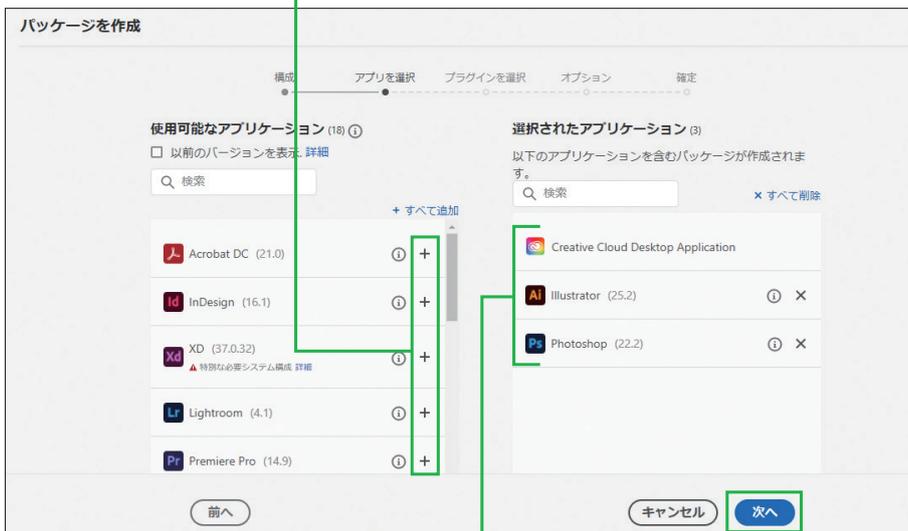


② 「言語」で「日本語」を選択

③ 画面右下の[次へ] をクリック

④ パッケージに含めるアプリケーション名の右にある [+] をクリック

すべて選択する場合は [+すべて追加] をクリック



[選択されたアプリケーション] に、アプリケーションが追加された

⑤ [次へ] をクリック

必要に応じてプラグインを選択する

ここでは追加せずに進める



⑥ [次へ] をクリック

OSロケールについて

[言語]の[OSロケールを使用]は、デバイスのOSで設定されている言語に合わせてアプリケーションをインストールできる機能です。デフォルトでオンになっているので、手順②の設定を忘れても、使用言語のアプリケーションが自動で設定されます。

⚠️ 手順①で [Windows 32bit] を選択すると、利用できる製品が極端に少なくなります。

選択アプリケーションの変更について

選択したアプリケーションを削除するには、[選択されたアプリケーション] に表示されたアプリケーション名の [X] をクリックします。

⚠️ マネージドパッケージを作成する際、手順④の画面で Acrobat を選択するのは推奨されません。Acrobatは [Customization Wizard] というツールを使用します。詳細は P.52 の「Acrobat のデプロイ (インストール) について」を参照してください。

⚠️ 手順④の画面にある [使用可能なアプリケーション] で、以前のバージョンのアプリケーションも表示する場合は事前の設定が必要です。詳細は、P.23 の COLUMN を確認してください。

オプションを確認して設定する

【管理オプション】の詳細について

【管理オプション】にある上3つの項目については、以下のWebページも確認してください。

▼ Adobe Remote Update Managerの使用

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/using-remote-update-manager.ug.html>

▼ AUSSTの概要

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/update-server-setup-tool.html>

▼ パッケージに拡張機能を含める

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/manage-extensions.html>

① 表を参考に、各項目のチェックボックスをクリックしてオン/オフに設定



● オプションの設定項目について

	項目名	説明
Creative Cloud デスクトップ オプション	セルフサービスインストールを有効化	オンにすると、エンドユーザーがアプリケーションパネルからアプリケーションをインストール・アップデートできる
	管理者権限のないユーザーにアプリの更新とインストールを許可	オンにすると、管理権限をもたないエンドユーザーのセルフサービスが有効になる
	セルフサービスのプラグインのインストールを有効化	オンにすると、エンドユーザーがCreative Cloud デスクトップアプリケーションパネルからプラグインをデプロイ・更新できる
	ファイルの同期を無効化	オンにすると、ファイルの自動同期を制限するほか、アセット機能やモバイル連携が使用不可になる
	ブラウザベースのログインを有効化	オンにすると、Creative Cloud デスクトップアプリから、ブラウザベースにログインできる
管理オプション	Remote Update Manager を有効化	オンにすると、リモートで各デバイスにアップデートをインストールできる (ヒント参照)
	内部 Adobe Update Server にリダイレクト	オンにすると、AUSSTを使用してアップデートできるようになる (ヒント参照)
	拡張機能用のフォルダーを作成して、Extension Manager コマンドラインツールを含める	オンにすると、パッケージに拡張機能を含めて作成する (ヒント参照)
	カスタムインストールディレクトリにパッケージをインストール	オンにすると、カスタムインストールディレクトリにパッケージをインストールできる

パッケージをビルド（作成）する

① パッケージ名を入力

そのほかの設定内容を確認して、変更があれば [前へ] をクリックする

② [パッケージをビルド] をクリック

! ビルドしたパッケージの有効期限は3日間です。3日を過ぎると [期限切れ] と表示され、ダウンロードできなくなります。

パッケージのアップデートについて

パッケージ内のアプリケーションにアップデートがあると「最新ではありません」と表示されます。その場合は、パッケージ名-画面右にある [パッケージを更新] の順にクリックして、更新があるアプリケーションのみをビルドするかパッケージを丸ごとビルドするかを選択し、[パッケージを更新] をクリックします。なお、期限切れのパッケージを選択した場合も新しく作成できます。

パッケージのビルド（作成）が終わるまでしばらく待つ

[パッケージ] の画面にビルドしたパッケージが表示された

パッケージ名	プラットフォーム	アプリケーション	言語	ライセンス確認	作成日	状態	ダウンロード
package02	Windows (64-bit)	3	日本語	ユーザー指定ライセンス	2020/12/03	最新	ダウンロード
package01	Windows (64-bit)	1	日本語	ユーザー指定ライセンス	2020/12/03	最新	ダウンロード

COLUMN 利用可能なアプリの複数バージョンを表示する方法

P.21にある [パッケージを作成] の画面で、複数のバージョンを表示するには、以下の設定をしてから [以前のバージョンを表示] にチェックを入れます。

① [パッケージ] タブをクリック

② [環境設定] をクリック

③ [利用可能なアプリケーションのバージョン] のここをクリックしてチェックマークを付ける

[パッケージを作成] の画面で [以前のバージョンを表示] をクリックすると、利用可能な以前のバージョンが表示される

ユーザーの追加と削除方法 必須

ユーザーを追加する

VIPグループ版の [ユーザー] タブについて

VIPグループ版の [ユーザー] タブの画面は以下の通りです。



Admin Consoleにログインして、
[ユーザー] タブを表示しておく

① [ユーザーを追加] を
クリック



[グループにユーザーを追加] の
画面が表示された

IDの種類について

[ユーザーを追加] 画面で Enterprise IDと Federated ID についての説明が表示されますが、このChapterではそのまま進めます。

グループにユーザーを追加

ここで最大 10 人のユーザーを追加できます。ユーザーはメールアドレスで指定してください。多数のユーザーを CSV で追加するには、「ユーザー」タブに移動して「ユーザーを一括追加」をクリックしてください。

ユーザー 1

メールアドレスまたはユーザー名 名前 (姓) (オプション) 名前 (名) (オプション)

製品またはユーザーグループを選択

+

ユーザー 2

メールアドレスまたはユーザー名

製品またはユーザーグループを選択

+

ユーザー 3

メールアドレスまたはユーザー名

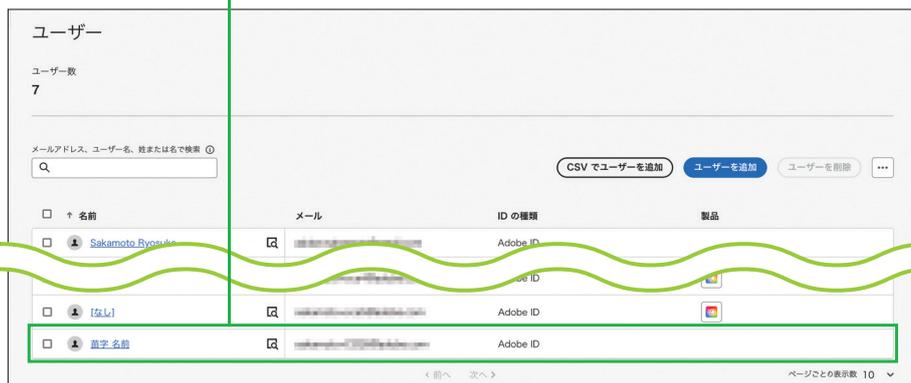
キャンセル

② ユーザーの
メールアドレスを
入力

③ [姓] と [名]
を入力

④ [保存] を
クリック

ユーザーが追加できた



ユーザーの一括作成

複数名のユーザーを一括で作成する方法は、STEP 11を参照してください。

ユーザーを削除する

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

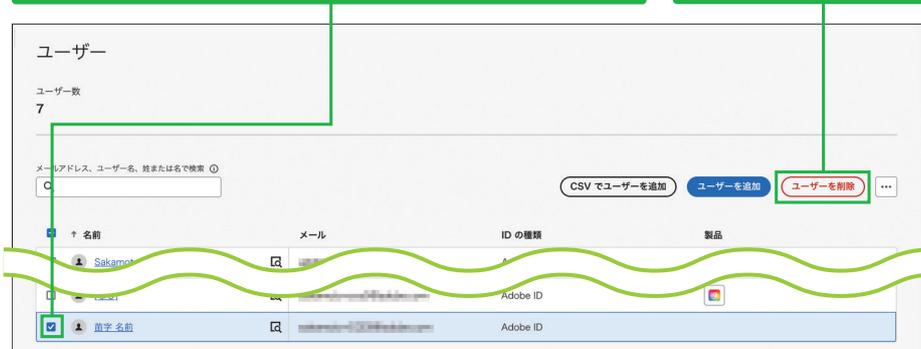
Enterprise ID

Federated ID

[ユーザー] タブのユーザー一覧を表示しておく

① ユーザー名の左にあるチェックボックスをクリックして
チェックマークを付ける

② [ユーザーを削除]
をクリック



! ユーザーに製品プロファイルやグループの割り当て済の場合は、設定ごと削除されません。

削除するユーザーのデータについて

削除するユーザーのストレージにコンテンツなどが残っていると、手順②の後に [ユーザーを削除] 画面が表示されます。データをほかのユーザーのストレージに移管するには、STEP 17を参考にメールアドレスを指定してください。

ユーザーを削除

1人のユーザーを削除しますか？

キャンセル

ユーザーを削除

③ [ユーザーを削除] を
クリック

ユーザーが削除される

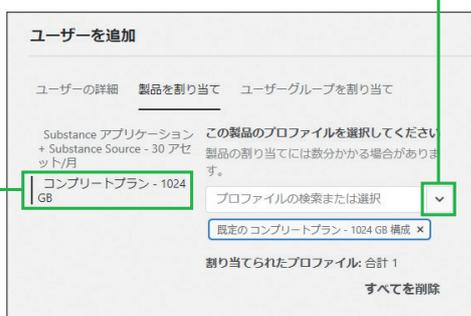
COLUMN 製品プロファイルとグループの設定方法 (エンタープライズ版のみ)

前ページ手順②の画面上部にある [製品を割り当て] と [ユーザーグループを割り当て] タブをクリックすると、ユーザーの新規追加と同じタイミングでまとめて設定できます。以下のように設定した後、[保存] をクリックします。なお、この操作はエンタープライズ版のみとなります。

● [製品を割り当て] タブ

① 製品名をクリック

② [プロファイルの検索または選択]
のここをクリック



③ 表示された製品プロファイル名
をクリック

● [ユーザーグループを割り当て] タブ

STEP 10を参考に、ユーザーグループを作成しておく

① [ユーザーグループの検索または選択]
のここをクリック



② 表示された製品プロファイル名
を選択

ユーザーグループの追加と削除方法 任意

ユーザーグループを追加する

ユーザーグループ作成の利点

ユーザーグループにユーザーをまとめておくと、製品プロファイルの割り当てがまとめて設定できるほか、ユーザーグループ管理者を作成して、ユーザーの追加と削除の操作を一任できます。

ユーザーグループの一括作成

複数のユーザーグループを一括で作成する方法は、STEP 11を参照してください。

Admin Consoleにログインして、
[ユーザー] タブを表示しておく

① [ユーザーグループ]
をクリック

② [新規ユーザーグループ]
をクリック



[新規ユーザーグループを作成]
の画面が表示された

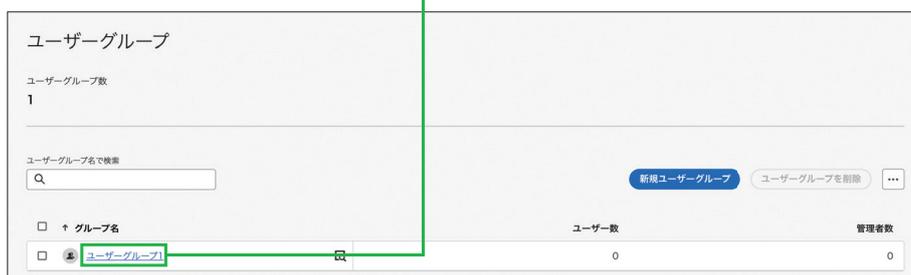
③ ユーザーグループ
名を入力

④ 必要に応じて
説明を入力



ユーザーグループが追加できた

⑥ ユーザーグループ名をクリック



ユーザーグループの詳細画面が表示できた

[ユーザーを追加] をクリックして、ユーザーを追加する



ユーザーグループの各種設定

ユーザーグループへの製品プロファイル割り当て方法はSTEP 13を、ユーザーグループ管理者の作成はSTEP 15を参照してください。

ユーザーグループを削除する

[ユーザー] タブのユーザーグループ一覧を表示しておく

① ユーザーグループ名の左にあるチェックボックスをクリックしてチェックマークを付ける

② [ユーザーグループを削除] をクリック



ユーザーグループ管理者による削除

ユーザーグループ管理者は、自分が管理しているユーザーグループは削除できますが、管理外のグループは削除できません。

③ [ユーザーグループを削除] をクリック



ユーザーグループが削除される

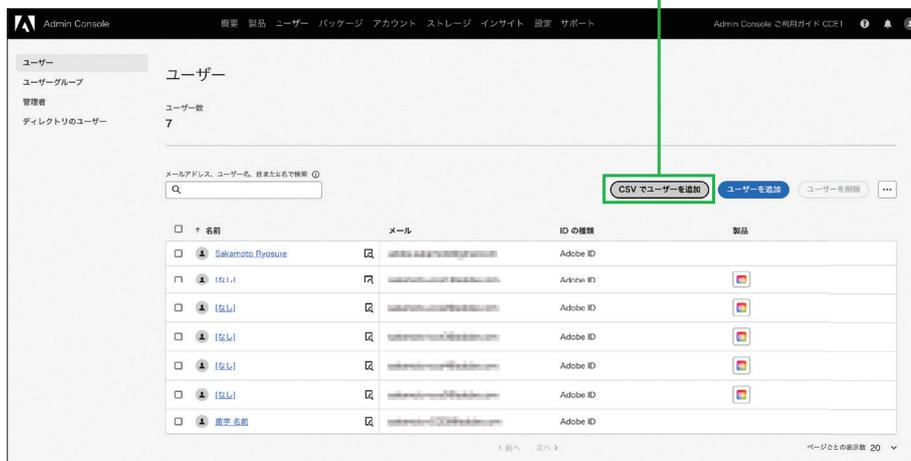
複数ユーザーの一括登録の方法

任意

CSVテンプレートをダウンロードする

Admin Consoleにログインして[ユーザー] タブのユーザー一覧を表示しておく

① [CSVでユーザーを追加] をクリック



[CSVでユーザーを追加] の画面が表示された

② [CSVテンプレートをダウンロード] をクリック



ここではユーザーリストを最初から作成する

③ [標準テンプレート] をクリック

CSV ファイルを作成する

ここでは、ダウンロードした CSV ファイルを Excel で表示する

① 2行目以降を削除

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
	ID のタイプ	ユーザー名	ドメイン	電子メール	名前 (名)	名前 (姓)	国名コード	ID	製品構成	管理ロール	管理製品構成	ユーザーグループ	管理ユーザーグループ	管理製品	開発者アクセス権
1															
2	Enterprise ID	bob@my-domain.com	my-domain.com	bob@my-domain.com	Bob	Becker	FR	123@my-domain.com	Audition - 1000 GB	Deployment		New York office, Paris office	New York office		Photoshop for New York office
3	Federated ID	cchester	my-other-domain.com	charles@my-other-domain.com	Charles	Chester	IT	234@my-domain.com		System	Audition - 1000 GB, Photoshop for New York office		New York office, Paris office	Audition, Photoshop	
4															
5															

② 表を参考に一括で追加するユーザー情報を入力

必須の入力項目以外は空欄にしてもいい

③ [CSV UTF-8] 形式で保存

ID のタイプ	Adobe ID、Enterprise ID、Federated ID から選択
ユーザー名	ASCII のみで、最大 255 文字
ドメイン	ドメイン名。指定なしの場合は「N/A」と入力
電子メール	必須項目。ユーザーのメールアドレスを入力
名前 (名)	ASCII のみで、最大 255 文字
名前 (姓)	ASCII のみで、最大 255 文字
国名コード	Enterprise ID および Federated ID は必須項目。日本は「JP」と入力
ID	設定なし
製品構成	ユーザーを割り当てる製品プロファイルのニックネームを入力
管理ロール	ユーザーに割り当てる管理ロールを入力
管理製品構成	ユーザーに管理者権限を付与する製品プロファイル名を入力
ユーザーグループ	このユーザーを追加するユーザーグループ名を入力
管理ユーザーグループ	ユーザーに管理者権限を付与するユーザーグループ名を入力
管理製品	ユーザーに管理者権限を付与する製品名を入力
開発者アクセス権	(デベロッパーのみ) デベロッパーが追加される API アクセスを含む製品の製品プロファイルの名前を入力
自動割り当て製品	前ページの手順③で [現在のユーザーリスト] を選択すると表示される。自動で割り当てる製品名を入力

! CSV ファイルを Excel で編集した場合は、[名前を付けて保存] をクリックして [CSV UTF-8] 形式で保存します。

COLUMN グループ版の CSV ファイルについて

グループ版を利用している場合、CSV ファイルは右表のように入力します。

メールアドレス	必須項目。ユーザーのメールアドレスを入力
名前 (名)	ASCII のみで、最大 255 文字
名前 (姓)	ASCII のみで、最大 255 文字
管理ロール	ユーザーに割り当てる管理ロールを入力
ユーザーグループ	このユーザーを追加するユーザーグループ名を入力
グループ版製品	ユーザーに割り当てるグループ版製品名を入力

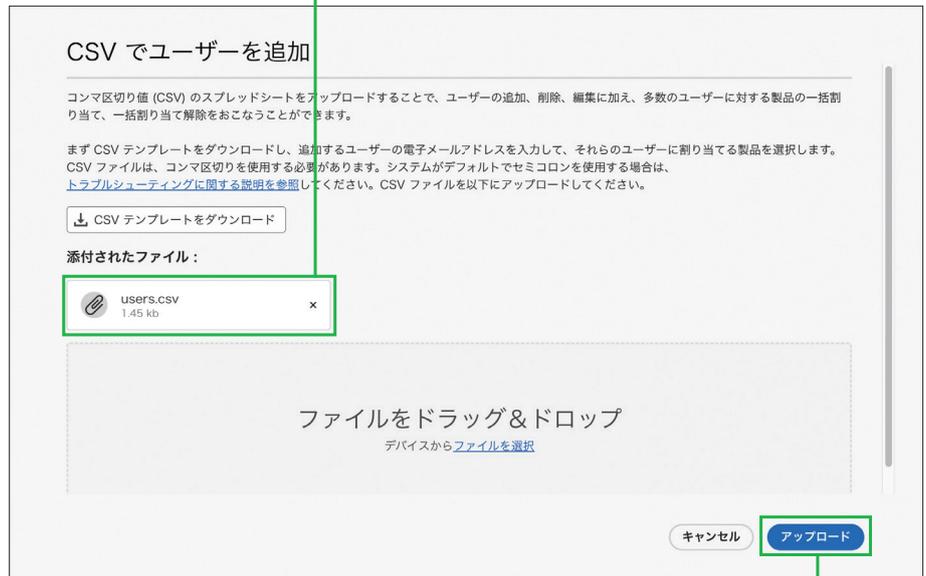
CSV ファイルをアップロードする

① ここに作成した CSV ファイルをドラッグ&ドロップ



[ファイルを選択] をクリックすると、[開く] ダイアログボックスが表示される

CSV ファイルが表示された



② [アップロード] をクリック

一括操作の結果を確認する

CSVファイルがアップロードできた

① 画面右の [...] をクリック

ユーザー
ユーザー数
7

メールアドレス、ユーザー名、姓または名で検索

CSVでユーザーを追加 ユーザーを追加 ユーザーを削除 [...]

名前	メール	IDの種類	製品
Sakamoto Ryosuke	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
真字 名前	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	

ユーザーの詳細を一括編集
CSVでIDのタイプを編集
CSVでユーザーを削除
ユーザーリストをCSVに書き出し
CSVに移行レポートを書き出す
一括操作の結果
ライセンス利用数超過レポート
ライセンスステータスレポート

< 前へ 次へ > ページごとの表示数 20

② [一括操作の結果] をクリック

操作名をクリックすると、結果の詳細が表示される

ユーザー > 一括操作の結果

一括操作の結果

結果を削除 完了した結果を消去

操作	ファイル	実行者	実行日時	ステータス
ユーザーを追加	users2.csv	Sakamoto Ryosuke	今日	完了

Webブラウザの再読み込みボタンを押して、しばらく待つ

ユーザー
ユーザー数
8

メールアドレス、ユーザー名、姓または名で検索

CSVでユーザーを追加 ユーザーを追加 ユーザーを削除 [...]

名前	メール	IDの種類	製品
Sakamoto Ryosuke	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
[なし]	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
真字 名前	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	

ユーザーを一括で追加できた

そのほかの一括登録について

ユーザーグループの作成や製品プロファイルの割り当てなども一括操作が可能です。詳細は以下のWebページを確認してください。

▼ユーザーの管理 | CSV一括アップロード

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/bulk-upload-users.html>

[一括操作の結果] 画面でエラーと表示されたら

操作名をクリックして詳細を表示すると、行別のエラー内容が表示されるので、エラー箇所を修正して、再度操作します。

▼ユーザーの一括CSVアップロード時に発生する問題に関するトラブルシューティング

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/kb/troubleshoot-bulk-user-csv-upload.html>

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

製品ライセンスの追加方法 任意

製品ライセンスを追加で購入する

[概要] タブからの追加購入について

[概要] タブの画面右側にある [クイックリンク] の [追加購入] をクリックすると、手順②の [製品を追加] 画面が表示されます。

Admin Console にログインして、[概要] タブを表示しておく

① [追加購入] をクリック



! 手順②の画面は、グループ版とエンタープライズ版両方のライセンスを保有している組織の場合のみ表示されます。

Admin Console にログインして、[アカウント] タブを表示しておく

① [追加購入] をクリック

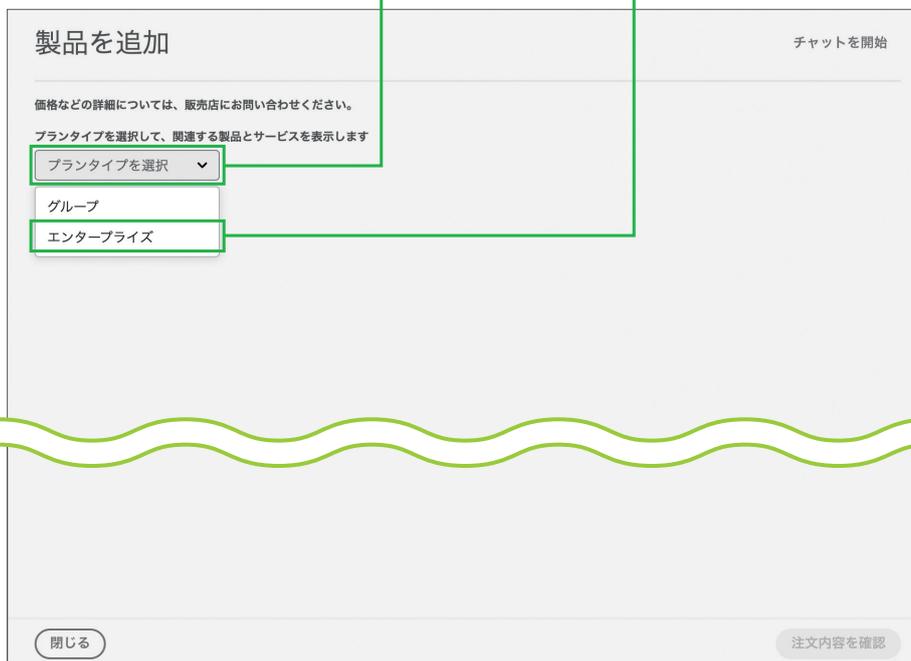


[製品を追加] の画面が表示された

ここでは、エンタープライズ版の製品を購入する

② [プランタイプを選択] をクリック

③ [エンタープライズ] をクリック



エンタープライズ版の製品が表示された

ここではコンプリートプランを選択する

4 [追加] をクリック



グループ版の製品の購入について

前ページの手順②で [グループ版] を選択すると、手順④の画面でグループ版の製品が表示されます。

[ライセンスの詳細] に選択した製品が表示された

製品名の右にある [×] をクリックすると、製品が削除される



5 [ライセンス数] の数字をクリックして購入数を選択

6 [注文内容を確認] をクリック

管理者のメールアドレスに注文内容の確認メールが送信される

購入リクエストについて

Admin Consoleで製品を購入すると、後日支払うことを約束として、製品またはライセンスを要求できます。これは「購入リクエスト」と呼ばれ、購入リクエストコンプライアンス期間となる60日以内に支払いを行います。詳しくは、以下のWebページを参照してください。

▼購入リクエストコンプライアンス

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/evip-purchase-authorization-compliance.url>

製品プロファイルの割り当てと解除方法 **必須**

ユーザーへのメール通知をオフに設定する

! このSTEPに沿って通知をオフにした場合も、新しいAdobe IDとEnterprise IDのユーザーに宛てた「製品利用開始のお知らせ（ライセンス割り当て時の通知）」メールは必ず届きます。

製品プロファイルをユーザーに割り当てると、個々のユーザーにメールが届きます。ユーザーに不要なメールが送信されないように設定したいときは、最初に以下の方法でメール通知をオフにしましょう。

Admin Consoleにログインして、[製品] タブを表示しておく



① [すべての製品とサービス] をクリック

② 製品プロファイル名をクリック

製品プロファイルの画面が表示された

③ [詳細] をクリック



製品プロファイルの設定画面が表示された

④ ここを下にスクロール

⑤ [メールでユーザーに通知] のここをクリックして、オフに設定

⑥ [次へ] をクリック

方法1：[製品] タブから製品プロフィールを割り当てる

前ページの手順②にある製品プロフィールの画面を表示しておく

① [ユーザーを追加] をクリック



未登録のユーザーへの割り当てについて

手順②で Admin Console にユーザー登録されていないメールアドレスを入力すると、製品プロフィールの割り当てと同時に Admin Console への新規登録が行われます。

② ユーザー名またはメールアドレスを入力

③ 該当するユーザー名をクリック

この製品プロフィールにユーザーを追加

この製品プロフィールに追加するユーザーのメールアドレスを入力してください。

ユーザー 1 削除

名前、ユーザーグループ、またはメールアドレスを入力 ▼ 名前 (姓) (オプション) 名前 (名) (オプション)

製品の役割

ユーザー 2

名前、ユーザーグループ、またはメールアドレスを入力

ユーザー 3

名前、ユーザーグループ、またはメールアドレスを入力

④ [保存] をクリック

ユーザーを追加できた



1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

方法2：[ユーザー] タブからプロフィールを割り当てる

割り当て方法について

製品プロフィールの割り当ては、ここで紹介する3つの方法があります。ユーザー1人ずつに割り当てる場合はこのページを、まとめて割り当てる場合はP.37を参照してください。

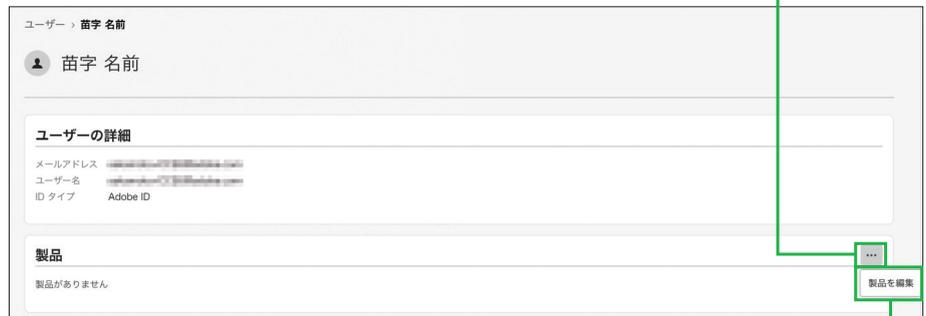
Admin Consoleにログインして、[ユーザー] タブを表示しておく

① 製品プロフィールを割り当てるユーザー名をクリック



ユーザーの詳細画面が表示された

② [製品] の[...] をクリック



③ [製品を編集] をクリック

[製品とユーザーグループを編集] 画面が表示された



④ [+] をクリック

⑤ ペンアイコンをクリック

⑥ [製品] タブに表示された製品名をクリック



⑦ 製品プロフィール名のここをクリック

⑧ [保存] をクリック

製品プロフィールが割り当てられた

方法3：ユーザーグループに製品プロファイル割り当てる

1

2

3

4

5

6

【ユーザー】タブのユーザーグループ一覧で、製品プロファイルを割り当てるユーザーグループをクリックする

① [割り当てられた製品プロファイル] をクリック



② [プロファイルを割り当て] をクリック

CSVファイルでの一括割り当て

STEP 11で説明したCSVファイルに、製品プロファイル名を入力すると、一括登録が可能です。

【製品】タブからでも割り当てられる

P.35の「方法1」で、手順①の後にユーザーグループ名を指定すると、ユーザーグループに製品プロファイルを割り当てることができます。

③ ペンアイコンをクリック

④ 製品名をクリック



⑤ 製品プロファイル名のここをクリック

【保存】をクリックすると、ユーザーグループに所属するユーザーに製品プロファイルが割り当てられる

製品プロファイルの割り当てを解除する

製品プロファイルの詳細画面にある【ユーザー】画面を表示しておく

① ユーザー名またはユーザーグループ名のチェックボックスをクリックして、チェックマークを付ける

② [ユーザーを削除] をクリックする



再度 [ユーザーを削除] をクリックする

ユーザーグループへの割り当て解除

ユーザーグループに割り当てた製品プロファイルを削除するには、左の画面でユーザーグループ名のチェックボックスをクリックして、チェックマークを付けた後、同様に操作します。

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

製品の割り当てと解除方法 必須

方法1: Admin Consoleの初回起動時に製品を割り当てる

【概要】 タブからの製品の割り当てについて

【概要】 タブの「製品とサービス」に表示された製品名をクリックすると、「製品」タブの製品画面が表示されます。その後、「ユーザーを追加」をクリックして、製品を割り当てたいユーザーのメールアドレスを入力しましょう。

Admin Consoleにログインする

① 「開始」をクリック



② 製品を割り当てるユーザーのメールアドレスを入力

製品のライセンス数に合わせ、まとめてメールアドレスを入力できる



ユーザーが設定されました

ユーザーには、使用開始の手順が記載されたメールが送信されました。

④ 「完了」をクリック

完了

【概要】 タブの「製品とサービス」に割り当てたライセンス数が表示される



方法2 : [製品] タブから製品を割り当てる

Admin Consoleにログインして、
[製品] タブを表示しておく

① 割り当てを行う製品の[ユーザーを製品に割り当て] をクリック



② ユーザーのメールアドレスを入力

③ ペンアイコンをクリック



[保存] をクリックすると、指定したユーザーに製品が割り当てられる

製品の割り当てを解除する

[製品] タブの製品名をクリックし、製品プロファイルの画面を表示しておく

① ユーザー名のチェックボックスをクリック

② [ユーザーを削除] をクリック



再度 [ユーザーを削除] をクリックする

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

ユーザーグループ管理者の追加方法

任意

ユーザーグループ管理者を追加する

ユーザーグループ管理者の操作範囲

担当するユーザーグループへのユーザーの追加と削除、製品プロファイルの割り当てと解除のほか、ユーザーグループの削除も可能です。

ユーザーグループの作成や担当外のユーザーグループの削除はできません。

STEP 10を参考に、ユーザーグループの詳細画面を表示しておく

① [管理者] タブをクリック



ユーザーグループの [管理者] 画面が表示された

② [管理者を追加] をクリック



[ユーザー] タブの [管理者] 画面からの設定

手順①の画面の左にある [管理者] をクリックすると、設定された管理者の一覧が表示されます。この画面にある [管理者を追加] をクリックしても、設定可能です。詳細はSTEP 16を参照してください。

ユーザーグループ管理者が追加された

[ユーザーグループ管理者を追加] の画面が表示された

① ユーザーグループ管理者として設定するユーザーのメールアドレスを入力

② [保存] をクリック

ユーザーグループ管理者が設定できた

ユーザーグループ管理者に設定の通知メールが届く

ユーザーグループ管理者の削除

ユーザーグループの管理者一覧画面で、管理者名の左にあるチェックボックスをクリックしてチェックマークを付けた後、[管理者を削除] をクリックします。

その他の管理者の追加方法 任意

方法1：製品管理者を追加する

製品管理者の操作範囲

担当する製品に製品プロフィールを作成できるほか、ユーザーやユーザーグループの追加と削除が可能です。

Admin Consoleにログインして、「製品」タブを表示しておく

① 製品名の「管理者」をクリック

② 「管理者を追加」をクリック



STEP15を参考に、製品管理者を追加する

方法2：製品プロフィール管理者を追加する

製品プロフィール管理者の操作範囲

担当する製品プロフィールに対するユーザーやユーザーグループの追加と削除が可能です。

製品プロフィールの詳細画面を表示しておく

① 製品プロフィールの「管理者数」をクリック

② 「管理者を追加」をクリック



STEP 15を参考に、製品プロフィール管理者を追加する

方法3：[ユーザー] タブの [管理者] 画面から追加する

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

[ユーザー] タブの [管理者] 画面を表示する

設定した管理者が一覧で表示され、[管理ロール] から担当範囲を確認できる

① [管理者を追加] をクリック



ユーザーの選択画面が表示されるので、ユーザー ID を指定して [次へ] をクリックする

[管理権限を編集] の画面が表示される

② ここをクリックして、管理者権限を切り替え



③ [保存] をクリック

⚠️ VIP グループ版では、「システム管理者」のみユーザーに割り当て可能です。

管理者に指定されたユーザーについて

ユーザーに管理者権限を割り当てると、指定したユーザーのメールアドレスに通知メールが送信されます。ユーザーは受信したメールの指示に従って Admin Console にログインすると、決められた管理作業が行えます。

管理者権限の複数の割り当て

1人のユーザー ID に複数の管理者権限を割り当てる場合は、左記の [管理者を追加] 画面で複数の権限をオンにします。

ストレージの管理方法 任意

ESM (エンタープライズストレージモデル) について

【ストレージ管理者】 について

[ストレージ] タブの画面右側にある [ストレージ管理者] をクリックすると、ストレージ管理の権限を持つユーザーの一覧が表示されます。

組織が保有するストレージ の配分について

Creative Cloudを割り当てたユーザーの人数分×1TBが組織が保有するストレージの総量です。

ESM (エンタープライズストレージモデル) は、Admin Consoleに登録されたユーザーのストレージを、企業などの組織単位で管理・統制できる機能です。管理者は、Admin Consoleの [ストレージ] タブから個々のユーザーのストレージ利用状況を確認できるほか、退職などの理由でAdmin Consoleからユーザーを削除したときに、そのユーザーが残したデータを組織内の別のユーザーに容易に移行できます。

Admin Consoleにログインして、
[ストレージ] タブを表示しておく

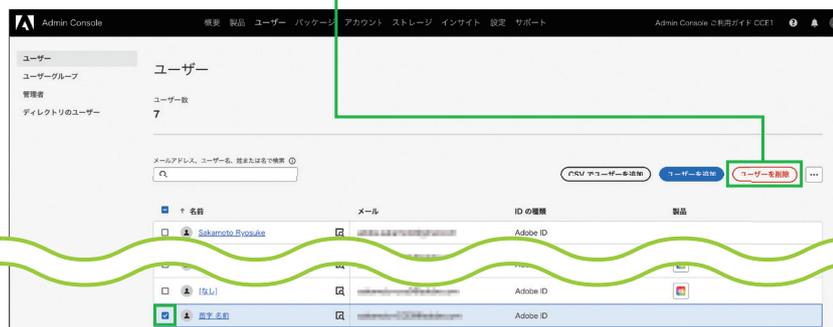
【概要】画面では組織全体のストレージ
総量と使用状況が確認できる



Admin Consoleに登録されたユーザーのうち、
【個人ユーザー】フォルダーの使用量が多い上位5名が表示される

削除されたユーザーのデータを移行する

STEP 09を参考に、削除するユーザーを指定して
[ユーザーを削除] をクリックする



削除するユーザーのストレージにコンテンツが残っていると、
[ユーザーを削除] の画面が表示される

ここではシステム管理者のメールアドレス
を指定して転送する

ユーザーを削除

ユーザーを削除すると、ユーザープロフィールとフォルダーが削除されます。削除するユーザーが所有していたフォルダーのコンテンツの管理方法を選択してください。
[削除したユーザーのアセットの再利用の詳細](#)

ストレージ移行オプションを選択

指定のユーザーにコンテンツを移管
フォルダーのコンテンツのダウンロードリンクが、下記で指定するユーザーにメールで送信されます。完全に削除されるまで、フォルダーのコンテンツは「ストレージ」タブ/個人ユーザーフォルダー/削除されたユーザーに残ります。

組織内の名前または電子メールでユーザーを選択

後でコンテンツを移管
フォルダーのコンテンツは、「ストレージ」タブ/個人ユーザーフォルダー/削除されたユーザーに30日間残ります。

コンテンツを完全に削除
コンテンツを移管せずに、ユーザーのフォルダは完全に削除されます。

キャンセル

① 転送先のメールアドレスを入力

② [次へ] をクリック

[ユーザーを削除してコンテンツを転送] の画面で
[ユーザーを削除] をクリックする

**[後でコンテンツを転送]
について**

手順①で [後でコンテンツを
転送] をクリックすると、[ス
トレージ] タブからコンテン
ツの転送設定ができます。

削除されたユーザーのコンテンツを削除する

[ストレージ] タブの [個人ユーザーフォルダー]
画面を表示しておく

① [削除されたユーザー]
タブをクリック

Admin Console 概要 製品 ユーザー パッケージ アカウント ストレージ インサイト ... Admin Console > 利用ガイド OCEI

個人ユーザーフォルダー

個人ユーザーフォルダー

ストレージレポート

ライブラリ

アクティブなユーザー

削除されたユーザー

完全に削除

フォルダー

電子メール

サイズ

1件を選択中

② ユーザー名の
ここをクリック

③ [完全に削除] を
クリック

次の画面で [完全に削除] をクリックすると、
ユーザーデータが完全に削除される

**[後でコンテンツを転送]を
選択したユーザーについて**

ユーザーを削除するときに
[後でコンテンツを転送] を
選択したときは、手順③の次
に転送先の指定画面が表示さ
れます。

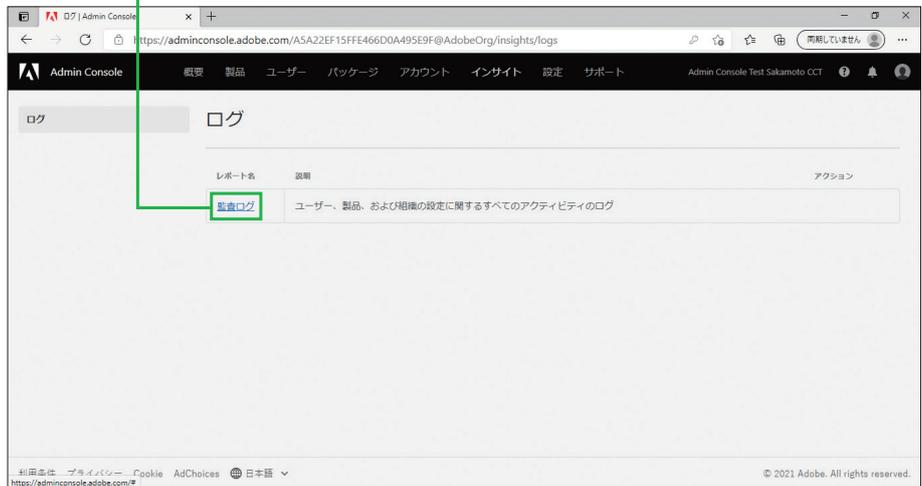
監査ログの確認方法 任意

監査ログを確認する

! [インサイト] タブでは90日間分のログが保持されます。それ以上のログを保管する場合は、次ページの手順を参考にCSVファイルをダウンロードしましょう。

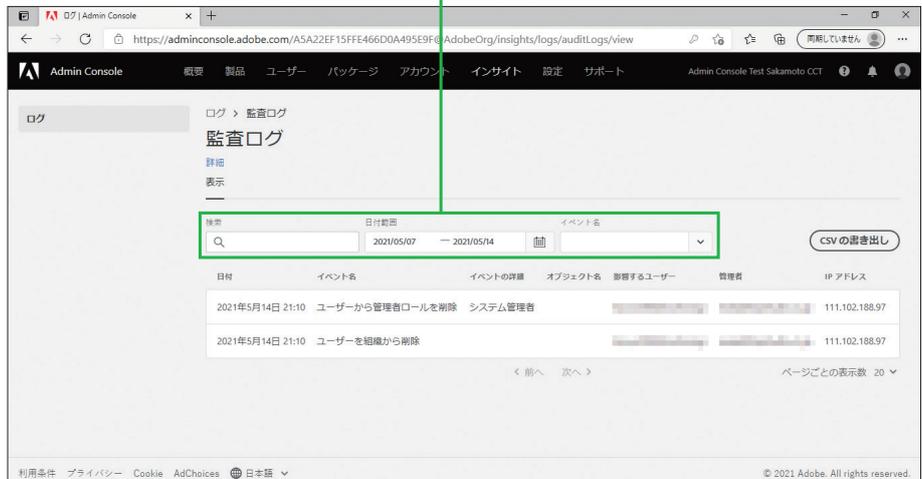
Admin Consoleにログインして、
[インサイト] タブを表示しておく

① [監査ログ] を
クリック



90日間のログが
表示された

キーワードや日付、イベントによって
検索できる



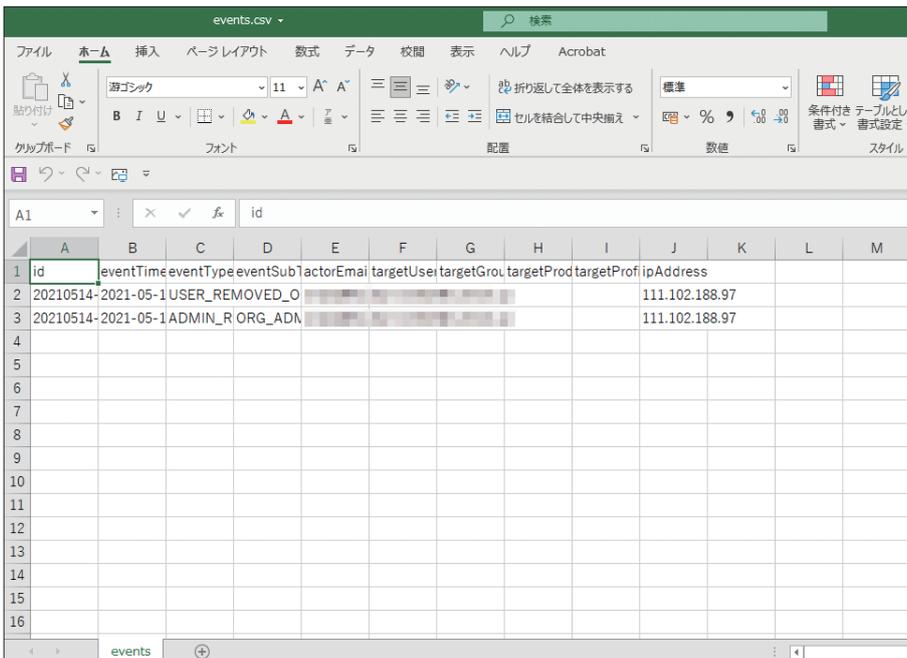
CSV ファイルをダウンロードする

Admin Console にログインして、
[インサイト] タブを表示しておく

① [CSVの書き出し] を
クリック



CSV ファイルがダウンロードされる



1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

アセット・認証の設定方法 任意

アセット設定を確認する

! アセット設定は、VIP版のグループ版では設定できません。

アセット設定の変更について

アセット設定では、Creative Cloud および Document Cloud 内のファイル（アセット）の共有方法や、アクセス可能な範囲を設定できます。組織内外への共有を制限したい場合は、デフォルト設定以外の項目を選択した後 [確定] をクリックします。詳細は以下の Web ページでも確認できます。

▼アセットの設定

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/admin-guide.html/jp/enterprise/using/asset-settings.ug.html>

Admin Consoleにログインして、[設定] タブを表示しておく

① [アセット設定] をクリック

ここでは、[共有制限ポリシー] をデフォルト設定のままを進める



② 画面を下にスクロール

ここでは、[アクセス要求ポリシー] はデフォルト設定のままを進める



認証設定を確認する

Admin Console にログインして、[設定] タブを表示しておく

① [認証タブのプライバシーとセキュリティ] をクリック

このパスワード要件は、Adobe ID または Enterprise ID を使用するすべてのユーザーに適用されます。短時間に複数回のログインの失敗が検出された場合には、すべてのパスワードレベルでロックアウト機能が動作し、悪当たり攻撃を防ぐためにアカウントが一時的に停止されます。また、すべてのパスワードレベルで、それぞれのユーザーのユーザー名をパスワードに使用することはできません。ユーザー用の認証レベルを選択してください。

使いやすい設計	より安全	最も安全
最小文字数	8	8
記号および数字	いずれも 1 文字以上	いずれも 1 文字以上
大文字と小文字	はい	はい
以前のパスワードと同じでないこと	最近の 5 つ	最近の 5 つ
有効期限	いいえ	90 日間

② [認証設定] をクリック

ここでは、[より安全] の設定に変更する

③ [より安全] をクリック

このパスワード要件は、Adobe ID または Enterprise ID を使用するすべてのユーザーに適用されます。短時間に複数回のログインの失敗が検出された場合には、すべてのパスワードレベルでロックアウト機能が動作し、悪当たり攻撃を防ぐためにアカウントが一時的に停止されます。また、すべてのパスワードレベルで、それぞれのユーザーのユーザー名をパスワードに使用することはできません。ユーザー用の認証レベルを選択してください。

使いやすい設計	より安全	最も安全
最小文字数	8	8
記号および数字	いずれも 1 文字以上	いずれも 1 文字以上
大文字と小文字	はい	はい
以前のパスワードと同じでないこと	最近の 5 つ	最近の 5 つ
有効期限	いいえ	90 日間

アクションは正常に完了しました。

パスワードの保護レベルを変更できた

! 認証設定は、VIP 版のグループ版では設定できません。

認証設定の変更について

認証設定では、Adobe ID または Enterprise ID のパスワードに対して、保護レベルを変更できます。

▼ 認証の設定

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/admin-guide.html/jp/enterprise/using/authentication-settings.ug.html>

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

アドビのWebページが表示された

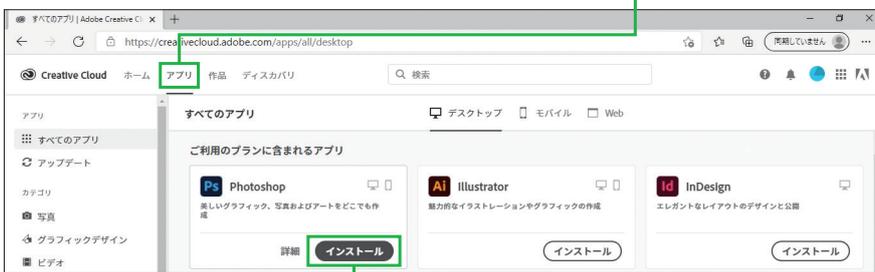
ここでは、Creative Cloudのアプリをデプロイ（インストール）する



⑥ [Creative Cloud] の [開く] をクリック

Creative Cloudのページが表示された

⑦ [アプリ] タブをクリック



インストールするアプリの [インストール] をクリックする

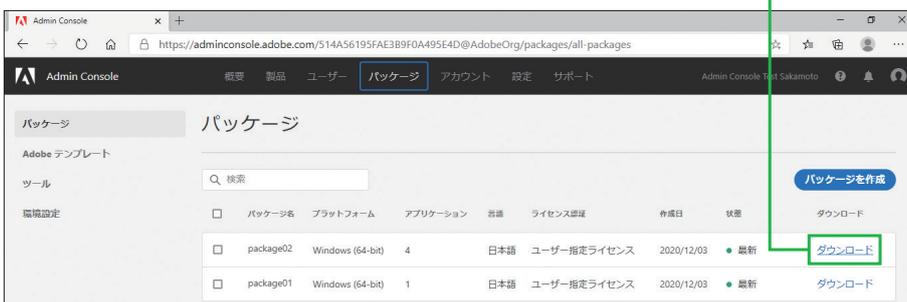
Windows 10でのアンインストール

画面左下の [スタート] ボタンを押してアプリの一覧を表示した後、アンインストールしたいアプリを右クリックして [アンインストール] をクリックします。その後、[プログラムと機能] ダイアログボックスでアプリを選択して [アンインストール] をクリックしましょう。なお [Adobe Creative Cloud] は、同じパッケージで追加したアプリを削除した後にアンインストールします。

Windows にパッケージをデプロイ（インストール）する

Admin Consoleにログインして、[パッケージ] タブを表示しておく

① [ダウンロード] をクリック

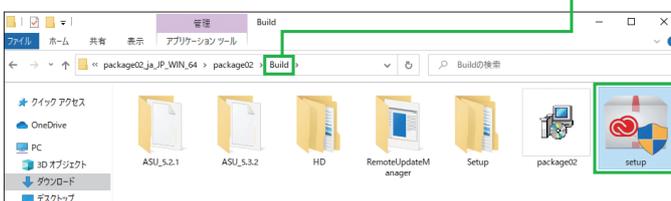


⚠ Windows 用に作成したパッケージをダウンロードしましょう。

ダウンロードが終了するまでしばらく待つ

ダウンロードしたzipファイルを展開しておく

[Build] フォルダを開く



② [setup] をダブルクリック

Acrobatのデプロイ（インストール）について

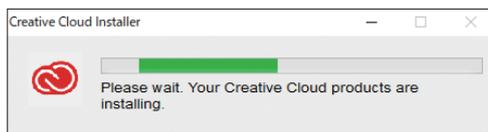
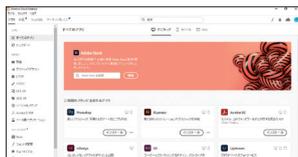
AcrobatおよびAdobe Readerのみを組織のユーザーに展開するには、[Customization Wizard] というツールを使用します。このツールは、特定の機能を有効／無効にする、製品の使用許諾契約や製品登録の画面表示を制限するなどの設定をしたうえで、AcrobatおよびAcrobat Readerのインストーラーパッケージを作成できます。[Customization Wizard] の入手方法やパッケージの作成方法についての詳細は、以下のWebページを参照してください。

▼ Adobe Customization Wizardの概要

<https://helpx.adobe.com/jp/acrobat/kb/cq04032234.html>

セルフサービスパッケージを使ったデプロイ（インストール）について

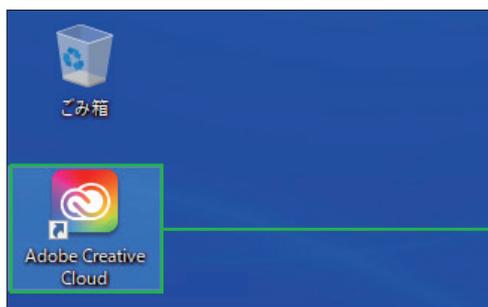
セルフサービスパッケージの場合は、Creative Cloudデスクトップアプリのみがデプロイされます。ログイン後、Creative Cloudデスクトップアプリの [すべてのアプリ] をクリックし、インストールするアプリの [インストール] をクリックしてユーザー自身でデプロイします。



デプロイ（インストール）が開始されるので、完了するまで待つ



③ [OK] をクリック



④ [Adobe Creative Cloud] をダブルクリック



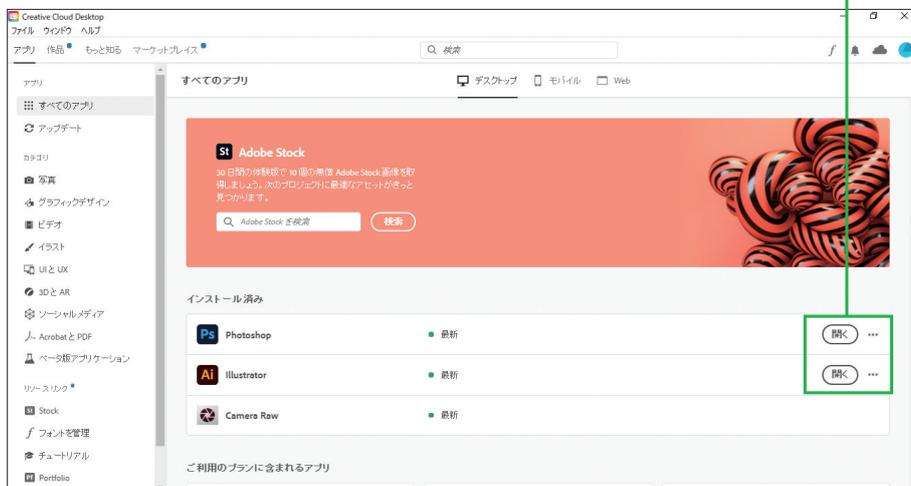
⑤ ユーザー ID を入力

⑥ [続行] をクリック

⑦ 次の画面でパスワードを入力して [続行] をクリック

Creative Cloud デスクトップアプリが起動した

[開く] をクリックすると、アプリを起動できる



Adobe Package Downloader を使用する

1

2

3

4

5

6

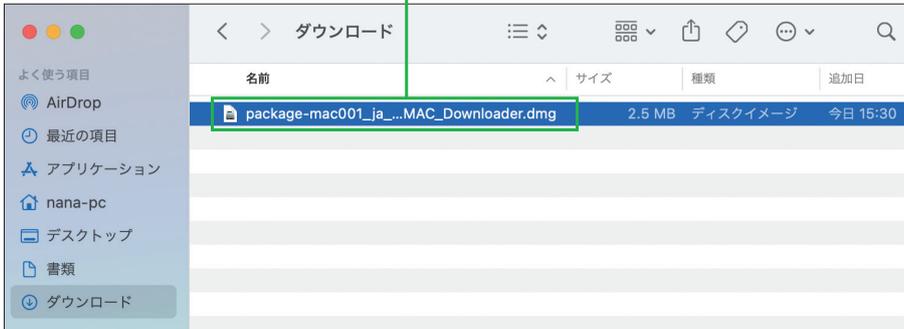
Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

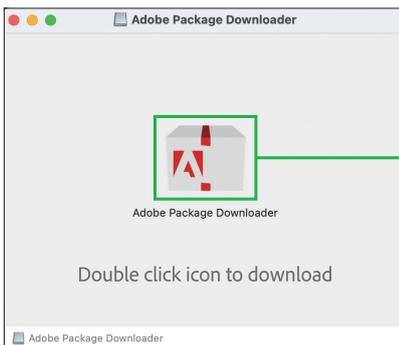
P.51の手順①を参考に、Mac用のパッケージをダウンロードする

① Adobe Package Downloaderのファイルをダブルクリック

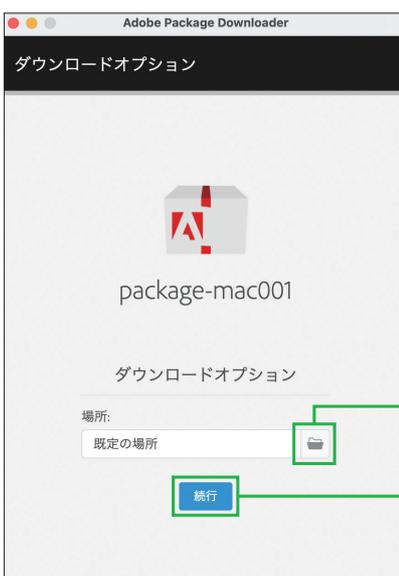


! Mac用に作成したパッケージをダウンロードしましょう。

[Adobe Package Downloader] が起動した

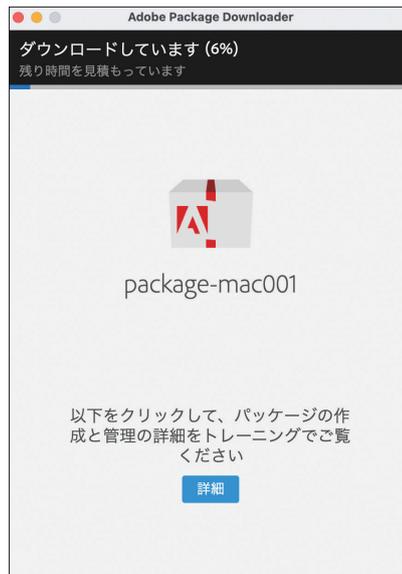


② ファイルアイコンをクリック



ダウンロード先を変更するときはフォルダーアイコンをクリックする

③ [続行] をクリック

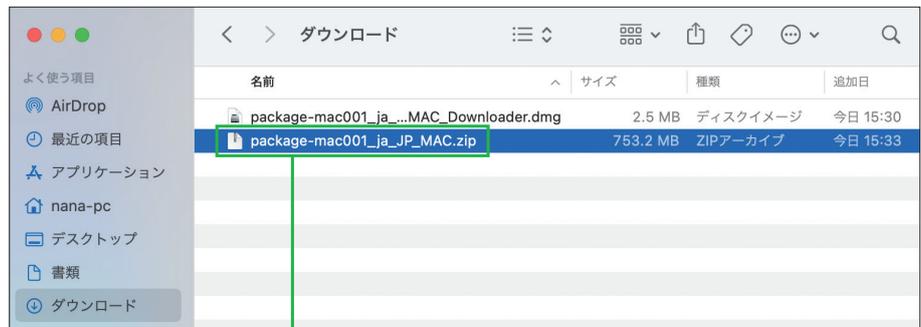


④ ダウンロードが
終了するまで待つ



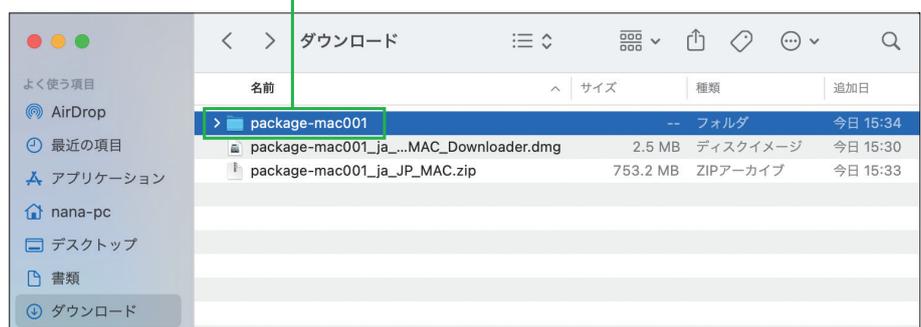
⑤ [Finderで開く] をクリック

[Adobe Package Downloader] が
起動した



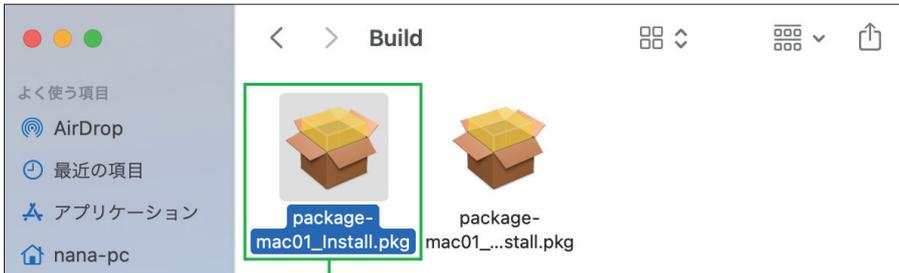
⑥ zip ファイルをダブルクリック

⑦ 解凍されたパッケージフォルダーを
ダブルクリック



Macにパッケージをデプロイ（インストール）する

パッケージの [Build] フォルダを表示しておく



① [○○ (パッケージ名) _Install.pkg] をダブルクリック

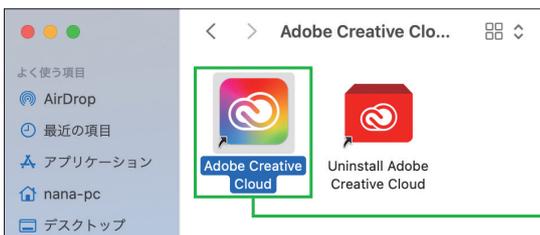


インストーラーが起動した

② [続ける] をクリック

画面の指示に従ってデプロイ（インストール）する

[アプリケーション] - [Adobe Creative Cloud] フォルダを開いておく



③ [Adobe Creative Cloud] をダブルクリック



④ ユーザー ID を入力

⑤ [続行] をクリック

パスワードを入力して [続行] をクリックすると、Creative Cloud デスクトップアプリが起動する

Macでのアンインストール

左の画面にある [○○ (パッケージ名) _Uninstall.pkg] をダブルクリックします。

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

ドメインクレームの設定方法 必須

ディレクトリを作成する

ドメインクレームについて

ドメインクレームは、企業などが取得するドメイン（メールアドレスの@の後ろに続く文字列）を、Adobeが提供するサービスと連携できるようにするための作業です。使いたいドメインが、自社に所有権があるものかどうかを検証します。このドメインクレームにより、組織のドメインを企業IDとして利用できるようになります。設定に必要なレコード値（TXT レコード）は、Admin Console から取得できます。ドメインクレーム設定後は、以下の操作が可能になります。

- Enterprise IDの作成、管理、削除
- 利用サービスの制御
- アプリケーションへのログイン

動画での手順確認について

ドメインクレームの流れを動画で確認したい場合は、以下のURLにアクセスしましょう。

▼Enterprise IDドメインクレームの流れ

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/how-to/domain-claim-enterprise-id.html>

Admin Consoleにログインして、[設定] タブを表示しておく

① [ID] をクリック

② [ディレクトリを作成] をクリック



ディレクトリ一覧が表示されている場合は、画面右上にある [ディレクトリを作成] をクリックする

③ ディレクトリ名を入力

④ [Enterprise ID] をクリック



⑤ [ディレクトリを作成] をクリック

ディレクトリが作成できた



ドメインを追加する

作成したディレクトリに、ドメインを追加する

① [ドメイン] をクリック

② [ドメインを追加] をクリック



ディレクトリについて

Enterprise ID で使用する組織ドメインと、ユーザー情報を保存しておくための格納（リンク）場所です。利用している組織ドメインが複数ある場合、同じディレクトリに格納して管理できます。

ディレクトリ一覧が表示されている場合は、画面右上にある [ディレクトリを作成] をクリックする



③ ドメインを入力

④ [次へ] をクリック

[検証が必要] と表示された



⑤ [ドメインを追加] をクリック

1

2

3

4

5

6

ドメインをクレーム(検証)する

[ドメイン]の画面に追加されたドメインが表示され、
[ステータス]に[検証が必要]と表示された

① [検証] を
クリック



[ドメインの所有権を検証] の画面が
表示された

② [レコードの値をコピー]または[DNS
レコード全体をコピー] をクリック

画面上部に表示
されたトークンが
コピーされる



! ここで紹介しているドメインホストへのトークン追加は一例です。利用ホストやサービスプロバイダーによって詳細が異なります。

組織のドメインホスト
にログインする

③ [種別] を [TXT]
に設定

④ [内容] に手順②で
コピーした値をペースト

ホスト名	種別	内容	優先度
.xxxxxx.net	TXT	●●●●●●●●●● ●●●●●	



⑤ [今すぐ検証]
をクリック

検証が終わるまでしばらく待つ

ドメインとディレクトリをリンクする

ドメインがクレームされ、[ステータス] に [ディレクトリが必要] と表示された



① [ディレクトリにリンク] をクリック

⚠ 1つのドメインを、複数のディレクトリにリンクすることはできません。

[ドメインとディレクトリをリンク] の画面が表示された

② [ディレクトリを選択] のここをクリック

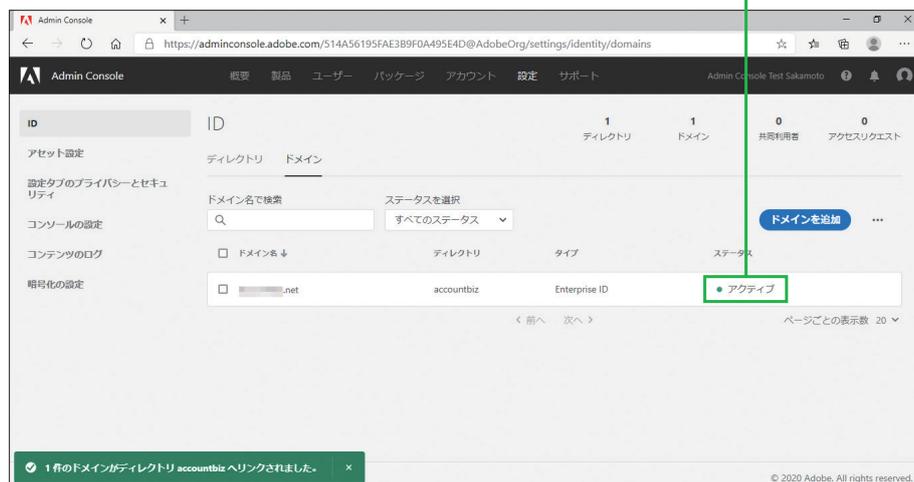


③ リンクするディレクトリを選択



④ [リンク] をクリック

ドメインとディレクトリがリンクされ、[ステータス] に [アクティブ] と表示された



1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

パッケージ (インストーラ) の作成方法 任意

マネージドパッケージのビルド (作成) を開始する

マネージドパッケージについて

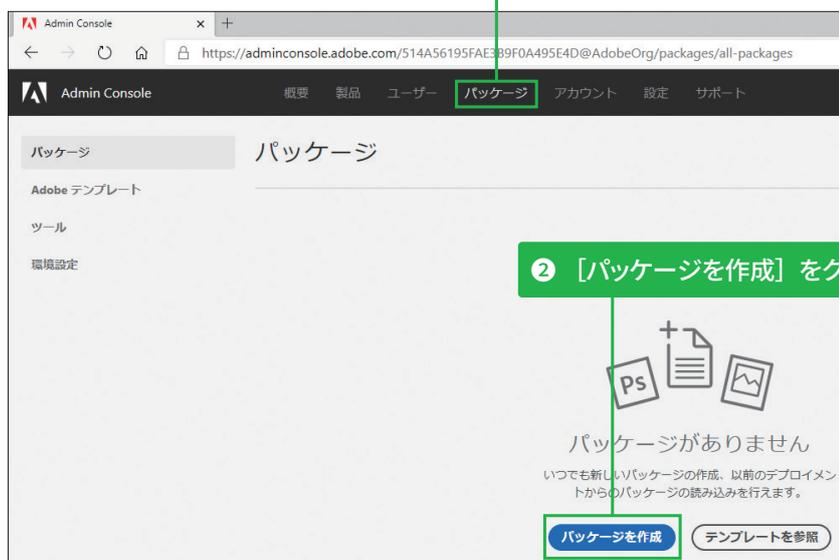
手順③の画面で [マネージドパッケージ] を選択すると、ユーザーのデバイスにデプロイ、またはインストールするアプリケーションを管理者側がカスタマイズできます。さらに、アップデートや各種設定もIT管理者が個別に制御可能です。

セルフサービスパッケージについて

手順③の画面で [セルフサービスパッケージ] を選択すると、アドビ製品のインストール権限 (OS側の管理者権限) が埋め込まれた Creative Cloud デスクトップアプリケーションの特別版が作成されます。ユーザーが自分自身で製品を選択してデプロイ、またはインストールできるうえ、ユーザー自身のタイミングでアップデートなどを行います。これにより、組織内のIT管理者の作業負荷が削減されます。

Admin Console にログインしておく

① [パッケージ] タブをクリック



パッケージ一覧が表示されている場合は、画面右上にある [パッケージを作成] をクリックする

ここでは [マネージドパッケージ] を作成する

③ [マネージドパッケージ] をクリック



④ [次へ] をクリック

パッケージの言語とアプリケーション、プラグインを選択する

1

2

3

4

5

6

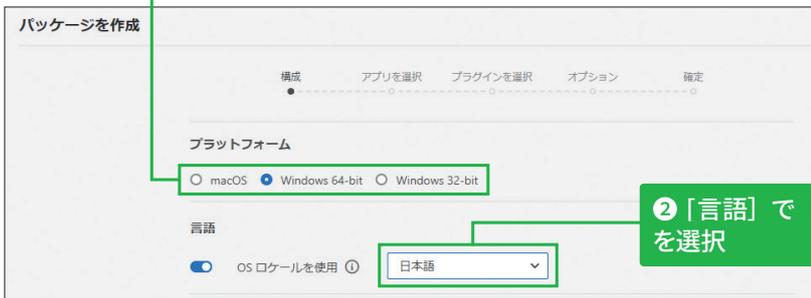
Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

① 使用OSをクリック

ここでは [Windows 64-bit] をクリックする

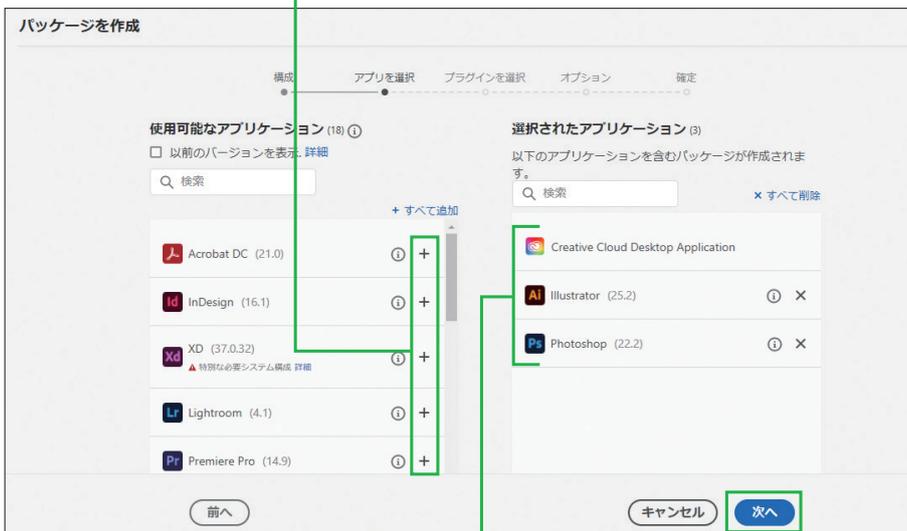


② 「言語」で「日本語」を選択

③ 画面右下の[次へ] をクリック

④ パッケージに含めるアプリケーション名の右にある [+] をクリック

すべて選択する場合は [+すべて追加] をクリック



[選択されたアプリケーション] に、アプリケーションが追加された

⑤ [次へ] をクリック

必要に応じてプラグインを選択する

ここでは追加せずに進める



⑥ [次へ] をクリック

OSロケールについて

[言語]の[OSロケールを使用]は、デバイスのOSで設定されている言語に合わせてアプリケーションをインストールできる機能です。デフォルトでオンになっているので、手順②の設定を忘れても、使用言語のアプリケーションが自動で設定されます。

⚠️ 手順①で[Windows 32bit]を選択すると、利用できる製品が極端に少なくなります。

選択アプリケーションの変更について

選択したアプリケーションを削除するには、[選択されたアプリケーション]に表示されたアプリケーション名の[X]をクリックします。

⚠️ マネージドパッケージを作成する際、手順④の画面でAcrobatを選択するのは推奨されません。Acrobatは[Customization Wizard]というツールを使用します。詳細はP.88の「Acrobatのデプロイ(インストール)について」を参照してください。

⚠️ 手順④の画面にある[使用可能なアプリケーション]で、以前のバージョンのアプリケーションも表示する場合は事前の設定が必要です。詳細は、P.63のCOLUMNを確認してください。

オプションを確認して設定する

【管理オプション】の詳細について

【管理オプション】にある上3つの項目については、以下のWebページも確認してください。

▼ Adobe Remote Update Managerの使用

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/using-remote-update-manager.ug.html>

▼ AUSSTの概要

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/update-server-setup-tool.html>

▼ パッケージに拡張機能を含める

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/manage-extensions.html>

① 表を参考に、各項目のチェックボックスをクリックしてオン/オフに設定



● オプションの設定項目について

	項目名	説明
Creative Cloud デスクトップ オプション	セルフサービスインストールを有効化	オンにすると、エンドユーザーがアプリケーションパネルからアプリケーションをインストール・アップデートできる
	管理者権限のないユーザーにアプリの更新とインストールを許可	オンにすると、管理権限をもたないエンドユーザーのセルフサービスが有効になる
	セルフサービスのプラグインのインストールを有効化	オンにすると、エンドユーザーがCreative Cloudデスクトップアプリケーションパネルからプラグインをデプロイ・更新できる
	ファイルの同期を無効化	オンにすると、ファイルの自動同期を制限するほか、アセット機能やモバイル連携が使用不可になる
	ブラウザベースのログインを有効化	オンにすると、Creative Cloud デスクトップアプリから、ブラウザベースにログインできる
管理オプション	Remote Update Manager を有効化	オンにすると、リモートで各デバイスにアップデートをインストールできる (ヒント参照)
	内部 Adobe Update Server にリダイレクト	オンにすると、AUSSTを使用してアップデートできるようになる (ヒント参照)
	拡張機能用のフォルダーを作成して、Extension Manager コマンドラインツールを含める	オンにすると、パッケージに拡張機能を含めて作成する (ヒント参照)
	カスタムインストールディレクトリにパッケージをインストール	オンにすると、カスタムインストールディレクトリにパッケージをインストールできる

パッケージをビルド（作成）する

① パッケージ名を入力

そのほかの設定内容を確認して、変更があれば [前へ] をクリックする

② [パッケージをビルド] をクリック

! ビルドしたパッケージの有効期限は3日間です。3日を過ぎると [期限切れ] と表示され、ダウンロードできなくなります。

パッケージのアップデートについて

パッケージ内のアプリケーションにアップデートがあると「最新ではありません」と表示されます。その場合は、パッケージ名-画面右にある [パッケージを更新] の順にクリックして、更新があるアプリケーションのみをビルドするかパッケージを丸ごとビルドするかを選択し、[パッケージを更新] をクリックします。なお、期限切れのパッケージを選択した場合も新しく作成できます。

パッケージのビルド（作成）が終わるまでしばらく待つ

[パッケージ] の画面にビルドしたパッケージが表示された

パッケージ名	プラットフォーム	アプリケーション	言語	ライセンス確認	作成日	状態	ダウンロード
package02	Windows (64-bit)	3	日本語	ユーザー指定ライセンス	2020/12/03	最新	ダウンロード
package01	Windows (64-bit)	1	日本語	ユーザー指定ライセンス	2020/12/03	最新	ダウンロード

COLUMN 利用可能なアプリの複数バージョンを表示する方法

P.61にある [パッケージを作成] の画面で、複数のバージョンを表示するには、以下の設定をしてから [以前のバージョンを表示] にチェックを入れます。

① [パッケージ] タブをクリック

② [環境設定] をクリック

③ [利用可能なアプリケーションのバージョン] のここをクリックしてチェックマークを付ける

[パッケージを作成] の画面で [以前のバージョンを表示] をクリックすると、利用可能な以前のバージョンが表示される

ユーザーの追加と削除方法 任意

ユーザーを追加する

Admin Consoleにログインして、
[ユーザー] タブを表示しておく

① [ユーザーを追加] を
クリック



[グループにユーザーを追加] の
画面が表示された



IDの種類について

[ユーザーを追加] 画面で Enterprise IDと Federated ID についての説明が表示されますが、このChapterではそのまま進めます。

Enterprise IDのユーザーが追加できた



ユーザーの一括作成

複数名のユーザーを一括で作成する方法は、STEP 25を参照してください。

ユーザーを削除する

[ユーザー] タブのユーザー一覧を表示しておく

① ユーザー名の左にあるチェックボックスをクリックして
チェックマークを付ける

② [ユーザーを削除]
をクリック



! ユーザーに製品プロファイルやグループの割り当て済の場合は、設定ごと削除されません。

削除するユーザーのデータについて

削除するユーザーのストレージにコンテンツなどが残っていると、手順②の後に [ユーザーを削除] 画面が表示されます。データをほかのユーザーのストレージに移管するには、STEP 29を参考にメールアドレスを指定してください。

ユーザーを削除

1人のユーザーを削除しますか？

キャンセル

ユーザーを削除

③ [ユーザーを削除] を
クリック

ユーザーが削除される

COLUMN 製品プロファイルとグループの設定方法

前ページ手順②の画面上部にある [製品を割り当て] と [ユーザーグループを割り当て] タブをクリックすると、ユーザーの新規追加と同じタイミングでまとめて設定できます。以下のように設定した後、[保存] をクリックします。

● [製品を割り当て] タブ

① 製品名をクリック

② [プロファイルの検索または選択]
のここをクリック



③ 表示された製品プロファイル名をクリック

● [ユーザーグループを割り当て] タブ

STEP 37を参考に、ユーザーグループを作成しておく

① [ユーザーグループの検索または選択]
のここをクリック



② 表示された製品プロファイル名を選択

ユーザーグループの追加と削除方法 任意

ユーザーグループを追加する

ユーザーグループ作成の利点

ユーザーグループにユーザーをまとめておくと、製品プロファイルの割り当てがまとめて設定できるほか、ユーザーグループ管理者を作成して、ユーザーの追加と削除の操作を一任できます。

ユーザーグループの一括作成

複数のユーザーグループを一括で作成する方法は、STEP 25を参照してください。

Admin Consoleにログインして、
[ユーザー] タブを表示しておく

① [ユーザーグループ]
をクリック

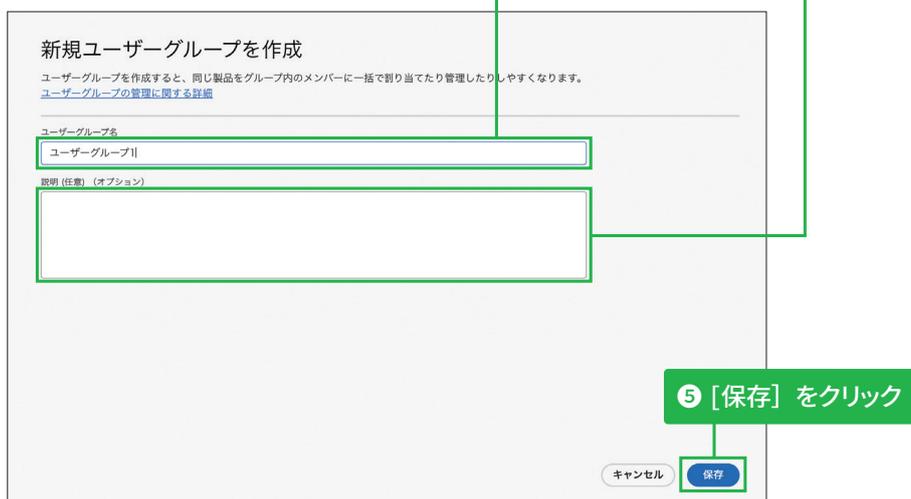
② [新規ユーザーグループ]
をクリック



[新規ユーザーグループを作成]
の画面が表示された

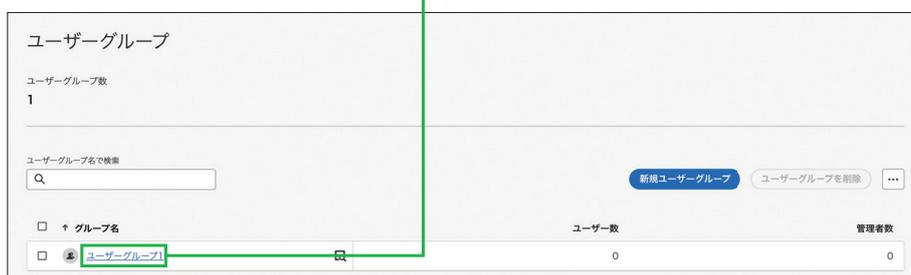
③ ユーザーグループ
名を入力

④ 必要に応じて
説明を入力



ユーザーグループが追加できた

⑥ ユーザーグループ名をクリック



ユーザーグループの詳細画面が表示できた

[ユーザーを追加] をクリックして、ユーザーを追加する



ユーザーグループの各種設定

ユーザーグループへの製品プロファイル割り当て方法はSTEP 26を、ユーザーグループ管理者の作成はSTEP 27を参照してください。

ユーザーグループを削除する

[ユーザー] タブのユーザーグループ一覧を表示しておく

① ユーザーグループ名の左にあるチェックボックスをクリックしてチェックマークを付ける

② [ユーザーグループを削除] をクリック



③ [ユーザーグループを削除] をクリック



ユーザーグループが削除される

ユーザーグループ管理者による削除

ユーザーグループ管理者は、自分が管理しているユーザーグループは削除できますが、管理外のグループは削除できません。

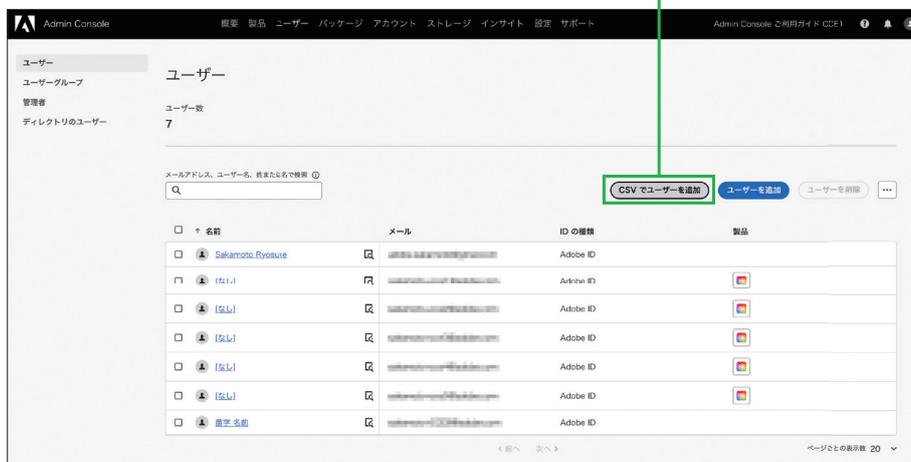
複数ユーザーの一括登録の方法

任意

CSVテンプレートをダウンロードする

Admin Consoleにログインして[ユーザー] タブのユーザー一覧を表示しておく

① [CSVでユーザーを追加] をクリック



[CSVでユーザーを追加] の画面が表示された

② [CSVテンプレートをダウンロード] をクリック



ここではユーザーリストを最初から作成する

③ [標準テンプレート] をクリック

CSV ファイルを作成する

ここでは、ダウンロードした CSV ファイルを Excel で表示する

① 2行目以降を削除

ID のタイプ	ユーザー名	ドメイン	電子メール	名前 (名)	名前 (姓)	国名コード	ID	製品構成	管理ロール	管理製品構成	ユーザーグループ	管理ユーザーグループ	管理製品	開発者アクセス権
Enterprise ID	bob@my-domain.com	my-domain.com	bob@my-domain.com	Bob	Becker	FR	123@my-domain.com	Audition - 1000 GB	Deployment		New York office, Paris office	New York office		Photoshop for New York office
Federated ID	cchester	my-other-domain.com	charles@my-other-domain.com	Charles	Chester	IT	234@my-domain.com		System	Audition - 1000 GB, Photoshop for New York office		New York office, Paris office	Audition, Photoshop	

② 表を参考に一括で追加するユーザー情報を入力

必須の入力項目以外は空欄にしてもいい

③ [CSV UTF-8] 形式で保存

ID のタイプ	Adobe ID、Enterprise ID、Federated ID から選択
ユーザー名	ASCII のみで、最大 255 文字
ドメイン	ドメイン名。指定なしの場合は「N/A」と入力
電子メール	必須項目。ユーザーのメールアドレスを入力
名前 (名)	ASCII のみで、最大 255 文字
名前 (姓)	ASCII のみで、最大 255 文字
国名コード	Enterprise ID および Federated ID は必須項目。日本は「JP」と入力
ID	設定なし
製品構成	ユーザーを割り当てる製品プロファイルのニックネームを入力
管理ロール	ユーザーに割り当てる管理ロールを入力
管理製品構成	ユーザーに管理者権限を付与する製品プロファイル名を入力
ユーザーグループ	このユーザーを追加するユーザーグループ名を入力
管理ユーザーグループ	ユーザーに管理者権限を付与するユーザーグループ名を入力
管理製品	ユーザーに管理者権限を付与する製品名を入力
開発者アクセス権	(デベロッパーのみ) デベロッパーが追加される API アクセスを含む製品の製品プロファイルの名前を入力
自動割り当て製品	前ページの手順③で [現在のユーザーリスト] を選択すると表示される。自動で割り当てる製品名を入力



CSV ファイルを Excel で編集した場合は、[名前を付けて保存] をクリックして [CSV UTF-8] 形式で保存します。

1

2

3

4

5

6

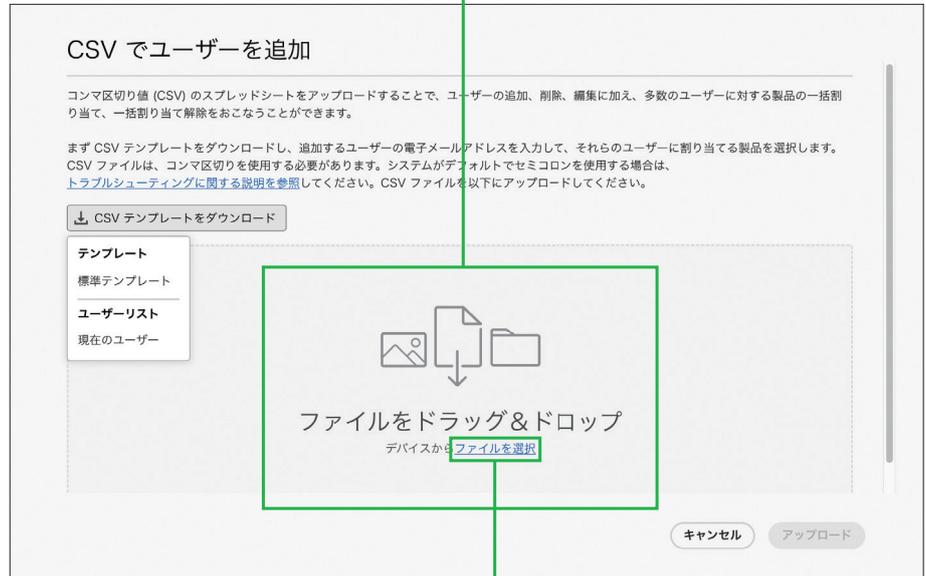
Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

CSV ファイルをアップロードする

① ここに作成した CSV ファイルをドラッグ&ドロップ



[ファイルを選択] をクリックすると、[開く] ダイアログボックスが表示される

CSV ファイルが表示された



② [アップロード] をクリック

一括操作の結果を確認する

CSVファイルがアップロードできた

① 画面右の [...] をクリック

ユーザー
ユーザー数
7

メールアドレス、ユーザー名、姓または名で検索 🔍

CSVでユーザーを追加 ユーザーを追加 ユーザーを削除 [...]

<input type="checkbox"/>	名前	メール	IDの種類	製品
<input type="checkbox"/>	Sakamoto Ryosuke		Adobe ID	ユーザーの詳細を一括編集 CSVでIDのタイプを編集 CSVでユーザーを削除
<input type="checkbox"/>	[なし]		Adobe ID	ユーザーリストをCSVに書き出し CSVに移行レポートを書き出す
<input type="checkbox"/>	[なし]		Adobe ID	一括操作の結果
<input type="checkbox"/>	[なし]		Adobe ID	ライセンス利用数超過レポート ライセンスステータスレポート
<input type="checkbox"/>	[なし]		Adobe ID	
<input type="checkbox"/>	苗字名前		Adobe ID	

< 前へ 次へ > ページごとの表示数 20

② [一括操作の結果] をクリック

操作名をクリックすると、結果の詳細が表示される

ユーザー：一括操作の結果

一括操作の結果

結果を削除 完了した結果を消去

<input type="checkbox"/>	操作	ファイル	実行者	実行日時	ステータス
<input type="checkbox"/>	ユーザーを追加	users2.csv	Sakamoto Ryosuke	今日	完了

Webブラウザの再読み込みボタンを押して、しばらく待つ

ユーザー
ユーザー数
8

メールアドレス、ユーザー名、姓または名で検索 🔍

CSVでユーザーを追加 ユーザーを追加 ユーザーを削除 [...]

<input type="checkbox"/>	名前	メール	IDの種類	製品
<input type="checkbox"/>	Sakamoto Ryosuke		Adobe ID	
<input type="checkbox"/>	[なし]		Adobe ID	
<input type="checkbox"/>	[なし]		Adobe ID	
<input type="checkbox"/>	[なし]		Enterprise ID	
<input type="checkbox"/>	[なし]		Enterprise ID	
<input type="checkbox"/>	[なし]		Enterprise ID	
<input type="checkbox"/>	[なし]		Enterprise ID	
<input type="checkbox"/>	苗字名前		Adobe ID	

ユーザーを一括で追加できた

そのほかの一括登録について

ユーザーグループの作成や製品プロファイルの割り当てなども一括操作が可能です。詳細は以下のWebページを確認してください。

▼ユーザーの管理 | CSV一括アップロード

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/bulk-upload-users.html>

[一括操作の結果] 画面でエラーと表示されたら

操作名をクリックして詳細を表示すると、行別のエラー内容が表示されるので、エラー箇所を修正して、再度操作します。

▼ユーザーの一括CSVアップロード時に発生する問題に関するトラブルシューティング

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/kb/troubleshoot-bulk-user-csv-upload.html>

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

製品プロファイルの割り当てと解除方法 **必須**

ユーザーへのメール通知をオフに設定する

! このSTEPに沿って通知をオフにした場合も、新しいAdobe IDとEnterprise IDのユーザーに宛てた「製品利用開始のお知らせ（ライセンス割り当て時の通知）」メールは必ず届きます。

製品プロファイルをユーザーに割り当てると、個々のユーザーにメールが届きます。ユーザーに不要なメールが送信されないように設定したいときは、最初に以下の方法でメール通知をオフにしましょう。

Admin Consoleにログインして、[製品] タブを表示しておく



① [すべての製品とサービス] をクリック

② 製品プロファイル名をクリック

製品プロファイルの画面が表示された

③ [詳細] をクリック



製品プロファイルの設定画面が表示された

④ ここを下にスクロール

⑤ [メールでユーザーに通知] のここをクリックして、オフに設定

⑥ [次へ] をクリック

方法1：[製品] タブから製品プロフィールを割り当てる

前ページの手順②にある製品プロフィールの画面を表示しておく

① [ユーザーを追加] をクリック



未登録のユーザーへの割り当てについて

手順②で Admin Console にユーザー登録されていないメールアドレスを入力すると、製品プロフィールの割り当てと同時に Admin Console への新規登録が行われます。

② ユーザー名またはメールアドレスを入力

③ 該当するユーザー名をクリック

この製品プロフィールにユーザーを追加

この製品プロフィールに追加するユーザーのメールアドレスを入力してください。

既定のコンプリートプラン 構成

ユーザー 1 削除

名前、ユーザーグループ、またはメールアドレスを入力 名前 (姓) (オプション) 名前 (名) (オプション)

製品の役割

ユーザー 2

名前、ユーザーグループ、またはメールアドレスを入力

ユーザー 3

名前、ユーザーグループ、またはメールアドレスを入力

キャンセル 保存

④ [保存] をクリック

ユーザーを追加できた



! 新しい Adobe ID または Enterprise ID に製品プロフィールを割り当てていると、初回のみアカウント設定を完了するためのメールが届きます。

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

方法2：[ユーザー] タブからプロフィールを割り当てる

割り当て方法について

製品プロフィールの割り当ては、ここで紹介する3つの方法があります。ユーザー1人ずつに割り当てる場合はこのページを、まとめて割り当てる場合はP.75を参照してください。

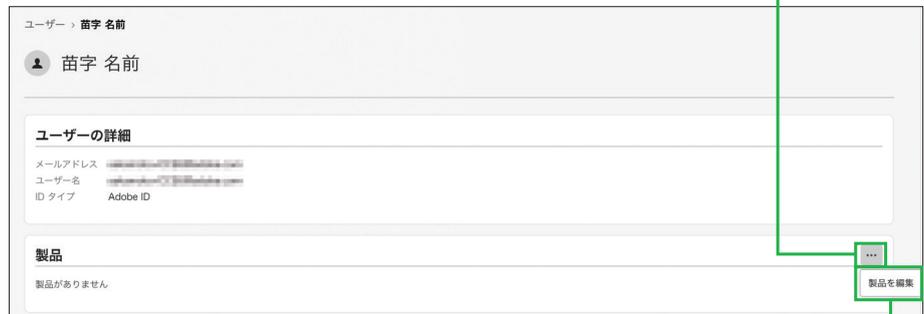
Admin Consoleにログインして、**[ユーザー]** タブを表示しておく

① 製品プロフィールを割り当てるユーザー名をクリック



ユーザーの詳細画面が表示された

② [製品] の[⋮] をクリック



③ [製品を編集] をクリック

[製品とユーザーグループを編集] 画面が表示された



④ [+] をクリック

⑤ ペンアイコンをクリック

⑥ [製品] タブに表示された製品名をクリック



⑦ 製品プロフィール名のここをクリック

⑧ [保存] をクリック

製品プロフィールが割り当てられた

方法3：ユーザーグループに製品プロファイルを割り当てる

[ユーザー] タブのユーザーグループ一覧で、製品プロファイルを割り当てるユーザーグループをクリックする

① [割り当てられた製品プロファイル] をクリック



② [プロファイルを割り当て] をクリック

③ ペンアイコンをクリック

④ 製品名をクリック



⑤ 製品プロファイル名のここをクリック

[保存] をクリックすると、ユーザーグループに所属するユーザーに製品プロファイルが割り当てられる

CSVファイルでの一括割り当て

STEP 25 で説明した CSV ファイルに、製品プロファイル名を入力すると、一括登録が可能です。

[製品] タブからでも割り当てられる

P.73 の「方法1」で、手順①の後にユーザーグループ名を指定すると、ユーザーグループに製品プロファイルを割り当てることができます。

製品プロファイルの割り当てを解除する

製品プロファイルの詳細画面にある [ユーザー] 画面を表示しておく

① ユーザー名またはユーザーグループ名のチェックボックスをクリックして、チェックマークを付ける

② [ユーザーを削除] をクリックする



再度 [ユーザーを削除] をクリックする

ユーザーグループへの割り当て解除

ユーザーグループに割り当てた製品プロファイルを削除するには、左の画面でユーザーグループ名のチェックボックスをクリックして、チェックマークを付けた後、同様に操作します。

ユーザーグループ管理者の追加方法 任意

ユーザーグループ管理者を追加する

ユーザーグループ管理者の操作範囲

担当するユーザーグループへのユーザーの追加と削除、製品プロファイルの割り当てと解除のほか、ユーザーグループの削除も可能です。

ユーザーグループの作成や担当外のユーザーグループの削除はできません。

STEP 24を参考に、ユーザーグループの詳細画面を表示しておく

① [管理者] タブをクリック



ユーザーグループの [管理者] 画面が表示された

② [管理者を追加] をクリック



[ユーザー] タブの [管理者] 画面からの設定

手順①の画面の左にある [管理者] をクリックすると、設定された管理者の一覧が表示されます。この画面にある [管理者を追加] をクリックしても、設定可能です。詳細はSTEP 28を参照してください。

ユーザーグループ管理者が追加された

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

[ユーザーグループ管理者を追加] の画面が表示された

① ユーザーグループ管理者として設定するユーザーのメールアドレスを入力

② [保存] をクリック

ユーザーグループ管理者が設定できた

ユーザーグループ管理者に設定の通知メールが届く

ユーザーグループ管理者の削除

ユーザーグループの管理者一覧画面で、管理者名の左にあるチェックボックスをクリックしてチェックマークを付けた後、[管理者を削除] をクリックします。

その他の管理者の追加方法 任意

方法1：製品管理者を追加する

製品管理者の操作範囲

担当する製品に製品プロフィールを作成できるほか、ユーザーやユーザーグループの追加と削除が可能です。

Admin Consoleにログインして、[製品] タブを表示しておく

① 製品名の [管理者] をクリック

② [管理者を追加] をクリック



STEP 27を参考に、製品管理者を追加する

方法2：製品プロフィール管理者を追加する

製品プロフィール管理者の操作範囲

担当する製品プロフィールに対するユーザーやユーザーグループの追加と削除が可能です。

製品プロフィールの詳細画面を表示しておく

① 製品プロフィールの [管理者数] をクリック

② [管理者を追加] をクリック



STEP 27を参考に、製品プロフィール管理者を追加する

方法3：[ユーザー] タブの [管理者] 画面から追加する

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

[ユーザー] タブの [管理者] 画面を表示する

設定した管理者が一覧で表示され、[管理ロール] から担当範囲を確認できる

① [管理者を追加] をクリック



ユーザーの選択画面が表示されるので、ユーザー ID を指定して [次へ] をクリックする

[管理権限を編集] の画面が表示される

② ここをクリックして、管理者権限を切り替え



③ [保存] をクリック

管理者に指定されたユーザーについて

ユーザーに管理者権限を割り当てると、指定したユーザーのメールアドレスに通知メールが送信されます。ユーザーは受信したメールの指示に従って Admin Console にログインすると、決められた管理作業が行えます。

管理者権限の複数の割り当て

1人のユーザー ID に複数の管理者権限を割り当てる場合は、左記の [管理者を追加] 画面で複数の権限をオンにします。

ストレージの管理方法 任意

ESM (エンタープライズストレージモデル) について

【ストレージ管理者】 について

[ストレージ] タブの画面右側にある [ストレージ管理者] をクリックすると、ストレージ管理の権限を持つユーザーの一覧が表示されます。

組織が保有するストレージ の配分について

Creative Cloudを割り当てたユーザーの人数分×1TBが組織が保有するストレージの総量です。

ESM (エンタープライズストレージモデル) は、Admin Consoleに登録されたユーザーのストレージを、企業などの組織単位で管理・統制できる機能です。管理者は、Admin Consoleの [ストレージ] タブから個々のユーザーのストレージ利用状況を確認できるほか、退職などの理由でAdmin Consoleからユーザーを削除したときに、そのユーザーが残したデータを組織内の別のユーザーに容易に移行できます。

Admin Consoleにログインして、
[ストレージ] タブを表示しておく

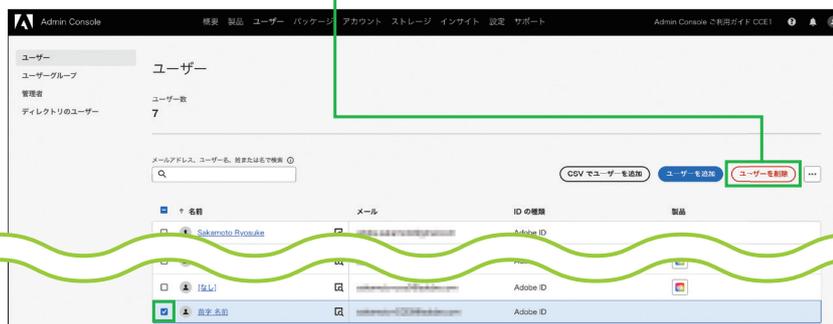
【概要】画面では組織全体のストレージ
総量と使用状況が確認できる



Admin Consoleに登録されたユーザーのうち、
【個人ユーザー】フォルダーの使用量が多い上位5名が表示される

削除されたユーザーのデータを移行する

STEP 23を参考に、削除するユーザーを指定して
[ユーザーを削除] をクリックする



削除するユーザーのストレージにコンテンツが残っていると、**[ユーザーを削除]** の画面が表示される

ここではシステム管理者のメールアドレスを指定して転送する

ユーザーを削除

ユーザーを削除すると、ユーザープロフィールとフォルダーが削除されます。削除するユーザーが所有していたフォルダーのコンテンツの管理方法を選択してください。
[削除したユーザーのアセットの再利用の詳細](#)

ストレージ移行オプションを選択

指定のユーザーにコンテンツを移管
 フォルダーのコンテンツのダウンロードリンクが、下記で指定するユーザーにメールで送信されます。完全に削除されるまで、フォルダーのコンテンツは「ストレージ」タブ/個人ユーザーフォルダー/削除されたユーザーに残ります。

組織内の名前または電子メールでユーザーを選択

後でコンテンツを移管
 フォルダーのコンテンツは、「ストレージ」タブ/個人ユーザーフォルダー/削除されたユーザーに30日間残ります。

コンテンツを完全に削除
 コンテンツを移管せずに、ユーザーのフォルダは完全に削除されます。

キャンセル **次へ**

① 転送先のメールアドレスを入力

② [次へ] をクリック

[ユーザーを削除してコンテンツを転送] の画面で **[ユーザーを削除]** をクリックする

[後でコンテンツを転送] について

手順①で **[後でコンテンツを転送]** をクリックすると、**[ストレージ]** タブからコンテンツの転送設定ができます。

削除されたユーザーのコンテンツを削除する

[ストレージ] タブの **[個人ユーザーフォルダー]** 画面を表示しておく

① **[削除されたユーザー]** タブをクリック

Admin Console 概要 製品 ユーザー パッケージ アカウント ストレージ インサイト ... Admin Console ご利用ガイド OCEI

個人ユーザーフォルダー

個人ユーザーフォルダー

ストレージレポート

ライブラリ

アクティブなユーザー 削除されたユーザー

フォルダー 電子メール サイズ

苗字 名前 0 B

1 件を選択中 < 前へ 次へ >

完全に削除

② ユーザー名のここをクリック

③ **[完全に削除]** をクリック

次の画面で **[完全に削除]** をクリックすると、ユーザーデータが完全に削除される

[後でコンテンツを転送] を選択したユーザーについて

ユーザーを削除するときに **[後でコンテンツを転送]** を選択したときは、手順③の次に転送先の指定画面が表示されます。

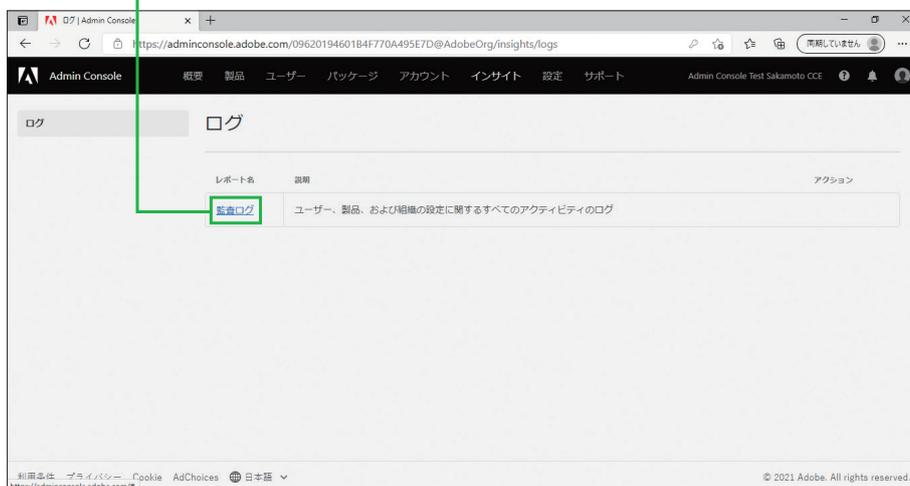
監査ログの確認方法 任意

監査ログを確認する

! [インサイト] タブでは90日間分のログが保持されます。それ以上のログを保管する場合は、次ページの手順を参考にCSVファイルをダウンロードしましょう。

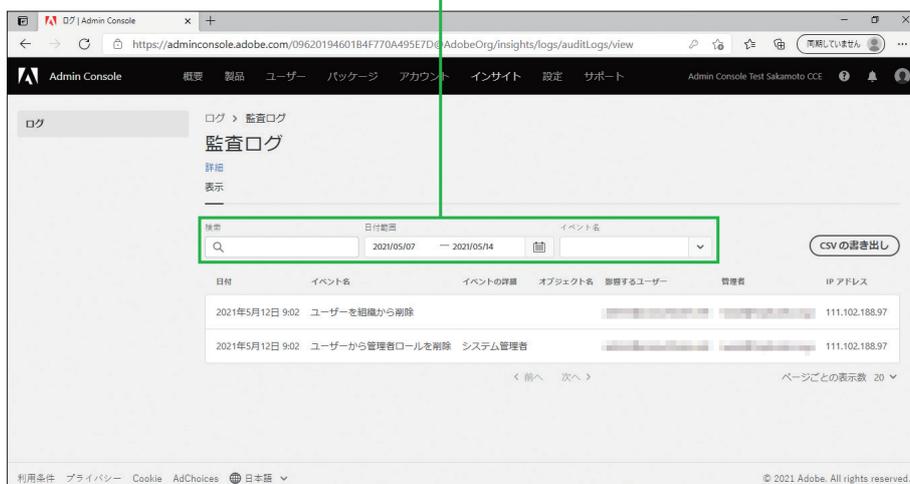
Admin Consoleにログインして、
[インサイト] タブを表示しておく

① [監査ログ] を
クリック



90日間のログが
表示された

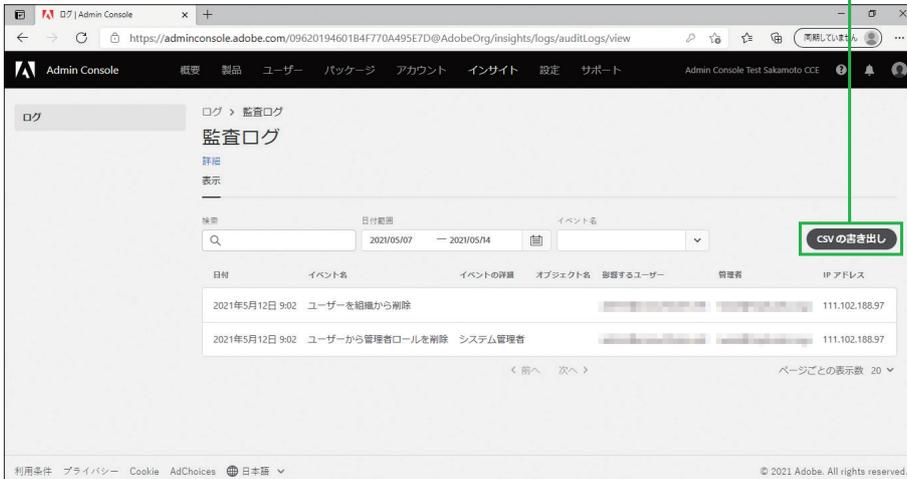
キーワードや日付、イベントによって
検索できる



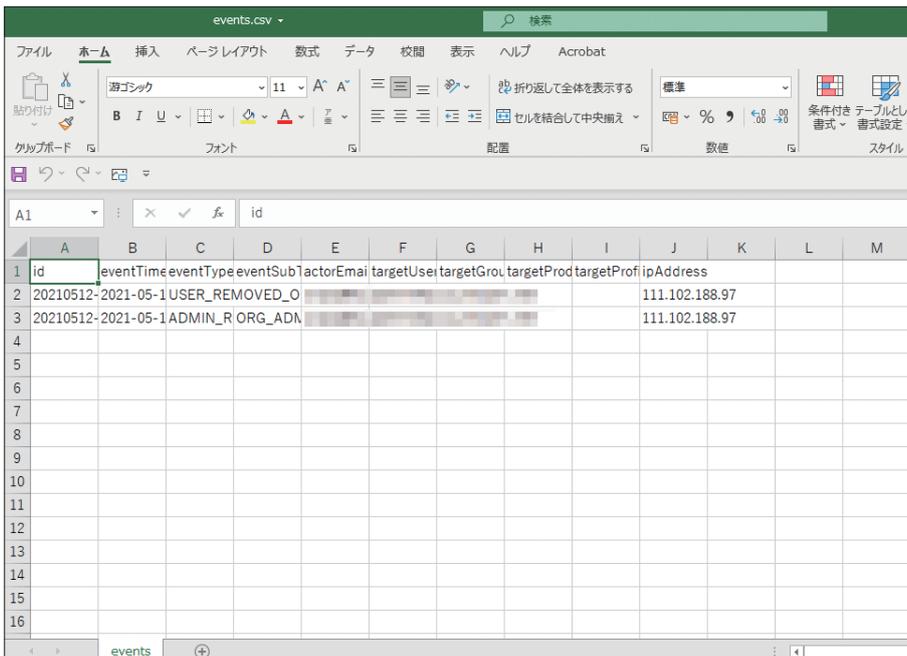
CSV ファイルをダウンロードする

Admin Console にログインして、
[インサイト] タブを表示しておく

① [CSVの書き出し] を
クリック



CSVファイルがダウンロードされる



1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

アセット・認証の設定方法 任意

アセット設定を確認する

アセット設定の変更について

アセット設定では、Creative Cloud および Document Cloud 内のファイルなど（アセット）の共有方法や、アクセス可能な範囲を設定できます。詳細は以下のWebページでも確認できます。

▼アセットの設定

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/admin-guide.html/jp/enterprise/using/asset-settings.ug.html>

Admin Consoleにログインして、**[設定]** タブを表示しておく

① [アセット設定] をクリック

ここでは、**[共有制限ポリシー]** を許可されたドメインに属するユーザーのみに変更する



② [共有者を組織メンバーおよび信頼できるユーザーに制限] をクリック

次の画面で **[確定]** をクリックすると、**[共有制限ポリシー]** が変更される

続けて、共有を許可するドメインを設定する

③ [許可されたドメイン] タブをクリック



④ [ドメインを追加] をクリック

5 ドメインを入力

ドメインを追加

複数のドメインを登録する場合には、コンマで区切ります。サブドメインを登録する必要はありません。

画面右下の [追加] をクリックすると、ドメインが追加される

6 画面を下にスクロール

ここでは、[アクセス要求ポリシー] はデフォルト設定のままを進める

アクセス要求ポリシー

アクセス要求を許可

組織内外のユーザーは、共有されていないフォルダーやドキュメントへのアクセスを要求できます。

アクセス要求不可

組織内外のユーザーは、共有されていないフォルダーやドキュメントへのアクセスは要求できません。

認証設定を確認する

Admin Console にログインして、[設定] タブを表示しておく

1 [設定タブのプライバシーとセキュリティ] をクリック

2 [認証設定] をクリック

このパスワード要件は、Adobe ID または Enterprise ID を使用するすべてのユーザーに適用されます。短時間に複数回のログインの失敗が検出された場合には、すべてのパスワードレベルでロックアウト機能が動作し、後当たり攻撃を防ぐためにアカウントが一時的に停止されます。また、すべてのパスワードレベルで、それぞれのユーザーのユーザー名をパスワードに使用することはできません。ユーザー用の認証レベルを選択してください。

設定	使いやすい設計	より安全	最も安全
最小文字数	8	8	8
記号および数字	いずれも 1 文字以上	いずれも 1 文字以上	いずれも 1 文字以上
大文字と小文字	はい	はい	はい
以前のパスワードと同じでないこと	最近の 5 つ	以前のパスワードと同じでないこと	以前のパスワードと同じでないこと
有効期限	いいえ	90 日間	60 日間

Admin Console にログインして、[製品] タブを表示しておく

3 製品プロファイル名をクリック

認証設定の変更について

認証設定では、Adobe ID または Enterprise ID のパスワードに対して、保護レベルを変更できます。詳細は以下の Web ページでも確認できます。

▼ 認証の設定

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/admin-guide.html/jp/enterprise/using/authentication-settings.ug.html>

デバイスへのデプロイ (インストール) 方法 **必須**

オンライン経由でユーザー自身がデプロイ (インストール) する

サードパーティ製ツールを使用してデプロイ (インストール) する

アプリをインストールするデバイスの数が多いときは、サードパーティ製ツールを使用してまとめてデプロイ (インストール) すると便利です。

管理者が Admin Console で製品にユーザーを追加しておく

アドビからユーザーに届いたメールを表示しておく

今すぐ **コンプリートプラン** をご利用いただけます

Admin Console Test Sakamoto CCE の管理者により、コンプリートプランのアクセス権が付与されました。

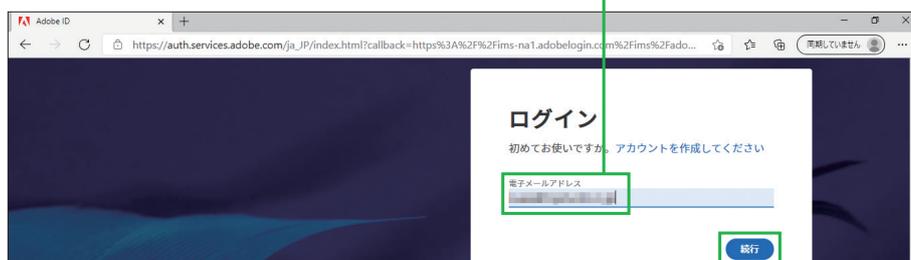
Adobe コンプリートプランの使用を開始するには、下の「使用開始」ボタンをクリックし、メールアドレス を使用してアドビにログインします。アドビアカウントをお持ちでない場合は、作成するように求められます。既にアドビアカウントをご利用の場合、グループのアクセス権を利用するには、一度ログアウトしてから再度ログインしてください。

使用開始

① [使用開始] をクリック

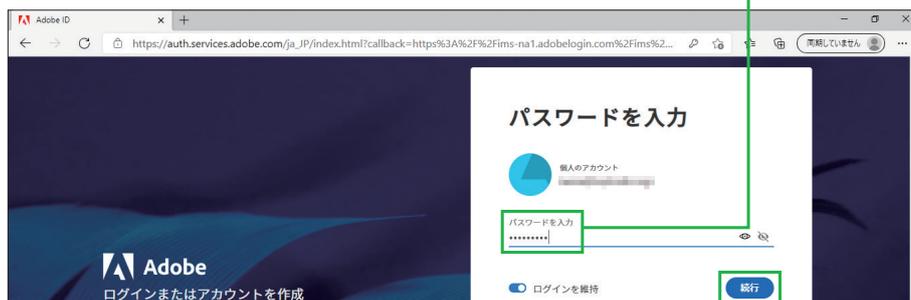
ブラウザでログイン画面が表示された

② 登録されているユーザーのメールアドレスを入力



③ [続行] をクリック

④ パスワードを入力



⑤ [続行] をクリック

初回ログイン時は本人確認が必要

初めて Adobe Creative Cloud にログインしたときは、本人確認のため指定されたメールアドレスにコードが届きます。画面の指示に従って入力した後、パスワードや国/地域の設定と、携帯電話番号の登録などを行います。

アドビのWeb ページが
表示された

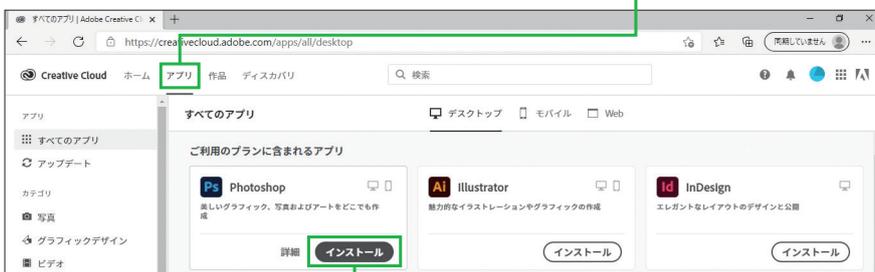
ここでは、Creative Cloudのアプリを
デプロイ（インストール）する



⑥ [Creative Cloud] の [開く] をクリック

Creative Cloudのページが表示された

⑦ [アプリ] タブをクリック



インストールするアプリの [インストール] を
クリックする

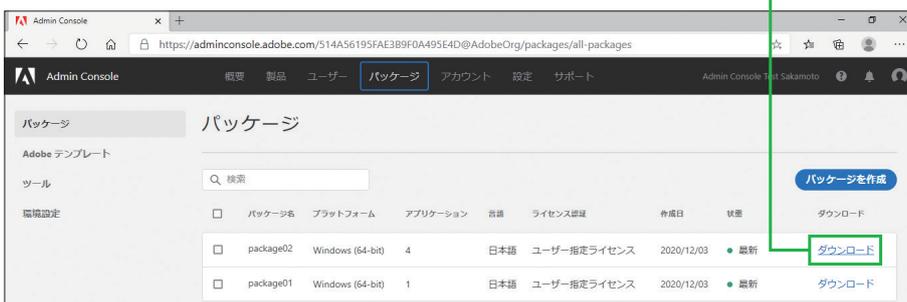
Windows 10での アンインストール

画面左下の [スタート] ボタンを押してアプリの一覧を表示した後、アンインストールしたいアプリを右クリックして [アンインストール] をクリックします。その後、[プログラムと機能] ダイアログボックスでアプリを選択して [アンインストール] をクリックしましょう。なお [Adobe Creative Cloud] は、同じパッケージで追加したアプリを削除した後にアンインストールします。

Windows にパッケージをデプロイ（インストール）する

Admin Consoleにログインして、[パッケージ] タブを
表示しておく

① [ダウンロード] を
クリック

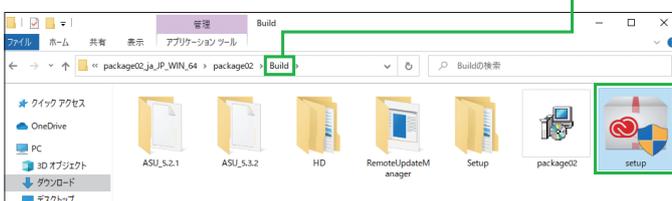


⚠ Windows 用に作成
したパッケージをダウン
ロードしましょう。

ダウンロードが終了するまでしばらく待つ

ダウンロードしたzip ファイルを展開しておく

[Build] フォルダを開く



② [setup] を
ダブルクリック

Acrobatのデプロイ（インストール）について

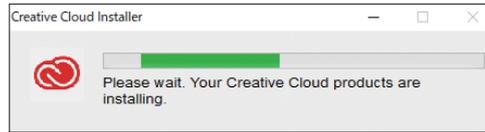
AcrobatおよびAdobe Readerのみを組織のユーザーに展開するには、[Customization Wizard] というツールを使用します。このツールは、特定の機能を有効／無効にする、製品の使用許諾契約や製品登録の画面表示を制限するなどの設定をしたうえで、AcrobatおよびAcrobat Readerのインストーラーパッケージを作成できます。[Customization Wizard] の入手方法やパッケージの作成方法についての詳細は、以下のWebページを参照してください。

▼ Adobe Customization Wizardの概要

<https://helpx.adobe.com/jp/acrobat/kb/cq04032234.html>

セルフサービスパッケージを使ったデプロイ（インストール）について

セルフサービスパッケージの場合は、Creative Cloudデスクトップアプリのみがデプロイされます。ログイン後、Creative Cloudデスクトップアプリの [すべてのアプリ] をクリックし、インストールするアプリの [インストール] をクリックしてユーザー自身でデプロイします。



デプロイ（インストール）が開始されるので、完了するまで待つ



③ [OK] をクリック



④ [Adobe Creative Cloud] をダブルクリック



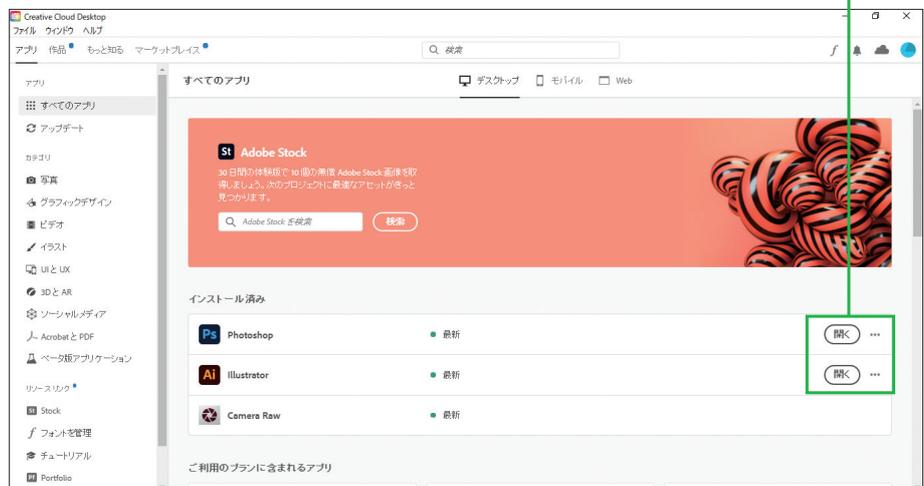
⑤ ユーザー IDを入力

⑥ [続行] をクリック

⑦ 次の画面でパスワードを入力して [続行] をクリック

Creative Cloud デスクトップアプリが起動した

[開く] をクリックすると、アプリを起動できる



Macにパッケージをデプロイ（インストール）する

P.87の手順①を参考に、Mac用のパッケージをダウンロードする

ダウンロードしたパッケージの [Build] フォルダを表示しておく



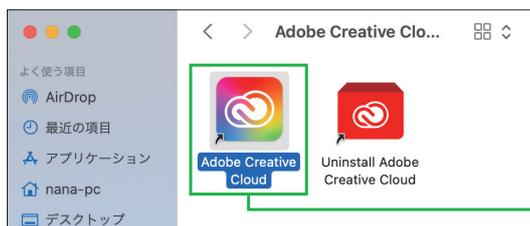
① [○○ (パッケージ名) _Install.pkg] をダブルクリック



インストーラーが起動した

② [続ける] をクリック

画面の指示に従ってデプロイ（インストール）する



[アプリケーション] - [Adobe Creative Cloud] フォルダを開いておく

③ [Adobe Creative Cloud] をダブルクリック



④ ユーザー IDを入力

⑤ [続行] をクリック

パスワードを入力して [続行] をクリックすると、Creative Cloud デスクトップアプリが起動する

! Mac用に作成したパッケージをダウンロードしましょう。

Macでのアンインストール

左の画面にある [○○ (パッケージ名) _Uninstall.pkg] をダブルクリックします。

初回ログイン時は本人確認が必要

初めて Adobe Creative Cloud にログインしたときは、本人確認のため指定されたメールアドレスにコードが届きます。画面の指示に従って入力した後、パスワードや国/地域の設定と、携帯電話番号の登録などを行います。

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

ディレクトリと Azure AD の 設定方法 必須

シングルサインオンについて

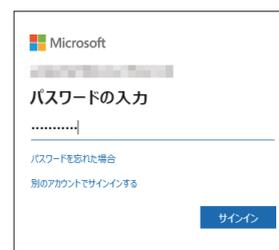
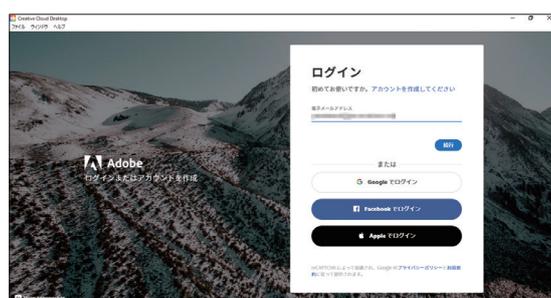
Federated ID の利用 について

Federated ID を使用すると、以下のメリットがあります。

- ・ ユーザーの認証を組織側で管理できる
- ・ ユーザーが使用するアプリやサービスを厳格に管理できる

企業などで使用するドメインや資格情報を、ほかのエンタープライズディレクトリで管理・運用している場合は、Federated ID の利用をおすすめします。ほかのサービスへログインするときと同じユーザー ID とパスワードを使って、Adobe Creative Cloud にログインできます。

Adobe Creative Cloud を起動すると、Microsoft のログイン画面が表示されるようになる



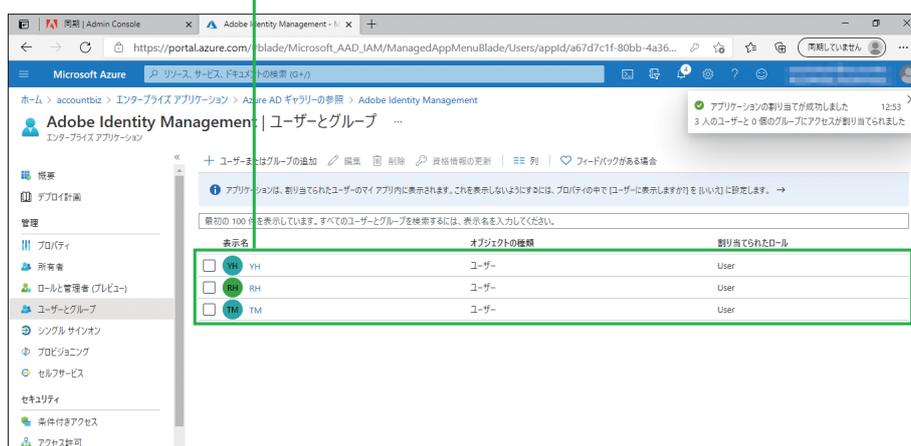
Azure AD とのフェデレーション設定について

フェデレーション設定 について

Federated ID を利用するには、Admin Console と、Microsoft Azure AD などのエンタープライズディレクトリを連携させる必要があります。エンタープライズディレクトリは、ID プロバイダー (IdP) としてユーザーの認証情報をアドビへ提供し、シングルサインオンを可能にします。Azure AD と Admin Console で行うフェデレーションの設定には 2 種類があります。SAML2.0 と OpenID Connect (OIDC) です。ここでは、OIDC による設定方法を説明します。

ここでは、Admin Console と Microsoft Azure Active Directory (Azure AD) とを連携させる手順を説明します。設定前に Azure AD でユーザーを作成しておきましょう。

Azure AD 上でユーザーを追加すると、Admin Console で同期も可能になる



ディレクトリを作成する

Admin Consoleにログインして、**[設定]** タブを表示しておく

① **[ディレクトリを作成]** をクリック

! ディレクトリの作成を始める前に、利用するIDプロバイダーでドメインクレーム、ユーザーの登録を行っておきましょう。



② **ディレクトリ名を入力**

③ **[Federated ID] をクリック**

④ **[次へ] をクリック**



ここでは、IDプロバイダーとして **Microsoft Azure** を選択する

⑤ **[Microsoft Azure] をクリック**

⑥ **[次へ] をクリック**

COLUMN Microsoft Azure以外のIDプロバイダーの利用について

Microsoft AzureとGoogle以外のIDプロバイダーを利用しているときは、手順⑤の画面で**[他のSAMLプロバイダー]** をクリックします。移行の操作はWebページを参照してください。

▼Adobe SSO で使用する Microsoft AD FS の構成

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/kb/configure-microsoft-ad-fs-with-ss.html>

▼Adobe SSO で使用する Shibboleth IdP の構成

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/kb/configure-shibboleth-with-adobe-ss.html>

▼Adobe SSO で使用する Okta の構成

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/kb/configure-okta-with-adobe-ss.html>

1

2

3

4

5

6

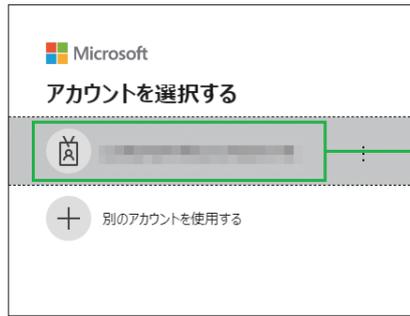
Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

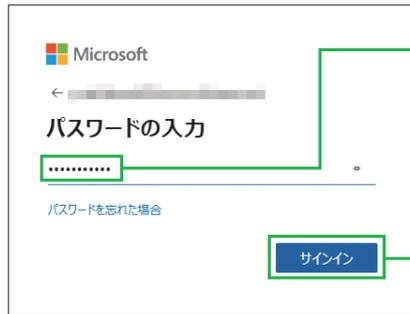
Azure AD へのアクセスを許可する

! Azure AD にログインするときは、必ず「グローバル管理者」アカウントでログインしましょう。



Microsoftのサインイン画面が表示された

① アカウント名をクリック



② 管理者アカウントのパスワードを入力

③ [サインイン] をクリック



アクセス許可を求める画面が表示された

④ 内容を確認

⑤ [承諾] をクリック

ID プロバイダーを構成する - ①

Azure ADで設定しているテナントの詳細が表示された

① [テナントID] と [プロトコル] を確認

Azure ID プロバイダー (IdP) を構成

お客様の Azure 組織の詳細を確認します。

テナント ID	[Redacted]
プロトコル	OpenID Connect

キャンセル 確定

② [確定] をクリック

③ [Microsoft Azure からドメインを追加する] をクリック

ドメインを追加

ドメインの追加に使用する方法を選択します。

 **Microsoft Azure からドメインを追加する**

検証済みドメインを Microsoft Azure からインポートする場合は、このオプションを選択します

[詳細](#)

キャンセル Azure にログイン

④ [Azure にログイン] をクリック

ドメインクレームについて
ドメインのクレーム (検証) は、エンタープライズディレクトリ側で行われるため、Admin Console上では確認操作のみになります。

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

IDプロバイダーを構成する - ②

Microsoft
アカウントを選択する

YH
サインイン済み

+ 別のアカウントを使用する

アカウントの選択画面が表示された

① 使用するアカウント
を選択

Microsoft
要求されているアクセス許可

Adobe Identity Management
Adobe アプリ情報

このアプリケーションは、Microsoft またはお客様の組織によって公開されたものではありません。

このアプリに必要なアクセス許可:

✓ Sign in and read user profile

組織の代理として同意する

承諾すると、このアプリは組織内のすべてのユーザーの指定のリソースにアクセスできるようになります。これらのアクセス許可の確認を求めるメッセージは、他のユーザーには表示されません。

これらのアクセス許可を受け入れることは、サービス利用規約とプライバシーに関する声明で指定されているとこのアプリがデータを使用することを許可することを意味します。これらのアクセス許可は <https://myapps.microsoft.com> で変更できます。詳細の表示

このアプリは疑わしいと思われますか? [こちらでご報告ください](#)

キャンセル 承諾

アクセス許可を求める画面が表示された

② [組織の代理として同意する]
をクリック

③ [承諾] を
クリック

Azure ADで設定しているテナントの詳細が表示された

④ 追加するドメイン
を選択

Microsoft Azure からドメインを追加する

Adobe Admin Console で要求するドメインを Azure から選択します。

名前

[Redacted]

[Redacted]

< 前へ 次へ > ページごとの表示数 10 ▾

キャンセル 確定

⑤ [確定] をクリック

ディレクトリが設定できた

ディレクトリ > account001

account001

FEDERATED ID 1 ドメイン

設定

認証設定の方法 ドメイン 同期

検索

ドメインを追加 CSVに書き出し

名前 ↓

< 前へ 次へ > ページごとの表示数 20 ▾

ディレクトリの詳細画面について

Admin Consoleで [設定] タブ - [ID] - [ディレクトリ] - [〇〇 (ディレクトリ名)] の順にクリックすると詳細画面を表示できます。

Azure ADとの同期を開始する

1

2

3

4

5

6

続けて Azure AD との同期設定を開始する

① [同期] タブをクリック



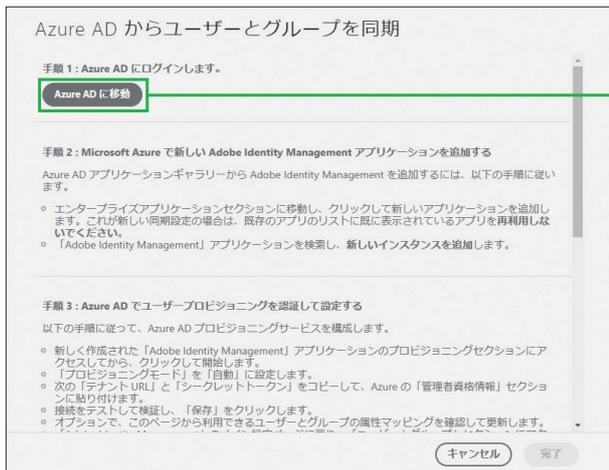
② [同期を追加] をクリック

③ [Microsoft Azure からユーザーを同期 Active Directory] をクリック



④ [次へ] をクリック

Azure AD と同期するための設定手順が表示された



⑤ [Azure AD に移動] をクリック

Adobe ID

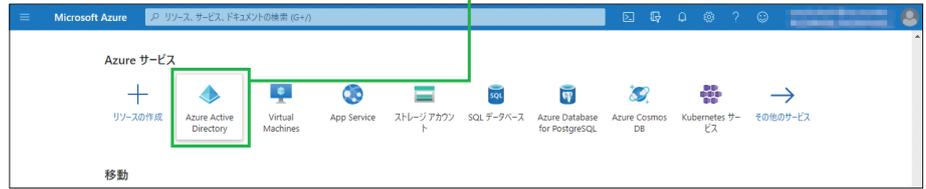
Enterprise ID

Federated ID

エンタープライズアプリケーションを追加する

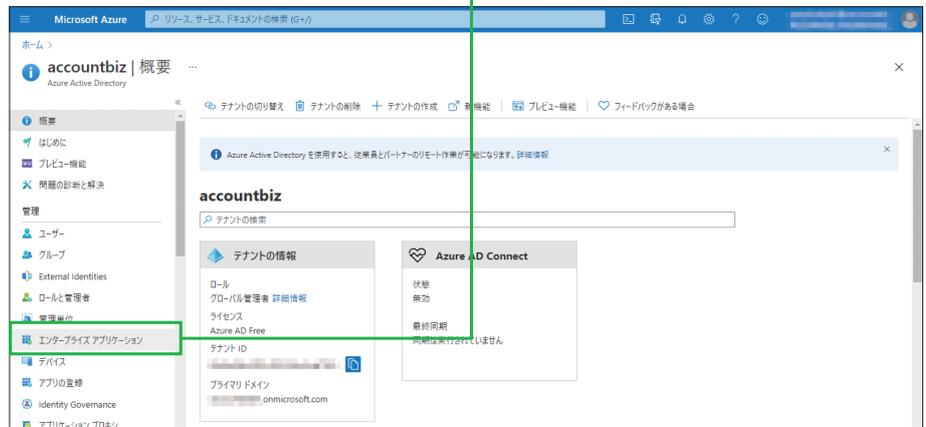
Microsoft Azureの管理画面が表示された

① [Azure Active Directory] をクリック



Azure ADで設定したディレクトリの [概要] 画面が表示された

② [エンタープライズアプリケーション] をクリック



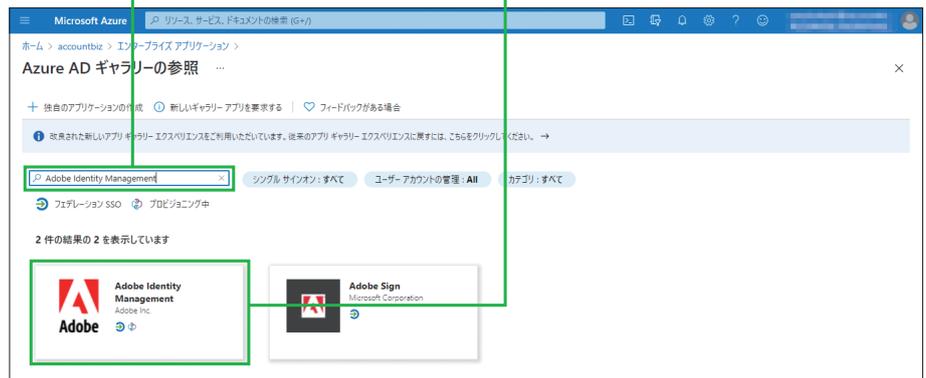
③ [新しいアプリケーション] をクリック



! [エンタープライズアプリケーション] の画面に、すでに [Adobe Identity Management] が表示されている場合がありますが、必ず新しい [Adobe Identity Management] を作成しましょう。

④ 検索ボックスに「Adobe Identity Management」と入力

⑤ [Adobe Identity Management] をクリック



1

2

3

4

5

6

画面右側に「Adobe Identity Management」の説明が表示された



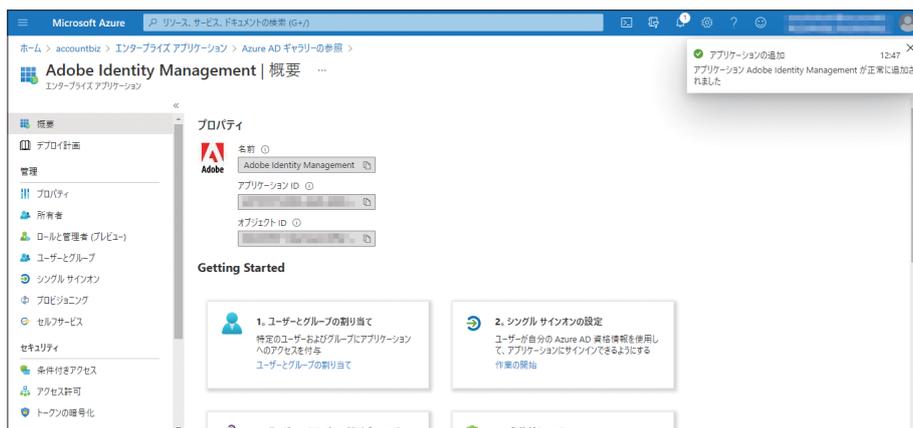
⑥ 「作成」をクリック

「Adobe Identity Management」の「名前」について

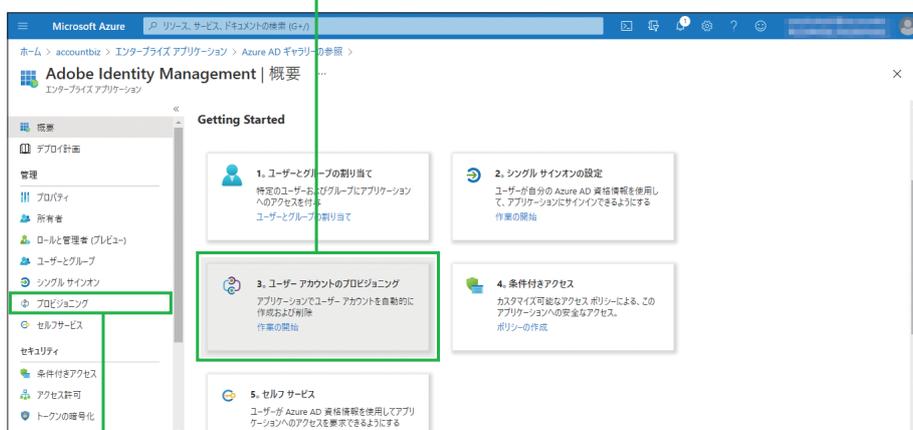
手順⑥の画面右側にある「名前」を、「For Sync - Adobe Identity Management」などに変更すると、見分けが付きやすくなります。

「Adobe Identity Management」が正常に追加され、「概要」の画面が表示された

⑦ 画面を下にスクロール



⑧ 「ユーザーアカウントのプロビジョニング」をクリック



画面左の「プロビジョニング」をクリックしてもいい

Adobe ID

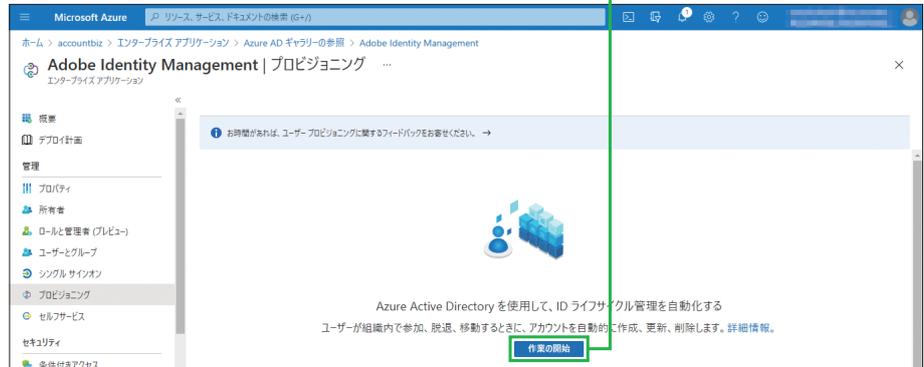
Enterprise ID

Federated ID

プロビジョニングを自動化する

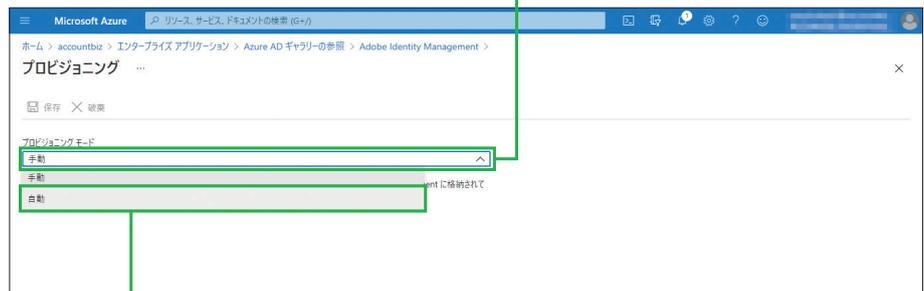
[プロビジョニング] の画面が表示された

① [作業の開始] をクリック



[プロビジョニングモード] の選択画面が表示された

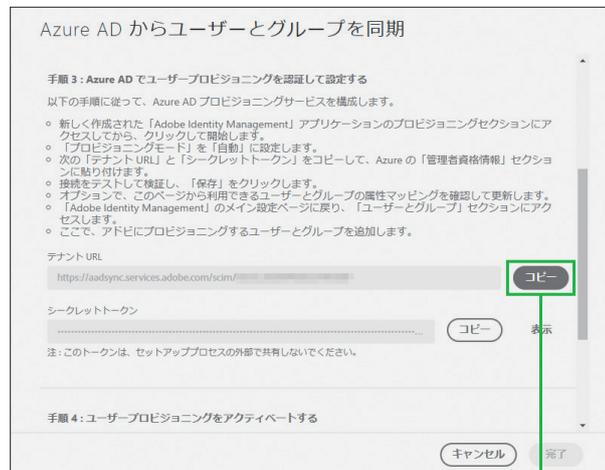
② [手動] をクリック



③ [自動] をクリック

画面下に [管理者資格情報] の入力欄が表示される

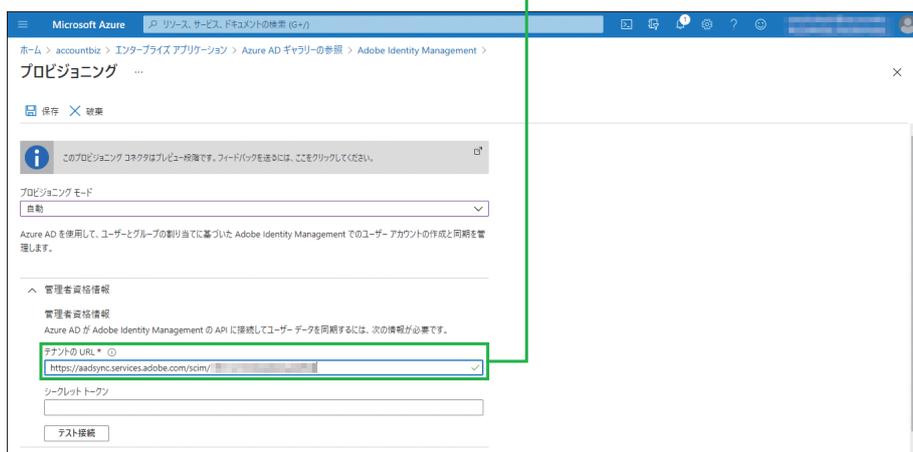
Admin Consoleの画面に切り替えて、[手順3] の説明を表示する



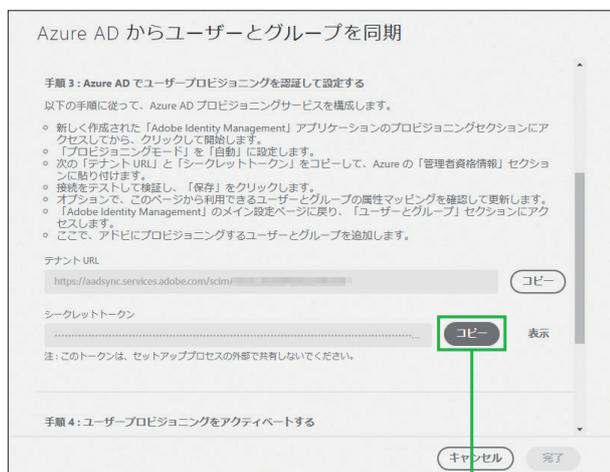
④ [テナント URL] の [コピー] をクリック

Azure AD の画面に
切り替える

⑤ [テナントの URL] のテキストボックスに、
手順④でコピーした URL をペースト



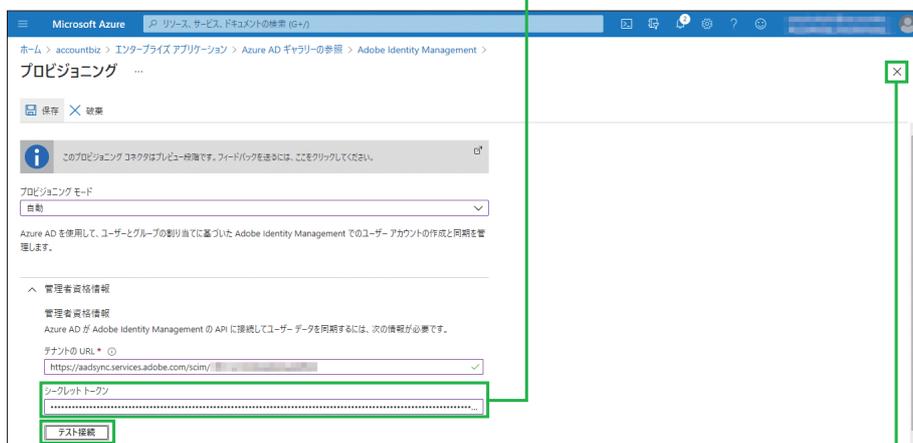
Admin Console の画面に切り替える



⑥ [シークレットトークン] の
[コピー] をクリック

Azure AD の画面に
切り替える

⑦ [シークレットトークン] のテキストボックスに、
手順⑥でコピーした情報をペースト



⑧ [テスト接続] を
クリック

テスト接続が問題なく完了したら、画面右上の [×] を
クリックして [プロビジョニング] 画面を閉じておく

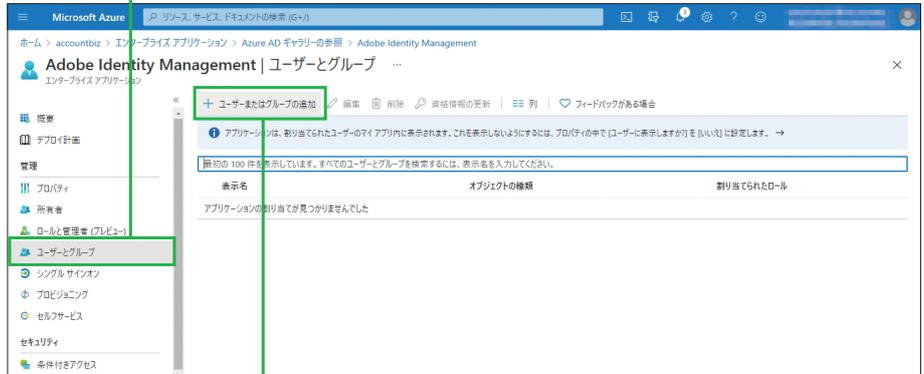
Azure ADのユーザーを割り当てる

ユーザーグループの追加について

Azure ADのプラン (Azure AD Premium) によっては、ユーザーグループの追加・割り当ても可能です。

Azure ADではユーザー情報のみを登録した場合は、Admin Console上でユーザーグループを作成し、CSVファイルまたは手作業でユーザーを割り当てます。詳細はSTEP 36を参照してください。

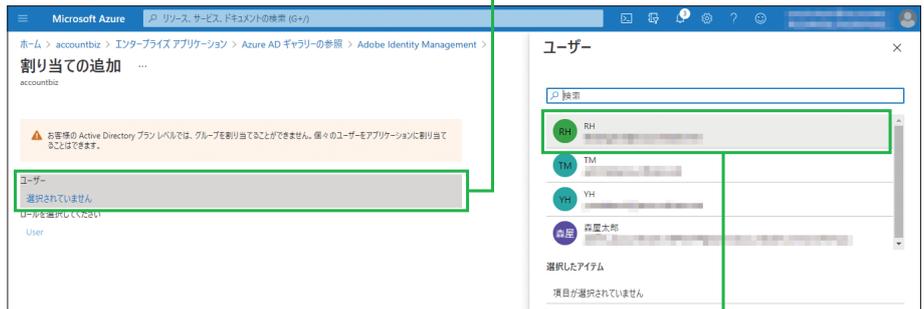
1 [ユーザーとグループ] をクリック



2 [ユーザーまたはグループの追加] をクリック

[割り当ての追加] の画面が表示された

3 [ユーザー] をクリック

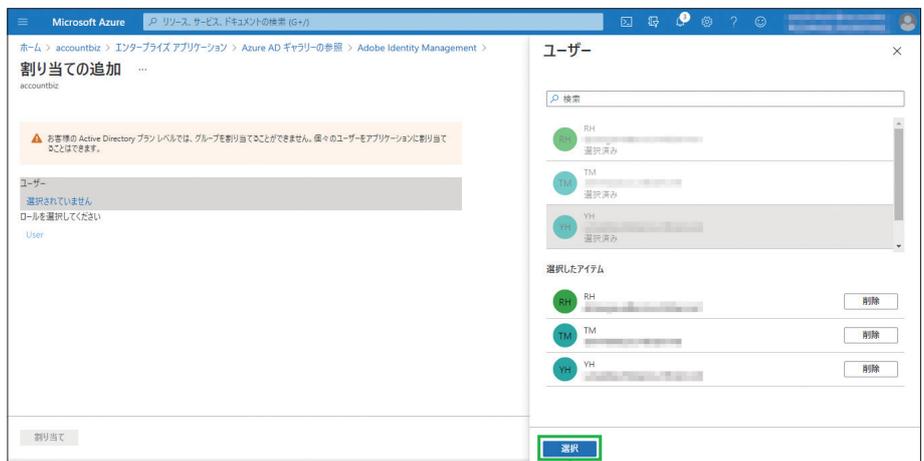


画面右に割りユーザーの一覧が表示された

4 追加するユーザー名をクリック

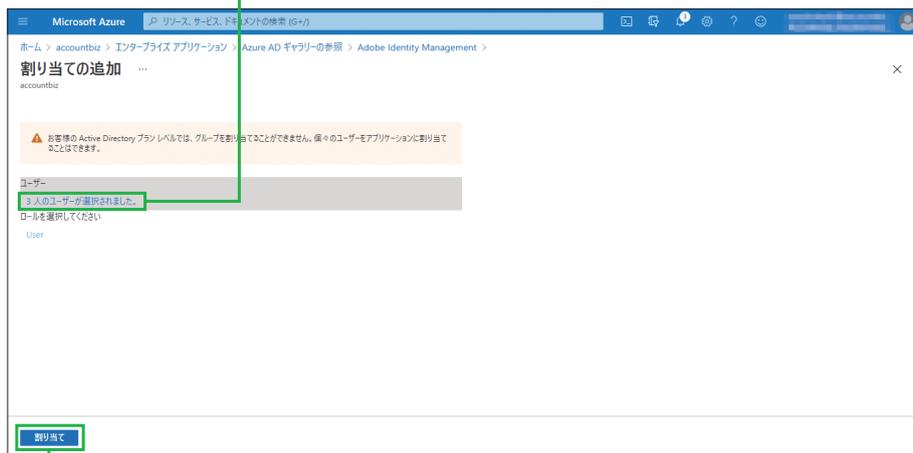
同様に、Admin Consoleと同期するすべてのユーザーを選択する

[選択したアイテム] に Admin Consoleと同期するユーザー名が表示される



5 [選択] をクリック

【〇人のユーザーが選択されました】と表示された



6 【割り当て】をクリック

割り当てができたユーザーが一覧表示された

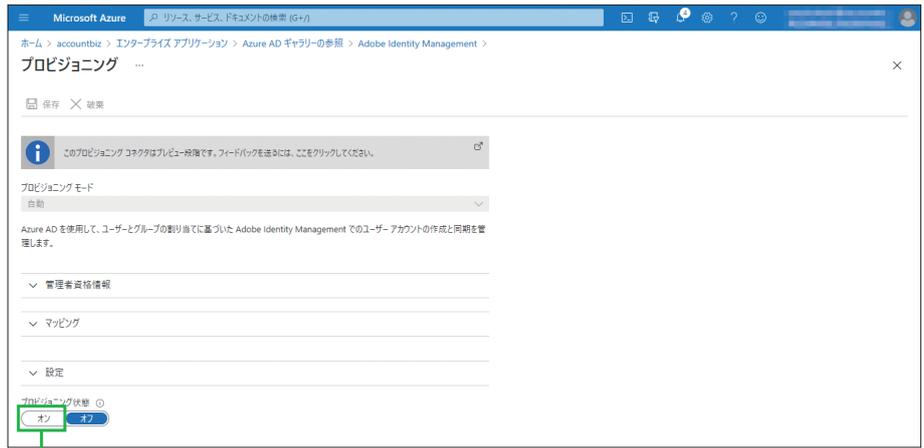


プロビジョニング状態をオンにする

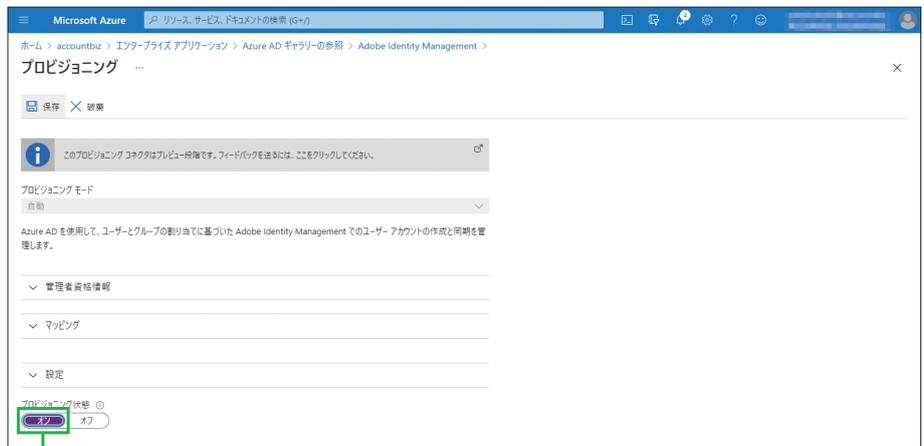
1 【プロビジョニング】をクリック

2 【プロビジョニングの編集】をクリック





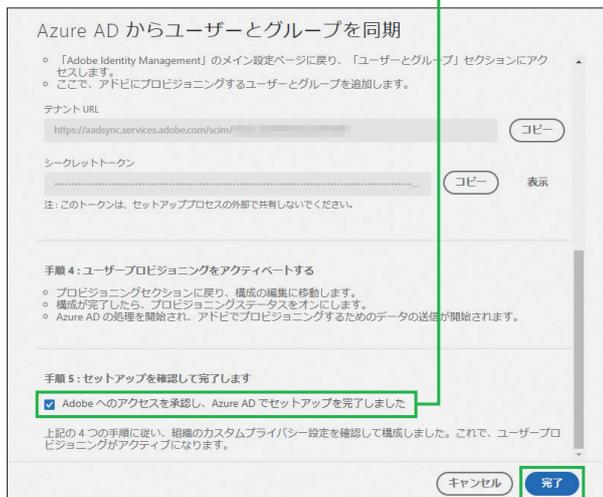
③ [プロビジョニングの状態] の [オン] をクリック



[プロビジョニング状態] を変更できた

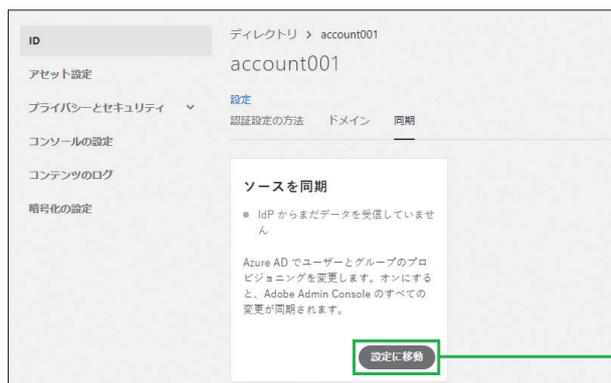
Admin Consoleの画面に切り替える

④ [手順5] の内容を確認してチェックボックスをクリック



⑤ [完了] をクリック

ソースを同期する



[同期] タブに [ソースを同期] と表示された

① [設定に移動] をクリック



[同期の設定を編集] の画面が表示された

② 画面を下へスクロール

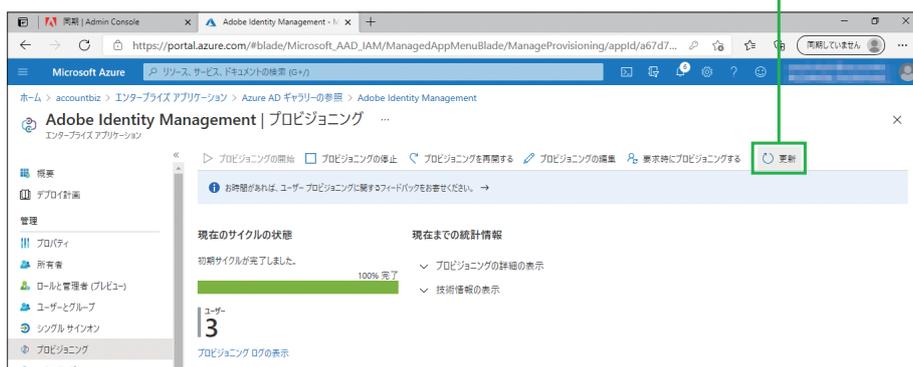
③ [ユーザー同期の構成を編集] の [同期の設定] をクリック



Azure AD の画面が表示されるので、[プロビジョニング状態] などを確認して変更する

④ [保存] をクリック

Azure AD の [プロビジョニング] の画面で [更新] をクリックして、同期を開始する



1
2
3
4
5
6

Adobe ID
Enterprise ID
Federated ID

ディレクトリと Google ドメインの 設定方法 **必須**

シングルサインオンについて

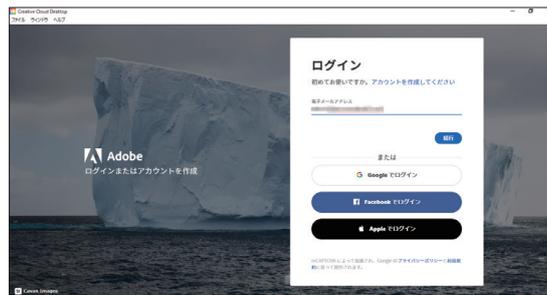
Federated ID の利用 について

Federated ID を使用すると、以下のメリットがあります。

- ・ ユーザーの認証を組織側で管理できる
- ・ ユーザーが使用するアプリやサービスを厳格に管理できる

企業などで使用するドメインや資格情報を、ほかのエンタープライズディレクトリで管理・運用している場合は、Federated ID の利用がおすすめです。ほかのディレクトリへログインするときと同じユーザー ID とパスワードを使って、Adobe Creative Cloud にログインできます。

Adobe Creative Cloud を起動すると、Google の ログイン画面が表示されるようになる



Google とのフェデレーション設定について

フェデレーション設定に ついて

Federated ID を利用するには、Admin Console と、Google Workspace などのエンタープライズディレクトリを連携させる必要があります。エンタープライズディレクトリは、ID プロバイダー (IdP) としてユーザーの認証情報をアドビへ提供し (SAML 認証)、シングルサインオンを可能にします。そのため、利用する ID プロバイダーが SAML 2.0 に対応しているかを事前に確認しましょう。

ここでは、Admin Console と Google の Google Workspace とを連携させる手順を説明します。以下の 2 画面を交互に使用するので、Web ブラウザーのタブを切り替えながら進めましょう。

ディレクトリを作成する

Admin Consoleにログインして、**[設定]** タブを表示しておく

① **[ディレクトリを作成]** をクリック



! ディレクトリの作成を始める前に、エンタープライズディレクトリ側でドメインクレーム、ユーザーの登録を行っておきましょう。

Cloud Identityサービスについて

Google Workspaceでシングルサインオンを行うには、「Cloud Identity」サービスの登録が必須です。手順②の管理画面でメインメニュー - [お支払い] - [サブスクリプション] をクリックした後、[Cloud Identity Free] または [Cloud Identity Premium] のいずれかを設定します。Google Workspaceに登録するユーザー数が50を超える場合は、有料の [Cloud Identity Premium] が必要です。



② **ディレクトリ名を入力**

③ **[Federated ID] をクリック**

④ **[次へ] をクリック**



ここでは、IDプロバイダーとしてGoogleを選択する

⑤ **[Google] をクリック**

⑥ **[次へ] をクリック**

登録ユーザー数に応じていずれかを設定する



COLUMN Google以外のIDプロバイダーの利用について

Microsoft AzureとGoogle以外のIDプロバイダーを利用しているときは、手順⑤の画面で [他のSAMLプロバイダー] をクリックします。移行の操作はWebページを参照してください。

▼ Adobe SSO で使用する Microsoft AD FS の構成

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/kb/configure-microsoft-ad-fs-with-ss.html>

▼ Adobe SSO で使用する Shibboleth IdP の構成

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/kb/configure-shibboleth-with-adobe-ss.html>

▼ Adobe SSO で使用する Okta の構成

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/kb/configure-okta-with-adobe-ss.html>

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

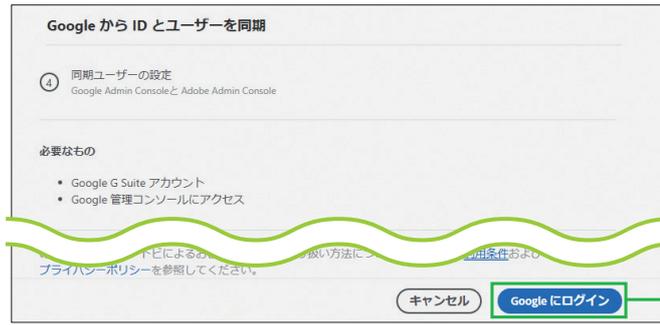
Enterprise ID

Federated ID

ドメインをクレーム (検証) する

! Google にログインするときは、必ず Google Workspace の管理者アカウントでログインしましょう。

ドメインクレームについて
ドメインのクレーム (検証) は、エンタープライズディレクトリ側で行われるため、Admin Console 上では確認操作のみになります。



IDとユーザーの同期に関する説明が表示された

1 [Googleにログイン] をクリック

Googleのログイン画面が表示された

Google Workspaceの管理用アカウントを選択する



2 管理用アカウントのパスワードを入力

3 [次へ] をクリック

初めて Admin Console から Google にログインしたときは Adobe Identity Management への許可に関する画面が表示されるので、複数回 [許可] をクリックする



ディレクトリの詳細が表示されるので、確認する

4 [確定] をクリック



Google Workspace上でクレーム (検証) 済みのドメインが表示された

5 ここをクリックして [同期中] に変更

6 [次へ] をクリック

Google Workspace の管理コンソールで SAML アプリを設定する - ①

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6

Google Workspace と連携するための
設定手順が表示された

手順①から順に
操作を進める



① [Google 管理コンソール
に移動する] をクリック

! 以降の操作では、
Admin Console と Google
Workspace の管理画面を
切り替えながら操作しま
す。どちらの画面での操
作なのかを確認しながら
進めましょう。

Google Workspace の管理画面が
表示された

② [アプリ] を
クリック



[アプリ] の画面が表示された

③ [SAML アプリ] をクリック



④ [アプリを追加] をクリック

⑤ [アプリを検索] をクリック



Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

Google Workspaceの管理コンソールでSAMLアプリを設定する - ②

! 手順①の画面で Adobe のサービスを検索すると、一覧に [Adobe] と [Adobe Sign] が表示されますが、必ず [Adobe] を選択します。

! 手順④でダウンロードしたメタデータは、P.110の「Googleメタデータを Admin Console にアップロードする」でアップロードします。

① 「Adobe」と入力

② [Adobe] をクリック



③ [選択] をクリック

④ [オプション1] の [メタデータをダウンロード] をクリック



⑤ [続行] をクリック

[サービスプロバイダの詳細] の画面が表示された



この画面を表示したまま、Admin Consoleの画面に切り替えて必要なデータをコピー&ペーストする

P.107の Admin Consoleの画面に切り替えて、手順②の説明を表示する

[ACS URL] の [クリップボードにコピー] をクリックして、手順⑥の箇所にペーストする

[エンティティ ID] の [クリップボードにコピー] をクリックして、手順⑦の箇所にペーストする

Google Workspaceの管理画面に切り替える

⑥ [ACSの URL] に、Admin Consoleの [ACS URL] の値をペースト

⑦ [エンティティ ID] に、Admin Consoleの [エンティティ ID] の値をペースト

⑧ 画面を下にスクロール

⑨ [署名付き応答] をクリックして、チェックマークを付ける

⑩ [名前 ID の形式] で [EMAIL] を、[名前 ID] で [Basic Information > Primary email] を選択

⑪ [続行] をクリック

⚠️ [ACS URL] と [エンティティ ID] の値は、貼り付ける場所を間違えないよう、1つずつ確実にコピー＆ペーストを行います。

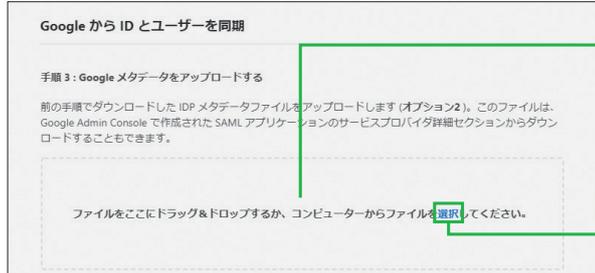
ACS URLとエンティティ IDの値について

手順⑥と手順⑦では、前ページ最後の画面に表示されている `[[your-acs-url]]` と `[[your-entity-id]]` の文字を削除してからペーストします。

Google メタデータを Admin Console にアップロードする

Admin Consoleの画面に切り替えて、
[手順3] の説明を表示する

P.108でダウンロードしたファイルを
アップロードする



1 ファイルをここに
ドラッグ&ドロップ

[選択] をクリックすると、
選択画面が表示される

ファイルがアップロードされた



Google Workspaceの管理画面に切り替える

2 [完了] をクリック



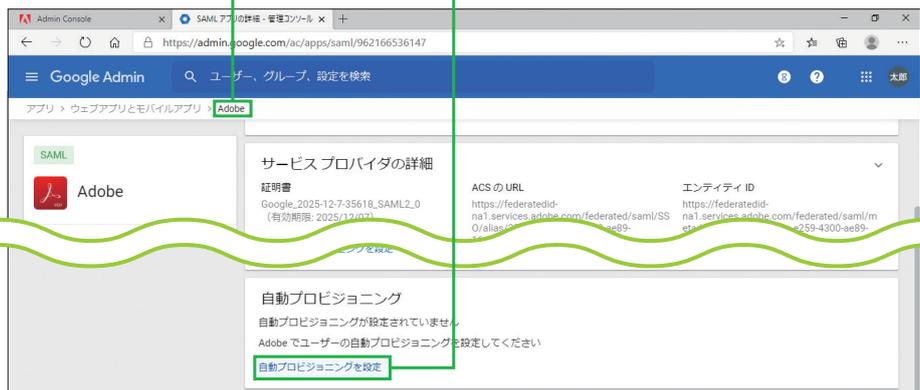
ユーザープロビジョニングを設定する - ①

マッピング設定について

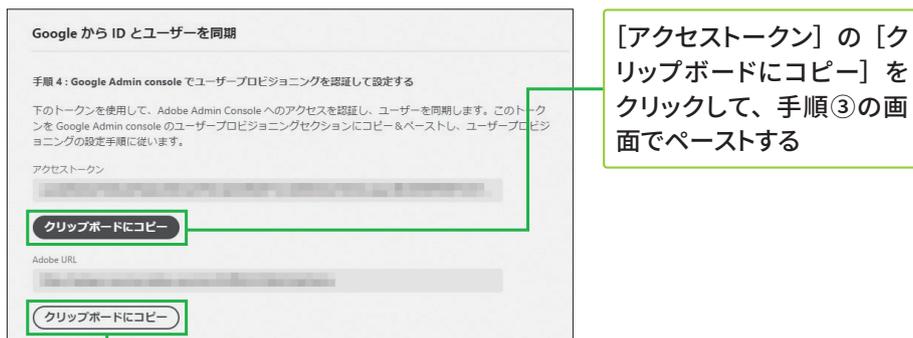
前の手順で [完了] をクリックすると、[SAML属性のマッピング] の画面が表示されますが、ここでは特に設定せず、[Adobe] の画面を表示します。

1 [Adobe] をクリック

2 [自動プロビジョニングを設定] をクリック



Admin Consoleの画面に切り替えて、[手順4] の説明を表示する



[Adobe URL] の [クリップボードにコピー] をクリックして、手順⑤の画面でペーストする

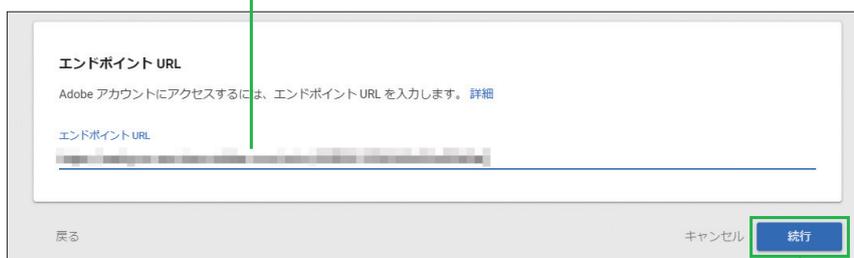
Google Workspaceの管理画面に切り替える

③ Admin Consoleの[アクセストークン]の値をペースト



④ [続行] をクリック

⑤ エンドポイントURLに、Admin Consoleの[Adobe URL]の値をペースト



⑥ [続行] をクリック

[属性] の画面が表示された

変更せずに次の操作へ進む



⑦ [続行] をクリック

⚠️ [アクセストークン] と [Adobe URL] (Google Workspace の管理画面では [エンドポイント URL]) の値は、貼り付ける場所を間違えないよう、1つずつ確実にコピー&ペーストを行います。

Google Workspace のユーザーグループについて

Google Workspaceの管理画面から [グループ] をクリックすると、[グループ] の画面が表示されます。画面上の [グループを作成] をクリックすると新しいグループが作成できるので、Admin Consoleと同期させたいユーザーを追加します。

なお、Google Workspaceのユーザーグループは、Admin Consoleとは同期されません。必要に応じてAdmin Console上で別途ユーザーグループを作成しましょう。

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

ユーザープロビジョニングを設定する - ②

プロビジョニングの対象設定について

手順①の画面で何も指定しないと、Google Workspaceに登録されたすべてのユーザーがFederated IDとして登録されます。

ここではプロビジョニング対象となるユーザーグループを指定する

① グループ名を設定

② [続行] をクリック

[プロビジョニングの対象を設定] で指定したユーザーグループに所属するユーザーが、Federated ID ユーザーとして Admin Console で同期される

[プロビジョニング解除] の設定は変更せずに進める

③ [完了] をクリック

サービスとユーザープロビジョニングを有効化する

手順5の説明について

Admin Console [手順5] の画面は、P.112～113にある操作手順の説明のみなので、Admin Consoleの画面に切り替える必要はありません。

Admin Consoleの画面では以下のように説明のみ表示される

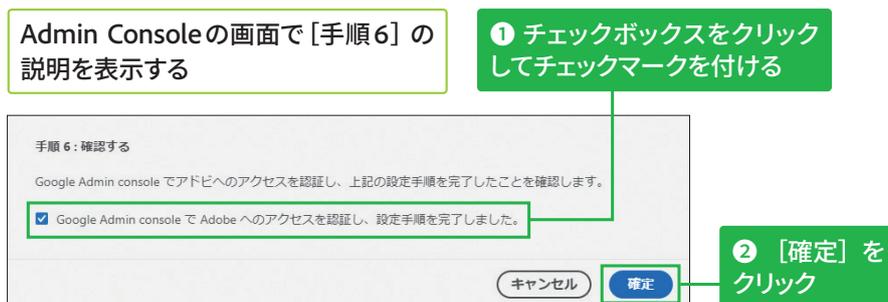
手順5: SAML アプリリソースを有効にし、ユーザープロビジョニングを有効にする
「サービスプロバイダ」をクリックし、サービスプロバイダを選択して、SAML アプリリソースを有効にします。次に、ユーザープロビジョニングを有効にする「プロビジョニング解除」をクリックしてユーザープロビジョニングを有効にします。

① 上にスクロールして画面上部を表示

② [ユーザーアクセス] をクリック



Admin Console で設定を確認する



ディレクトリの詳細画面について

ディレクトリの詳細画面は、Admin Consoleで [設定] タブ - [ID] - [ディレクトリ] - [〇〇 (ディレクトリ名)] の順にクリックすると表示できます。[ディレクトリソース]にある [Googleにログイン] をクリックすると、Googleのログイン画面が表示され、Google Workspaceの管理画面を表示できます。

パッケージ (インストーラ) の作成方法 任意

マネージドパッケージのビルド (作成) を開始する

マネージドパッケージについて

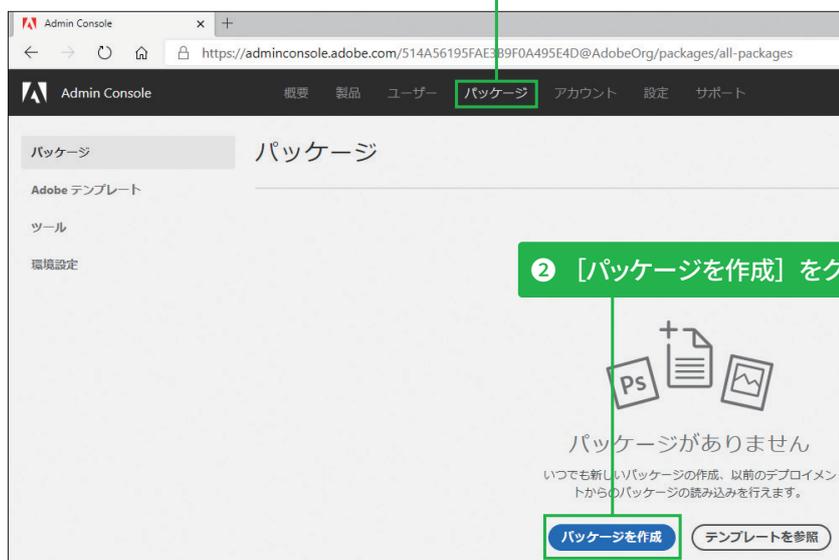
手順③の画面で [マネージドパッケージ] を選択すると、ユーザーのデバイスにデプロイ、またはインストールするアプリケーションを管理者側がカスタマイズできます。さらに、アップデートや各種設定もIT管理者が個別に制御可能です。

セルフサービスパッケージについて

手順③の画面で [セルフサービスパッケージ] を選択すると、アドビ製品のインストール権限 (OS側の管理者権限) が埋め込まれた Creative Cloud デスクトップアプリケーションの特別版が作成されます。ユーザーが自分自身で製品を選択してデプロイ、またはインストールできるうえ、ユーザー自身のタイミングでアップデートなどを行います。これにより、組織内のIT管理者の作業負荷が削減されます。

Admin Console にログインしておく

① [パッケージ] タブをクリック



パッケージ一覧が表示されている場合は、画面右上にある [パッケージを作成] をクリックする

ここでは [マネージドパッケージ] を作成する

③ [マネージドパッケージ] をクリック

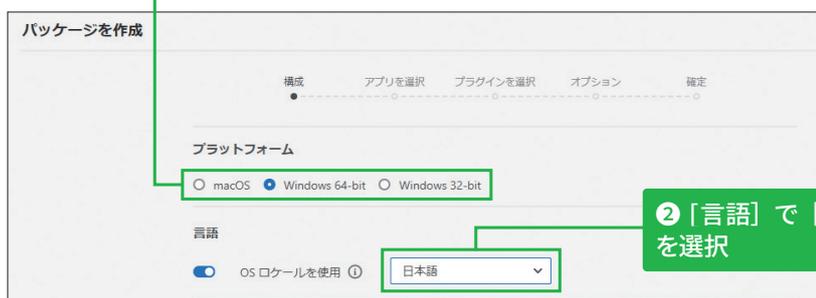


④ [次へ] をクリック

パッケージの言語とアプリケーション、プラグインを選択する

① 使用OSをクリック

ここでは [Windows 64-bit] をクリックする

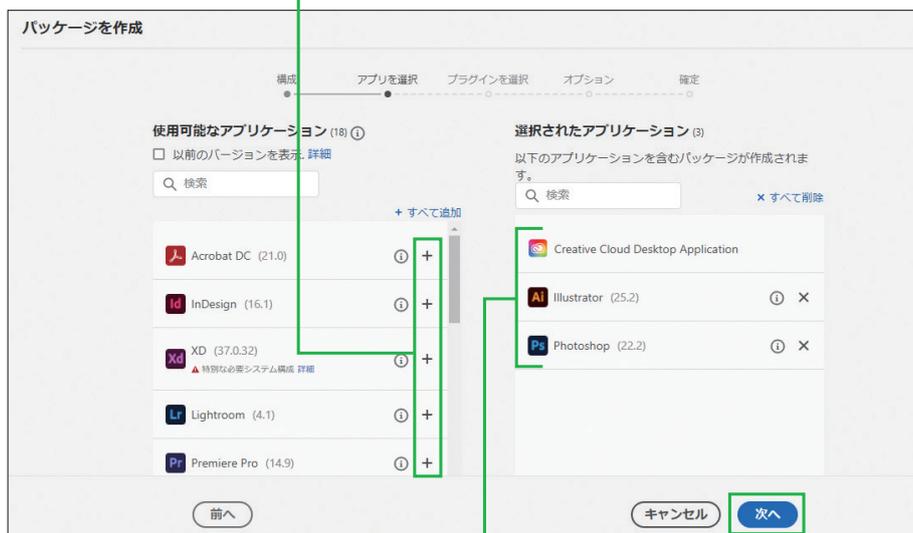


② 「言語」で「日本語」を選択

③ 画面右下の[次へ]をクリック

④ パッケージに含めるアプリケーション名の右にある[+]をクリック

すべてを選択する場合は[+すべて追加]をクリック



[選択されたアプリケーション] に、アプリケーションが追加された

⑤ [次へ]をクリック

必要に応じてプラグインを選択する

ここでは追加せずに進める



⑥ [次へ]をクリック

OSロケールについて

[言語]の[OSロケールを使用]は、デバイスのOSで設定されている言語に合わせてアプリケーションをインストールできる機能です。デフォルトでオンになっているので、手順②の設定を忘れても、使用言語のアプリケーションが自動で設定されます。

! 手順①で[Windows 32bit]を選択すると、利用できる製品が極端に少なくなります。

選択アプリケーションの変更について

選択したアプリケーションを削除するには、[選択されたアプリケーション]に表示されたアプリケーション名の[X]をクリックします。

! マネージドパッケージを作成する際、手順④の画面でAcrobatを選択するのは推奨されません。Acrobatは[Customization Wizard]というツールを使用します。詳細はP.134の「Acrobatのデプロイ(インストール)について」を参照してください。

! 手順④の画面にある[使用可能なアプリケーション]で、以前のバージョンのアプリケーションも表示する場合は事前の設定が必要です。詳細は、P.117のCOLUMNを確認してください。

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

オプションを確認して設定する

【管理オプション】の詳細について

【管理オプション】にある上3つの項目については、以下のWebページも確認してください。

▼ Adobe Remote Update Managerの使用

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/using-remote-update-manager.ug.html>

▼ AUSSTの概要

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/update-server-setup-tool.html>

▼ パッケージに拡張機能を含める

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/manage-extensions.html>

① 表を参考に、各項目のチェックボックスをクリックしてオン/オフに設定



● オプションの設定項目について

	項目名	説明
Creative Cloud デスクトップ オプション	セルフサービスインストールを有効化	オンにすると、エンドユーザーがアプリケーションパネルからアプリケーションをインストール・アップデートできる
	管理者権限のないユーザーにアプリの更新とインストールを許可	オンにすると、管理権限をもたないエンドユーザーのセルフサービスが有効になる
	セルフサービスのプラグインのインストールを有効化	オンにすると、エンドユーザーがCreative Cloudデスクトップアプリケーションパネルからプラグインをデプロイ・更新できる
	ファイルの同期を無効化	オンにすると、ファイルの自動同期を制限するほか、アセット機能やモバイル連携が使用不可になる
	ブラウザベースのログインを有効化	オンにすると、Creative Cloud デスクトップアプリから、ブラウザベースにログインできる
管理オプション	Remote Update Manager を有効化	オンにすると、リモートで各デバイスにアップデートをインストールできる (ヒント参照)
	内部 Adobe Update Server にリダイレクト	オンにすると、AUSSTを使用してアップデートできるようになる (ヒント参照)
	拡張機能用のフォルダーを作成して、Extension Manager コマンドラインツールを含める	オンにすると、パッケージに拡張機能を含めて作成する (ヒント参照)
	カスタムインストールディレクトリにパッケージをインストール	オンにすると、カスタムインストールディレクトリにパッケージをインストールできる

パッケージをビルド（作成）する

① パッケージ名を入力

そのほかの設定内容を確認して、変更があれば [前へ] をクリックする

② [パッケージをビルド] をクリック

! ビルドしたパッケージの有効期限は3日間です。3日を過ぎると [期限切れ] と表示され、ダウンロードできなくなります。

パッケージのアップデートについて

パッケージ内のアプリケーションにアップデートがあると「最新ではありません」と表示されます。その場合は、パッケージ名-画面右にある [パッケージを更新] の順にクリックして、更新があるアプリケーションのみをビルドするかパッケージを丸ごとビルドするかを選択し、[パッケージを更新] をクリックします。なお、期限切れのパッケージを選択した場合も新しく作成できます。

パッケージのビルド（作成）が終わるまでしばらく待つ

[パッケージ] の画面にビルドしたパッケージが表示された

パッケージ名	プラットフォーム	アプリケーション	言語	ライセンス	作成日	状態	ダウンロード
package02	Windows (64-bit)	3	日本語	ユーザー指定ライセンス	2020/12/03	最新	ダウンロード
package01	Windows (64-bit)	1	日本語	ユーザー指定ライセンス	2020/12/03	最新	ダウンロード

COLUMN 利用可能なアプリの複数バージョンを表示する方法

P.115にある [パッケージを作成] の画面で、複数のバージョンを表示するには、以下の設定をしてから [以前のバージョンを表示] にチェックを入れます。

① [パッケージ] タブをクリック

② [環境設定] をクリック

③ [利用可能なアプリケーションのバージョン] のここをクリックしてチェックマークを付ける

[パッケージを作成] の画面で [以前のバージョンを表示] をクリックすると、利用可能な以前のバージョンが表示される

ユーザーグループの追加と削除方法 任意

ユーザーグループを追加する

ユーザーグループの一括作成について

ユーザーグループはCSVファイルを利用して一括で追加可能です。手順①の画面にある「新規ユーザーグループ」の右側の「[...]」-「ユーザーグループを追加」の順にクリックして、ユーザーグループを指定したCSVファイルをアップロードします。詳細は以下のWebページを参照してください。

▼ユーザーグループの管理／ユーザーグループの一括作成

https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/admin-guide.html/jp/enterprise/using/user-groups.ug.html#main-pars_text_775962706

Admin Consoleにログインして、
[ユーザー] タブを表示しておく

① [ユーザーグループ]
をクリック

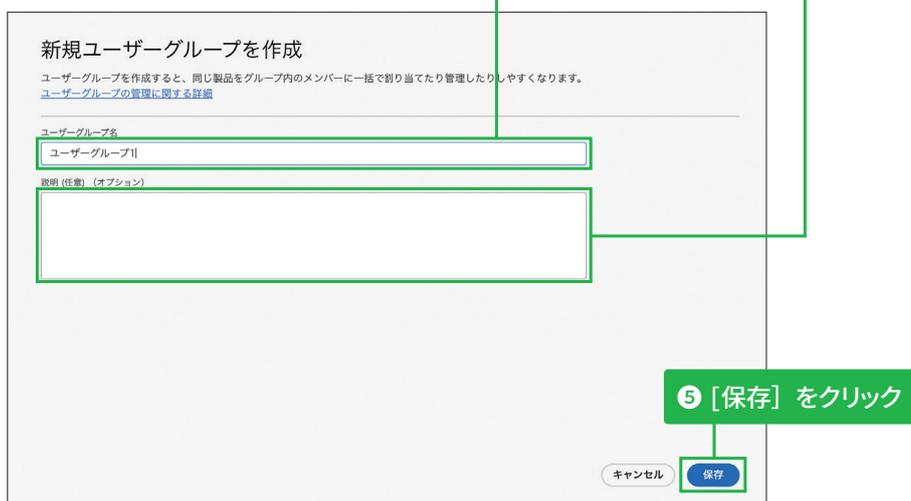
② [新規ユーザーグループ]
をクリック



[新規ユーザーグループを作成]
の画面が表示された

③ ユーザーグループ
名を入力

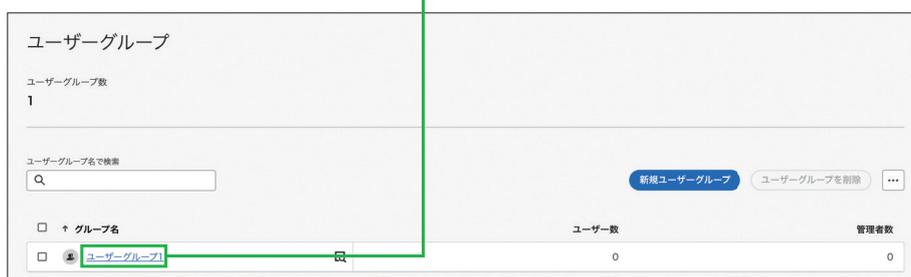
④ 必要に応じて
説明を入力



⑤ [保存] をクリック

ユーザーグループが追加できた

⑥ ユーザーグループ名をクリック



ユーザーグループの詳細画面が表示できた



[ユーザーを追加] をクリックして、ユーザーを追加する

ユーザーグループの各種設定

ユーザーグループへの製品プロファイル割り当て方法はSTEP 37を、ユーザーグループ管理者の作成はSTEP 38を参照してください。

ユーザーグループを削除する

[ユーザー] タブのユーザーグループ一覧を表示しておく

① ユーザーグループ名の左にあるチェックボックスをクリックしてチェックマークを付ける

② [ユーザーグループを削除] をクリック



③ [ユーザーグループを削除] をクリック



ユーザーグループが削除される

ユーザーグループ管理者による削除

ユーザーグループ管理者は、自分が管理しているユーザーグループは削除できますが、管理外のグループは削除できません。

製品プロフィールの割り当てと解除方法 **必須**

ユーザーへのメール通知をオフに設定する

製品プロフィールをユーザーに割り当てると、個々のユーザーにメールが届きます。ユーザーに不要なメールが送信されないように設定したいときは、最初に以下の方法でメール通知をオフにしましょう。

Admin Consoleにログインして、[製品] タブを表示しておく



① [すべての製品とサービス] をクリック

② 製品プロフィール名をクリック

製品プロフィールの画面が表示された

③ [詳細] をクリック



製品プロフィールの設定画面が表示された

④ ここを下にスクロール

⑤ [メールでユーザーに通知] のここをクリックして、オフに設定

⑥ [次へ] をクリック

方法1：[製品] タブから製品プロフィールを割り当てる

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

前ページの手順②にある製品プロフィールの画面を表示しておく

① [ユーザーを追加] をクリック



② ユーザー名またはメールアドレスを入力

③ 該当するユーザー名をクリック

この製品プロフィールにユーザーを追加

この製品プロフィールに追加するユーザーのメールアドレスを入力してください。

ユーザー 1 削除

名前、ユーザーグループ、またはメールアドレスを入力

製品の役割

ユーザー 2

名前、ユーザーグループ、またはメールアドレスを入力

ユーザー 3

名前、ユーザーグループ、またはメールアドレスを入力

キャンセル

④ [保存] をクリック

ユーザーを追加できた



方法2：[ユーザー] タブからプロフィールを割り当てる

割り当て方法について

製品プロフィールの割り当ては、ここで紹介する3つの方法があります。ユーザー1人ずつに割り当てる場合はこのページを、まとめて割り当てる場合はP.123を参照してください。

Admin Consoleにログインして、**[ユーザー]** タブを表示しておく

① 製品プロフィールを割り当てるユーザー名をクリック



ユーザーの詳細画面が表示された

② [製品] の[...] をクリック



③ [製品を編集] をクリック

[製品とユーザーグループを編集] 画面が表示された



④ [+] をクリック

⑤ ペンアイコンをクリック

⑥ [製品] タブに表示された製品名をクリック



⑦ 製品プロフィール名のここをクリック

⑧ [保存] をクリック

製品プロフィールが割り当てられた

方法3：ユーザーグループに製品プロフィールを割り当てる

[ユーザー] タブのユーザーグループ一覧で、製品プロフィールを割り当てるユーザーグループをクリックする

① [割り当てられた製品プロフィール] をクリック



② [プロフィールを割り当て] をクリック

③ ペンアイコンをクリック

④ 製品名をクリック



⑤ 製品プロフィール名のここをクリック

[保存] をクリックすると、ユーザーグループに所属するユーザーに製品プロフィールが割り当てられる

CSVファイルでの一括割り当て

STEP 36で説明したCSVファイルに、製品プロフィール名を入力すると、一括登録が可能です。

[製品] タブからでも割り当てられる

P.121の「方法1」で、手順①の後にユーザーグループ名を指定すると、ユーザーグループに製品プロフィールを割り当てることができます。

製品プロフィールの割り当てを解除する

製品プロフィールの詳細画面にある [ユーザー] 画面を表示しておく

① ユーザー名またはユーザーグループ名のチェックボックスをクリックして、チェックマークを付ける

② [ユーザーを削除] をクリックする



再度 [ユーザーを削除] をクリックする

ユーザーグループへの割り当て解除

ユーザーグループに割り当てた製品プロフィールを削除するには、左の画面でユーザーグループ名のチェックボックスをクリックして、チェックマークを付けた後、同様に操作します。

ユーザーグループ管理者の追加方法

任意

ユーザーグループ管理者を追加する

! この操作は、STEP 34 で設定した Google (Google Workspace) を利用する場合に限ります。

ユーザーグループ管理者の操作範囲

担当するユーザーグループへのユーザーの追加と削除、製品プロファイルの割り当てと解除のほか、ユーザーグループの削除も可能です。

ユーザーグループの作成や担当外のユーザーグループの削除はできません。

[ユーザー] タブの [管理者] 画面からの設定
手順①の画面の左にある [管理者] をクリックすると、設定された管理者の一覧が表示されます。この画面にある [管理者を追加] をクリックしても、設定可能です。詳細は STEP 39 を参照してください。

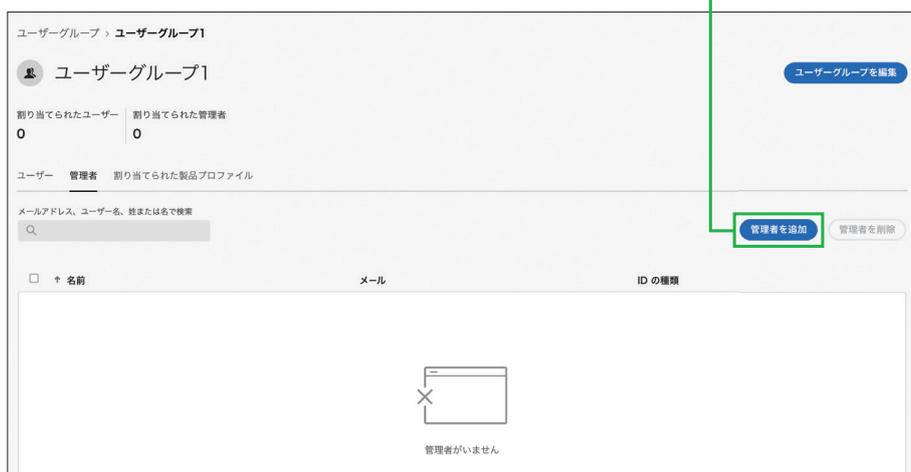
STEP 36 を参考に、ユーザーグループの詳細画面を表示しておく

① [管理者] タブをクリック



ユーザーグループの [管理者] 画面が表示された

② [管理者を追加] をクリック



ユーザーグループ管理者が追加された

[ユーザーグループ管理者を追加] の画面が表示された

① ユーザーグループ管理者として設定するユーザーのメールアドレスを入力

② [保存] をクリック

ユーザーグループ管理者が設定できた

ユーザーグループ管理者に設定の通知メールが届く

ユーザーグループ管理者の削除

ユーザーグループの管理者一覧画面で、管理者名の左にあるチェックボックスをクリックしてチェックマークを付けた後、[管理者を削除] をクリックします。

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

その他の管理者の追加方法 任意

方法1：製品管理者を追加する

製品管理者の操作範囲

担当する製品に製品プロフィールを作成できるほか、ユーザーやユーザーグループの追加と削除が可能です。

Admin Consoleにログインして、[製品] タブを表示しておく

① 製品名の [管理者] をクリック

② [管理者を追加] をクリック



STEP 38を参考に、製品管理者を追加する

方法2：製品プロフィール管理者を追加する

製品プロフィール管理者の操作範囲

担当する製品プロフィールに対するユーザーやユーザーグループの追加と削除が可能です。

製品プロフィールの詳細画面を表示しておく

① 製品プロフィールの [管理者数] をクリック

② [管理者を追加] をクリック



STEP 38を参考に、製品プロフィール管理者を追加する

方法3：[ユーザー] タブの[管理者] 画面から追加する

[ユーザー] タブの [管理者] 画面を表示する

設定した管理者が一覧で表示され、[管理ロール] から担当範囲を確認できる

① [管理者を追加] をクリック



ユーザーの選択画面が表示されるので、ユーザー ID を指定して [次へ] をクリックする

[管理権限を編集] の画面が表示される

② ここをクリックして、管理者権限を切り替え



③ [保存] をクリック

管理者に指定されたユーザーについて

ユーザーに管理者権限を割り当てると、指定したユーザーのメールアドレスに通知メールが送信されます。ユーザーは受信したメールの指示に従って Admin Console にログインすると、決められた管理作業が行えます。

管理者権限の複数の割り当て

1人のユーザー ID に複数の管理者権限を割り当てる場合は、左記の [管理者を追加] 画面で複数の権限をオンにします。

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

ストレージの管理方法 任意

ESM (エンタープライズストレージモデル) について

【ストレージ管理者】 について

[ストレージ] タブの画面右側にある [ストレージ管理者] をクリックすると、ストレージ管理の権限を持つユーザーの一覧が表示されます。

組織が保有するストレージ の配分について

Creative Cloud を割り当てたユーザーの人数分×1TBが組織が保有するストレージの総量です。

ESM (エンタープライズストレージモデル) は、Admin Console に登録されたユーザーのストレージを、企業などの組織単位で管理・統制できる機能です。管理者は、Admin Console の [ストレージ] タブから個々のユーザーのストレージ利用状況を確認できるほか、退職などの理由で Admin Console からユーザーを削除したときに、そのユーザーが残したデータを組織内の別のユーザーに容易に移行できます。

Admin Console にログインして、
[ストレージ] タブを表示しておく

【概要】画面では組織全体のストレージ
総量と使用状況が確認できる

フォルダー	使用状況	割り当て量
Norihiro Nakamura	37.5 MB (0%)	1.0 TB
Ryosuke Sakamoto	0.0 B (0%)	0.0 B

Admin Console に登録されたユーザーのうち、[個人ユーザー]
フォルダーの使用量が多い上位 5 名が表示される

削除されたユーザーのデータを移行する

! Federated ID のユーザーを削除するには、エンタープライズディレクトリとの同期を解除する必要があります。同期を解除すると、画面右側の [ディレクトリのユーザー] [ユーザー] どちらからでも削除が可能となります。

削除するユーザーを指定して [ユーザーを削除]
をクリックする

名前	メール	ID の種類	製品
Sakamoto Ryosuke	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
山本 亮輔	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	
山本 亮輔	ryosuke.sakamoto@adobe.com	Adobe ID	

削除するユーザーのストレージにコンテンツが残っていると、
[ユーザーを削除] の画面が表示される

ここではシステム管理者のメールアドレス
を指定して転送する

ユーザーを削除

ユーザーを削除すると、ユーザープロフィールとフォルダーが削除されます。削除するユーザーが所有していたフォルダーのコンテンツの管理方法を選択してください。
[削除したユーザーのアセットの再利用の詳細](#)

ストレージ移行オプションを選択

指定のユーザーにコンテンツを移管
フォルダーのコンテンツのダウンロードリンクが、下記で指定するユーザーにメールで送信されます。完全に削除されるまで、フォルダーのコンテンツは「ストレージ」タブ/個人ユーザーフォルダー/削除されたユーザーに残ります。

組織内の名前または電子メールでユーザーを選択

後でコンテンツを移管
フォルダーのコンテンツは、「ストレージ」タブ/個人ユーザーフォルダー/削除されたユーザーに30日間残ります。

コンテンツを完全に削除
コンテンツを移管せずに、ユーザーのフォルダは完全に削除されます。

削除されるユーザー (1):
苗字 名前
O B

キャンセル

① 転送先のメールアドレスを入力

② [次へ] をクリック

[ユーザーを削除してコンテンツを転送] の画面で
[ユーザーを削除] をクリックする

**[後でコンテンツを転送]
について**

手順①で [後でコンテンツを
転送] をクリックすると、[ス
トレージ] タブからコンテン
ツの転送設定ができます。

削除されたユーザーのコンテンツを削除する

[ストレージ] タブの [個人ユーザーフォルダー]
画面を表示しておく

① [削除されたユーザー]
タブをクリック

Admin Console 概要 製品 ユーザー パッケージ アカウント ストレージ インサイト ... Admin Console ご利用ガイド CCEI

個人ユーザーフォルダー

個人ユーザーフォルダー
ストレージレポート
ライブラリ

アクティブなユーザー 削除されたユーザー

フォルダー 電子メール サイズ

苗字 名前	電子メール	サイズ
O B		0 B

1 件を選択中 < 前へ 次へ >

② ユーザー名の
ここをクリック

③ [完全に削除] を
クリック

次の画面で [完全に削除] をクリックすると、
ユーザーデータが完全に削除される

**[後でコンテンツを転送]を
選択したユーザーについて**

ユーザーを削除するときに
[後でコンテンツを転送] を
選択したときは、手順③の次
に転送先の指定画面が表示さ
れます。

監査ログの確認方法 任意

監査ログを確認する

! [インサイト] タブでは90日間分のログが保持されます。それ以上のログを保管する場合は、次ページの手順を参考にCSVファイルをダウンロードしましょう。

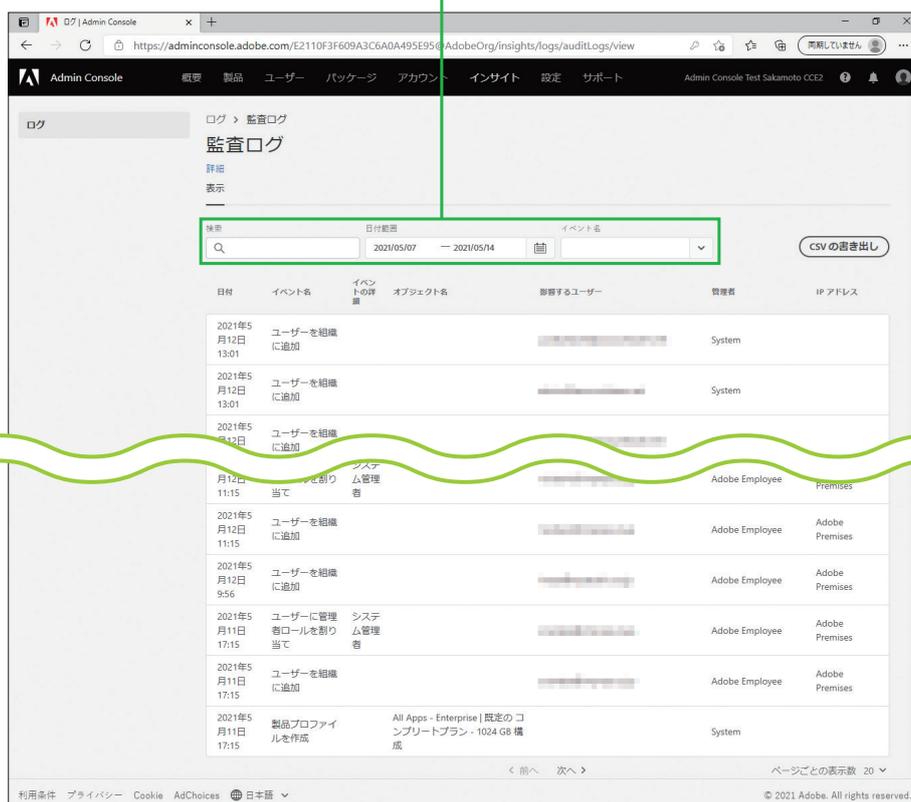
Admin Consoleにログインして、
[インサイト] タブを表示しておく

1 [監査ログ] を
クリック



90日間のログが
表示された

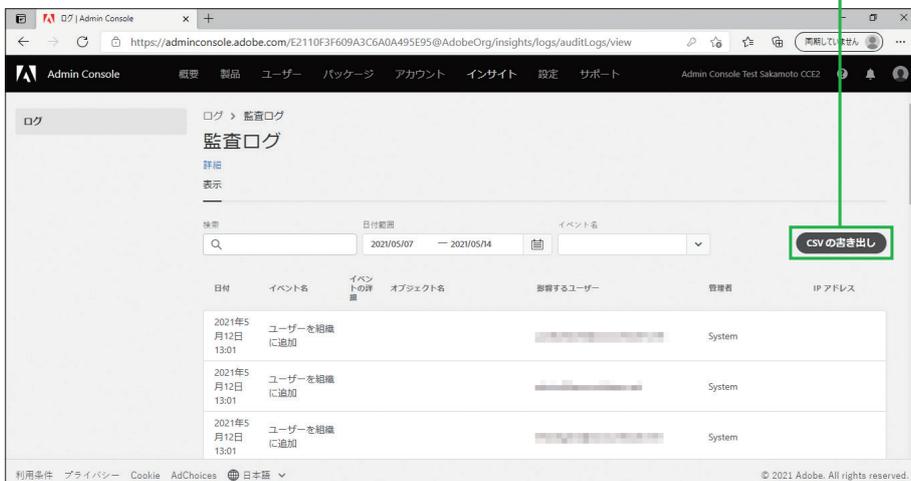
キーワードや日付、イベントによって
検索できる



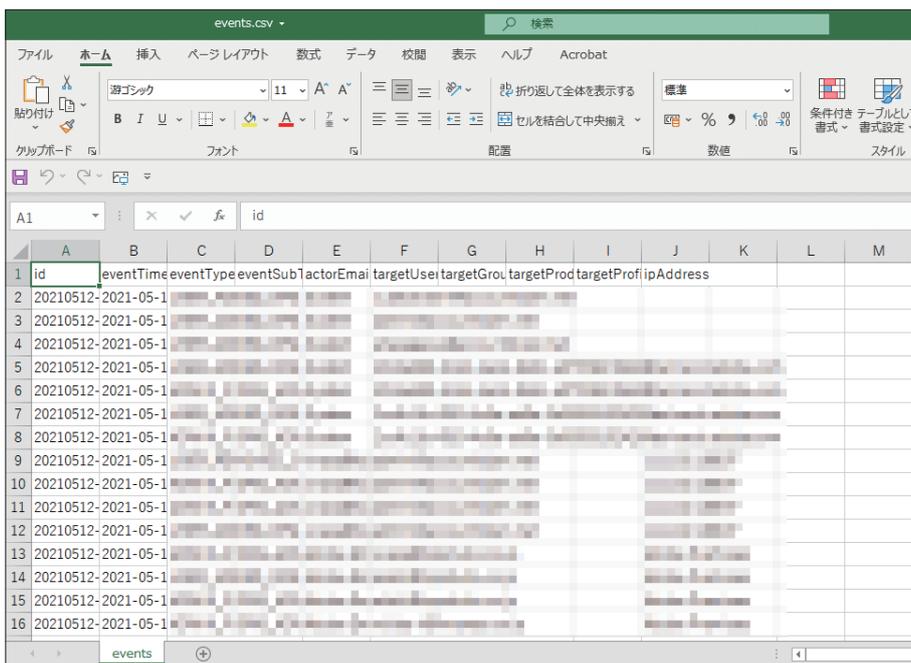
CSV ファイルをダウンロードする

Admin Console にログインして、
[インサイト] タブを表示しておく

① [CSVの書き出し] を
クリック



CSV ファイルがダウンロードされる



1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

アセットの設定方法 任意

アセット設定を確認する

アセット設定の変更について

アセット設定では、Creative CloudおよびDocument Cloud内のファイルなど（アセット）の共有方法や、アクセス可能な範囲を設定できます。詳細は以下のWebページでも確認できます。

▼アセットの設定

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/admin-guide.html/jp/enterprise/using/asset-settings ug.html>

Admin Consoleにログインして、**[設定]** タブを表示しておく

① [アセット設定] をクリック

ここでは、**[共有制限ポリシー]** を許可されたドメインに属するユーザーのみに変更する



② [共有者を組織メンバーおよび信頼できるユーザーに制限] をクリック

次の画面で **[確定]** をクリックすると、**[共有制限ポリシー]** が変更される

続けて、共有を許可するドメインを設定する

③ [許可されたドメイン] タブをクリック



④ [ドメインを追加] をクリック

5 ドメインを入力

ドメインを追加

複数のドメインを登録する場合には、コンマで区切ります。サブドメインを登録する必要はありません。

6 [追加] をクリック

[許可されたドメイン] を
設定できた



[共有オプション] タブをクリックして
画面を下にスクロールする

7 [アクセス要求ポリシー] の
設定を確認

アクセス要求ポリシー

<p>アクセス要求を許可</p> <p>組織内外のユーザーは、共有されていないフォルダーやドキュメントへのアクセスを要求できます。</p>	<p>アクセス要求不可</p> <p>組織内外のユーザーは、共有されていないフォルダーやドキュメントへのアクセスは要求できません。</p>
--	--

暗号化設定について

[設定] タブの画面左側から [暗号化の設定] をクリックすると、アセットなどの暗号化が設定できます。

ただし、一度設定すると再度の変更は不可となるので、注意して設定しましょう。詳細は以下のWebページで確認できます。

▼暗号化の管理

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/encryption.html>

デバイスへのデプロイ (インストール) 方法 **必須**

オンライン経由でユーザー自身がデプロイ (インストール) する

サードパーティ製ツールを使用してデプロイ (インストール) する

アプリをインストールするデバイスの数が多いときは、サードパーティ製ツールを使用してまとめてデプロイ (インストール) すると便利です。

Acrobatのデプロイ (インストール) について

AcrobatおよびAdobe Readerのみを組織のユーザーに展開するには、[Customization Wizard] というツールを使用します。このツールは、特定の機能を有効/無効にする、製品の使用許諾契約や製品登録の画面表示を制限などの設定をしたうえで、AcrobatおよびAcrobat Readerのインストーラーパッケージを作成できます。[Customization Wizard] の入手方法やパッケージの作成方法についての詳細は、以下のWebページを参照してください。

▼ Adobe Customization Wizardの概要

<https://helpx.adobe.com/jp/acrobat/kb/cq04032234.html>

シングルサインオンについて

ここではSTEP 42で設定したGoogle (Google Workspace) のシングルサインオン画面を紹介しています。ほかのIDプロバイダーを利用した場合は、手順④の画面から各社のログイン画面が表示されます。

管理者がAdmin Consoleで製品にユーザーを追加しておく

アドビからユーザーに届いたメールを表示しておく

今すぐコンプリートプランをご利用いただけます

Admin Console Test Sakamoto CCE の管理者により、コンプリートプランのアクセス権が付与されました。

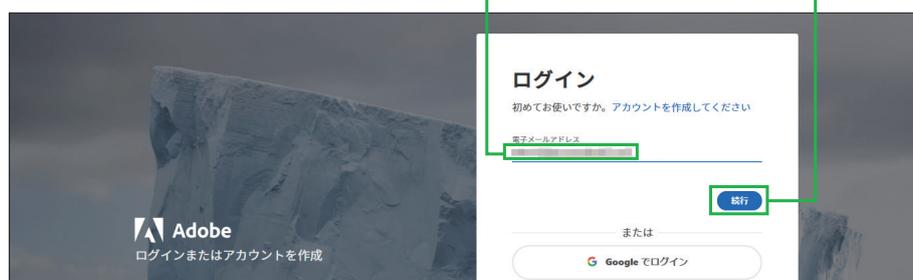
Adobe コンプリートプランの使用を開始するには、下の「使用開始」ボタンをクリックし、メールアドレス [redacted] を使用してアドビにログインします。アドビアカウントをお持ちでない場合は、作成するように求められます。既にアドビアカウントをご利用の場合、グループのアクセス権を利用するには、一度ログアウトしてから再度ログインしてください。

使用開始

① [使用開始] をクリック

② Federated IDとして登録したメールアドレスを入力

③ [続行] をクリック



Googleのログイン画面が表示された

④ 手順①で入力したFederated IDと同じメールアドレスを入力

⑤ [次へ] をクリック



1

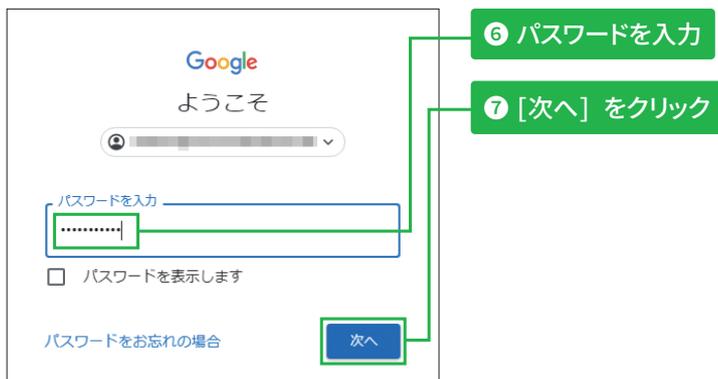
2

3

4

5

6



アドビの Web ページが
表示された

ここでは、Creative Cloudのアプリを
デプロイ (インストール) する



8 [Creative Cloud] の [開く] をクリック

Creative Cloud の
ページが表示された

9 [アプリ] タブ
をクリック

インストールするアプリの
[インストール] をクリックする



Windows にパッケージをデプロイ (インストール) する

Admin Consoleにログインして、[パッケージ] タブを
表示しておく

1 [ダウンロード] を
クリック

! Windows 用に作成
したパッケージをダウン
ロードしましょう。



ダウンロードが終了するまでしばらく待つ

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

シングルサインオンについて

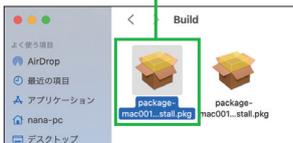
ここではSTEP 34で設定したGoogle (Google Workspace)のシングルサインオン画面を紹介しています。ほかのIDプロバイダーを利用した場合は、手順⑦の画面から各社のログイン画面が表示されます。

Macへのデプロイ (インストール) について

前ページの手順①を参考にMac用のパッケージをダウンロードして解凍した後、次のように操作します。

パッケージの [Build] フォルダを表示する

① [○○ (パッケージ名) _Install.pkg] をダブルクリック

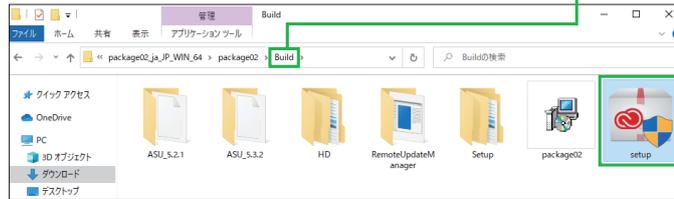


画面の指示に従って、インストールを進める

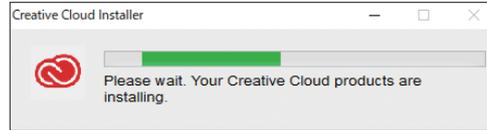
[アプリケーション] - [Adobe Creative Cloud] フォルダを開く

ダウンロードしたzip ファイルを展開しておく

[Build] フォルダを開く



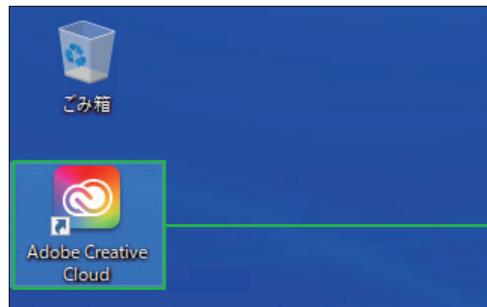
② [setup] をダブルクリック



デプロイ (インストール) が開始されるので、完了するまで待つ



③ [OK] をクリック



④ [Adobe Creative Cloud] をダブルクリック

[Adobe Creative Cloud] のアイコンをダブルクリックする

⑤ Federated IDとして登録したメールアドレスを入力

⑥ [続行] をクリック

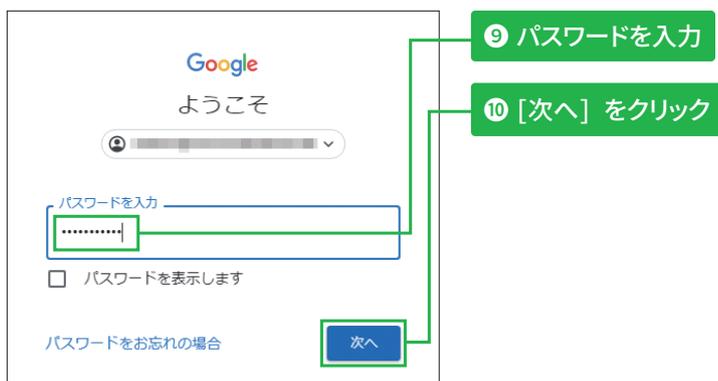


Googleのログイン画面が表示された

⑦ 手順⑤で入力したFederated IDと同じメールアドレスを入力

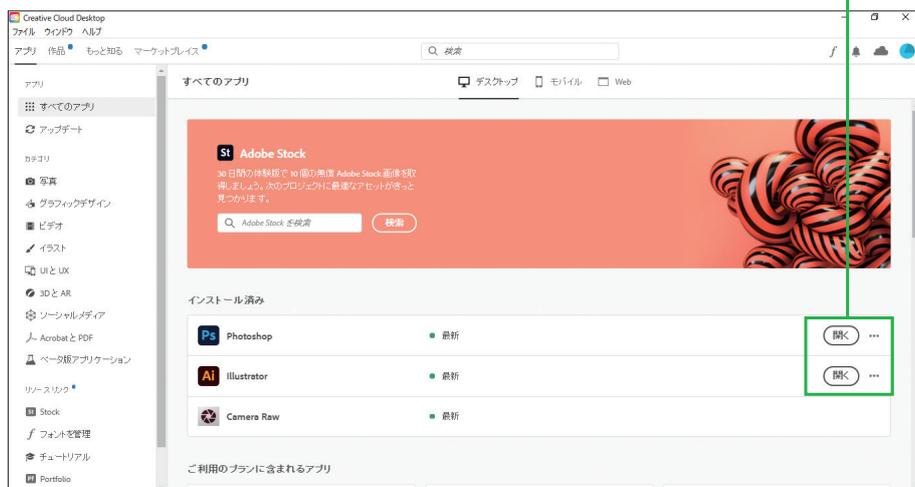
⑧ [次へ] をクリック





Creative Cloud デスクトップアプリが
起動した

[開く] をクリックすると、
アプリを起動できる



セルフサービスパッケージ を使ったデプロイ（インス トール）について

セルフサービスパッケージ
の場合は、Creative Cloud
デスクトップアプリのみが
デプロイされます。ログイン
後、Creative Cloud デスク
トップアプリの [すべての
アプリ] をクリックし、イン
ストールするアプリの [イン
ストール] をクリックして
ユーザー自身でデプロイ
します。



COLUMN Universal Windows Platform アプリケーションについて

Adobe XD、Fresco などの Universal Windows Platform アプリケーションには、インストールを行ったユーザーのみが利用できるという特徴があります。これはマイクロソフトアカウントとアップストアによるライセンスの管理による制約です。これを回避するために次のいずれかの方法で展開を行います。詳細は各 Web ページを参照してください。

▼ Configuration Manager で Windows アプリケーションを作成する

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/mem/configmgr/apps/get-started/creating-windows-applications>

▼ DISM を使用してアプリをプレインストールする | Microsoft Docs

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/manufacture/desktop/preinstall-apps-using-dism>

1

2

3

4

5

6

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

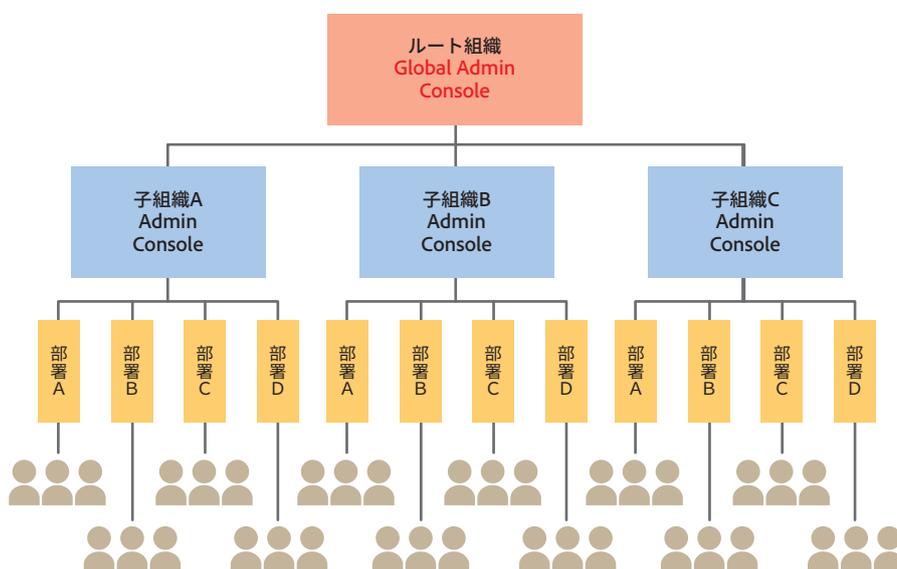
Global Admin Console について

Global Admin Console の特徴

Global Admin Console の 利用に最適な組織について

多国籍企業や教育コンソーシアム、大規模な学区、大規模な政府機関などでの利用に適しており、既存の Admin Console を組織図のような階層構造に組み込んで利用します。

Global Admin Console は、Admin Console を多数利用している組織や、メインの Admin Console を複数のコンソールに分割したい複雑な構造を持つ組織に最適です。Global Admin Console を導入する際、既存の Admin Console の置き換えや変更は不要で、ルートコンソールとして階層構造の作成と購入に焦点を当てたものとなります。



Global Admin Console の主な利点について

●管理の委任

アドビ製品の使用とクラウドストレージの一部の管理を部門や部署などに委任でき、管理作業が集中することを回避できます。

●組織の作成

事業体ごとに組織を作成または削除することで、組織階層を形成できます。

●リソースの分配

組織にリソースや製品ライセンスを分配したり、製品リソースを割り当てたりできます。

●表示の制限

管理者権限によって表示できるユーザーから、管理者の直接の領域内にいるユーザーを表示できないように制限するなど、複数のグループの間での表示を制限できます。

●セルフサービス制御

組織のディレクトリシステムにある構造を反映し、Admin Consoleの組織構造をセルフサービスで制御できます。これにより、組織階層を設定できます。

●管理センターの作成

指定された管理者グループが、社内の組織コンポーネントまたはプロジェクトのアドバイザーを管理できる管理センターを作成し、組織の管理者を管理できます。

●ポリシーの定義

ポリシーを定義し、組織に適用できます。

●作成、編集、削除

製品プロファイルやユーザーグループを作成、編集、削除できます。

●書き出し

組織に関するレポートを作成できます。

●読み込み

組織の更新情報や組織階層の構造を読み込むことができます。

契約ステータスの通知について

子組織内のETLA契約のステータスに関する通知が受け取れます。Global Admin Consoleのアプリ内バナーに、子組織の契約についての情報（期限切れ間近、期限切れ、非アクティブ）が表示されます。

1

2

3

4

5

6

基本的な管理タスクについて

Global Admin ConsoleとAdmin Consoleの管理内容は、表の通りです。

●Global Admin ConsoleとAdmin Consoleの管理タスク

管理内容	Global Admin Console	Admin Console
子組織の作成、親の変更、削除	○	×
複数の組織の操作	○	×
管理者の管理	1つまたは複数の組織の場合	×
	1つの組織の場合	○
製品プロファイルとユーザーグループの管理	○	○
ポリシーの定義と管理	○	×
複数の組織に対する製品の割り当て	○	×
ユーザーへの製品の割り当て	×	○
ユーザーの管理	×	○
パッケージの管理	×	○
ドメインとディレクトリの設定	×	○
エンタープライズストレージと暗号化の管理	×	○

Adobe ID

Enterprise ID

Federated ID

グローバル管理の導入方法

グローバル管理を推奨する組織について

所属する組織が次の基準に1つ以上当てはまる場合、グローバル管理の導入をおすすめします。

- ・複数のAdmin Consoleを整理、管理し、全体の可視性を高めたい
- ・個別に管理できるコンソールへの分割を検討している
- ・複数の契約を管理している
- ・子組織間でID構成を分配または一元管理する必要がある
- ・購入したリソースを分割し、企業内のいろいろな場所で個別の担当者または管理者が管理を行うことを検討している
- ・異なるアドビ製品、地域、または組織に特化した管理者がいて、お互いに干渉しない環境が構築されている

グローバル管理者の役割について

Global Admin Consoleを管理するには、グローバル管理者の権限が必要です。Admin Consoleを管理するシステム管理者とは異なります。主な役割は以下の通りです。

- ・Global Admin Consoleの階層に追加されたAdmin Console全体について、アドビの総投資額のグローバルな状況を表示
- ・複数のAdmin Console間で、ライセンスとリソースの割り当て、および使用状況を監視
- ・Admin Consoleまたは組織の作成
- ・ルートまたは親のAdmin Consoleから、階層内の下にある子のAdmin Consoleへの製品ライセンス割り当て

なお、グローバル管理者は製品を子のAdmin Consoleに割り当てることはできませんが、ユーザーに割り当てることはできません。そのほかオプションとして、階層内の任意のAdmin Consoleに組織ポリシーを適用します。

Global Admin Consoleへのアクセスについて

Global Admin Consoleへのアクセスは、アドビ担当者に相談してから、次の手順で行います。

① Admin Consoleにログインし、サポート／サポートの概要に移動する

② [ケースを作成] をクリックする

[ケースを作成] ウィンドウが表示されます。

③ [ユーザーとライセンスの管理] を選択する

④ 表示されたフォームに記入する

フォームに次のような詳細を指定します。

- ・ 問題の優先度を選択する = P4 - 軽微
- ・ 問題の影響を定量化する = 中程度
- ・ 問題を要約する = <組織名> が Global Admin Console へのアクセスを要求しています

⑤ 「発生している問題の詳細を説明する」フィールドに情報を入力する

次の詳細情報を追加して、組織のGlobal Admin Consoleへのアクセスを希望します。

- ・ ルート（最上位）組織として指定するAdmin Consoleの名前とコンソールID（URLに含まれる@AdobeOrgの前にある一連の数字と文字）。新規リクエストの場合は、希望する名前を指定
- ・ グローバル管理者の役割を割り当てたい現在のシステム管理者（最低でも1人）。管理者は後から追加可能
- ・ アドビ担当者またはカスタマーサクセスマネージャーの名前とメールアドレス

! Global Admin Consoleへのアクセスの依頼は、ルートとなるAdmin Consoleからサポートケースを送信します。

! 新しいコンソールが優先パスである場合があります。このルート組織は後で変更することが難しいため、慎重に選択する必要があります。詳細はアドビ担当者に相談しましょう。

発生している問題の詳細を説明する
初めて発生したのはいつか、発生の原因となったワークフロー、および再現手順を含めてください。

Customer Name (First Name Last Name)

IMS Org ID (to be root org) (ABCDEFGHIJKLMNQRSTUUVW@AdobeOrg)

Org Name(to be root org):
(Console Name)

Global Admin(s): (First Name Last Name)
Email: (Admin@mycompany.com)

CSM Name:
(First Name Last Name)
Email: (CSM@adobe.com)

COLUMN 組織構造の設定と子組織へのリソース割り当てについて

Global Admin Consoleへのアクセス権を取得した後は、組織の設定や構造の編集を実行し、子組織にリソースを割り当てます。詳細は次のWebページを参照してください。

▼ 組織の設定

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/global-admin-set-up-organizations.html>

▼ 組織の編集

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/global-admin-edit-organizations.html>

▼ 製品の割り当て

<https://helpx.adobe.com/jp/enterprise/using/global-admin-allocate-products.html>

